

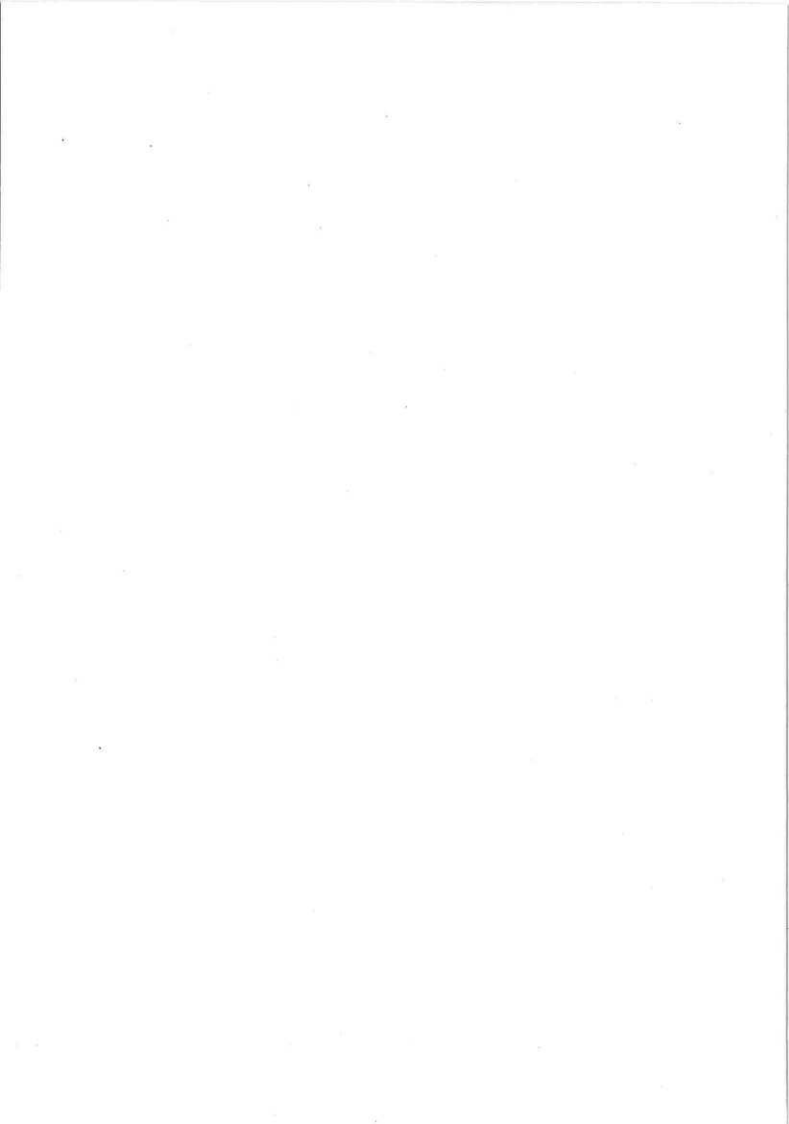
玉名市文化財調査報告 第17集

玉名市内遺跡調査報告書Ⅳ

平成17・18年度の調査

平成20年(2008)3月

玉名市教育委員会



ご挨拶

玉名市は、縄文時代から今日に至るまで長い歴史を持ち、豊富な文化財が所在する地域です。近年は、国道208号玉名バイパスや九州新幹線の整備も進み、県北部における政治経済・教育文化・観光の中心都市としてさらなる発展を遂げようとしています。

このような中で、玉名市教育委員会ではさまざまな開発事業との調整を図り、発掘調査等の円滑な遂行のため、専門職員の増員を図るなどの体制の充実に努めてまいりました。九州新幹線をはじめとする各事業に対応するため、玉名市内に所在する文化財の状況把握にも常に取り組み、埋蔵文化財行政の改善・充実に努力しているところであります。また、その成果の公開・活用を通じて、広く教育・文化の発展に寄与できればと考えております。

本書は、平成17・18年度に実施した、各種開発に伴う試掘確認調査などの成果をまとめたものです。本書が市民の方々の埋蔵文化財に対する理解の一助となり、また、学術研究にも広くご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査、報告書作成にあたって各方面で多くの方々にご指導、ご協力を賜ったことに対しまして厚くお礼を申し上げます。

平成20年3月31日

玉名市教育委員会

教育長 菊川 茂男

例 言

1. 本書は、旧玉名市教育委員会及び現玉名市教育委員会が平成17年・18年の2カ年に国・県の補助を受けて実施した、玉名市内遺跡の調査報告書である。
2. 調査は、旧玉名市教育委員会社会教育課末永 崇、齋父雅史、古閑敬士及び、現玉名市教育委員会文化課竹田宏司、兵谷有利、田中康雄、中村安宏、末永 崇、齋父雅史、荒木隆宏が担当した。
3. 本書掲載遺構及びトレンチ等の実測図は、各調査担当者が作成した。
4. 遺物の実測は、田中が行い、製図は、田中、早川イツエ、権藤 功が行った。
5. 調査時の写真撮影は、各調査担当者が行い、遺物写真撮影は田中が行った。
6. 挿図に使用している座標は、玉名市役所土木課の地籍図から転記した。座標値は世界測地系の第2座標系に基づいており、方位は特に記載がない限り座標北を示す。
7. 同一年度に同遺跡の調査を複数行っている場合には、年度毎に、アルファベットによる調査地点名を付している。
8. 調査地の地番については、原則として文化財保護法に基づく届出・通知の際の地番を表示している。いくつかの調査地点については、分筆等により、新たな地番が付されている場合がある。
9. 出土遺物の整理作業は、田中が担当し、玉名市文化財整理室で行った。
10. 出土遺物は、玉名市文化財整理室で保管している。
11. 本書の執筆は、各担当者が調査後に作成した報文をもとに田中が校正・補足した。編集は田中が担当した。

本文目次

ご挨拶

例言

本文目次

挿図目次

写真目次

I 調査の概要	1
1 調査の体制	1
2 調査の方法	1
3 調査総括	2
II 平成17年度の調査	7
1 玉名平野条里跡A地点	9
2 高岡原遺跡A地点	10
3 蓮華遺跡	11
4 上小田古屋敷遺跡	12
5 田島遺跡	13
6 築地館跡	18
7 高岡原遺跡B地点	20
8 繁根木遺跡群A地点	25
9 高瀬御茶屋跡	26
10 立願寺廃寺	30
11 立願寺大塚古墳	35
12 伊倉宮の後遺跡	36
13 繁根木遺跡群B地点	38
14 凸版印刷工場予定地	39
15 川部田遺跡	41
16 中土西遺跡A地点	42
17 高岡原遺跡C地点	45
18 玉名平野条里跡B地点	46
19 玉名平野条里跡C地点	47
20 岩崎原遺跡	48
21 山田神社門前遺跡	51
22 亀甲遺跡	53
23 中ん城遺跡	54
24 中土西遺跡B地点	56
25 大塚・惣萩遺跡	57
26 高岡原遺跡D地点	58

27 春出遺跡	60
28 年の神遺跡	61
29 菊池川水運・水制調査	63

III 平成18年度の調査

1 年の神遺跡	69
2 玉名平野条里跡A地点	77
3 京塚遺跡	78
4 玉名平野条里跡B地点	80
5 高瀬本町通遺	81
6 上ノ辻遺跡	83
7 繁根木遺跡群	86
8 蓮華遺跡	88
9 築地東遺跡	90
10 今泉遺跡A地点	92
11 立願寺廃寺	94
12 山田松尾平遺跡	96
13 岩崎原遺跡	97
14 中北アカハゲ古墳	98
15 今泉遺跡B地点	101
16 高岡原遺跡	103
17 五郎丸遺跡A地点	104
18 玉名平野条里跡C地点	105
19 備中遺跡	116
20 吉丸西遺跡	117
21 古閑遺跡	119
22 中道遺跡	129
23 上小田宮の前遺跡	131
24 両迫間日渡遺跡	132
25 寺田久保遺跡	133
26 五郎丸遺跡B地点	134
27 大野下ホームセンター予定地	135
28 山田山口遺跡	136
29 中土西遺跡	137
30 伊倉南方ホームセンター予定地	138
31 玉名高校校庭遺跡	139
32 石貫ナギノ横穴群	140
33 ジュルクン谷製鉄跡	142

挿 図 目 次

平成17年度分

第 1 図	平成17年度調査地位位置図……………	3
第 2 図	平成18年度調査地位位置図……………	4
第 3 図	玉名平野条里跡A地点位置図……………	9
第 4 図	玉名平野条里跡A地点トレンチ 配置図……………	9
第 5 図	玉名平野条里跡A地点土層図……………	9
第 6 図	高岡原遺跡A地点位置図……………	10
第 7 図	高岡原遺跡A地点調査区配置図……………	10
第 8 図	蓮華遺跡調査地位位置図……………	11
第 9 図	蓮華遺跡トレンチ配置図……………	11
第10 図	蓮華遺跡土層図……………	11
第11 図	上小田古屋敷遺跡調査地位位置図……………	12
第12 図	上小田古屋敷遺跡トレンチ 配置図……………	12
第13 図	上小田古屋敷遺跡土層図……………	12
第14 図	田島遺跡調査地位位置図……………	13
第15 図	田島遺跡トレンチ配置図……………	13
第16 図	田島遺跡土層図……………	13
第17 図	田島遺跡調査区配置図……………	14
第18 図	田島遺跡遺構配置図……………	15
第19 図	田島遺跡S-01実測図……………	16
第20 図	田島遺跡出土遺物実測図……………	16
第21 図	築地館跡調査地位位置図……………	18
第22 図	築地館跡トレンチ配置図……………	18
第23 図	築地館跡トレンチ実測図……………	18
第24 図	築地館跡出土遺物実測図……………	19
第25 図	高岡原遺跡B地点位置図……………	20
第26 図	高岡原遺跡B地点トレンチ 配置図……………	20
第27 図	高岡原遺跡B地点トレンチ 実測図……………	21
第28 図	高岡原遺跡B地点2トレンチ内 遺構配置図……………	21
第29 図	高岡原遺跡B地点 S-01・02実測図……………	22
第30 図	高岡原遺跡B地点 S-03・04実測図……………	23
第31 図	高岡原遺跡B地点 S-05実測図……………	24
第32 図	高岡原遺跡B地点 出土遺物実測図……………	24
第33 図	繁根木遺跡群A地点位置図……………	25
第34 図	繁根木遺跡群A地点トレンチ 配置図……………	25
第35 図	繁根木遺跡群A地点トレンチ 実測図……………	25
第36 図	高瀬御茶屋跡調査地位位置図……………	26
第37 図	高瀬御茶屋跡トレンチ 配置図……………	26
第38 図	高瀬御茶屋跡トレンチ 実測図1……………	27
第39 図	高瀬御茶屋跡トレンチ 実測図2……………	28
第40 図	立願寺廃寺調査地位位置図……………	30
第41 図	立願寺廃寺トレンチ配置図……………	30
第42 図	立願寺廃寺トレンチ実測図……………	31
第43 図	立願寺廃寺出土遺物 実測図1……………	32
第44 図	立願寺廃寺出土遺物 実測図2……………	33
第45 図	立願寺廃寺出土遺物 実測図3……………	34
第46 図	立願寺大塚古墳調査地 位置図……………	35
第47 図	立願寺大塚古墳トレンチ 配置図……………	35
第48 図	立願寺大塚古墳トレンチ 実測図……………	35
第49 図	伊倉宮の後遺跡調査地 位置図……………	36
第50 図	伊倉宮の後遺跡調査範囲図……………	36

第51図 伊倉宮の後遺跡石積・土層断面 実測図……………	37	第74図 岩崎原遺跡トレンチ実測図2……………	50
第52図 紫根木遺跡群B地点位置図……………	38	第75図 岩崎原遺跡出土遺物実測図……………	50
第53図 紫根木遺跡群B地点トレンチ 配置図……………	38	第76図 山田神社門前遺跡調査地 位置図……………	51
第54図 凸版印刷工場予定地調査地 位置図……………	39	第77図 山田神社門前遺跡トレンチ 配置図……………	51
第55図 凸版印刷工場予定地トレンチ 配置図……………	39	第78図 山田神社門前遺跡出土遺物 実測図……………	51
第56図 凸版印刷工場予定地トレンチ 実測図……………	40	第79図 山田神社門前遺跡トレンチ 実測図……………	52
第57図 川部田遺跡調査地位置図……………	41	第80図 亀甲遺跡調査地位置図……………	53
第58図 川部田遺跡トレンチ配置図……………	41	第81図 亀甲遺跡トレンチ配置図……………	53
第59図 川部田遺跡トレンチ実測図……………	41	第82図 亀甲遺跡トレンチ実測図……………	53
第60図 中土西遺跡A地点位置図……………	42	第83図 中ん城遺跡調査地位置図……………	54
第61図 中土西遺跡A地点トレンチ 配置図……………	42	第84図 中ん城遺跡調査区配置図……………	54
第62図 中土西遺跡A地点トレンチ 実測図1……………	43	第85図 中ん城遺跡 遺構配置図・土層断面図……………	55
第63図 中土西遺跡A地点トレンチ 実測図2……………	44	第86図 中ん城遺跡出土遺物実測図……………	55
第64図 高岡原遺跡C地点位置図……………	45	第87図 中土西遺跡B地点位置図……………	56
第65図 高岡原遺跡C地点トレンチ 配置図……………	45	第88図 中土西遺跡B地点トレンチ 配置図……………	56
第66図 玉名平野条里跡・両迫間日渡遺跡 位置図……………	46	第89図 中土西遺跡B地点土層断面図……………	56
第67図 玉名平野条里跡・両迫間日渡遺跡 トレンチ配置図……………	46	第90図 大塚・惣萩遺跡調査地位置図……………	57
第68図 玉名平野条里跡C地点 位置図……………	47	第91図 大塚・惣萩遺跡トレンチ 配置図……………	57
第69図 玉名平野条里跡C地点 トレンチ配置図……………	47	第92図 大塚惣萩遺跡土層断面図……………	57
第70図 玉名平野条里跡C地点 トレンチ実測図……………	47	第93図 高岡原遺跡D地点位置図……………	58
第71図 岩崎原遺跡調査地位置図……………	48	第94図 高岡原遺跡D地点トレンチ 配置図……………	58
第72図 岩崎原遺跡トレンチ配置図……………	48	第95図 高岡原遺跡D地点トレンチ 実測図1……………	58
第73図 岩崎原遺跡トレンチ実測図1……………	49	第96図 高岡原遺跡D地点トレンチ 実測図2……………	59
		第97図 春出遺跡調査地位置図……………	60
		第98図 春出遺跡トレンチ配置図……………	60
		第99図 春出遺跡土層断面図……………	60
		第100図 年の神遺跡調査地位置図……………	61

第164図	五郎丸遺跡A地点トレンチ 実測図	104	第189図	古閑遺跡出土遺物実測図2	123
第165図	玉名平野条里跡C地点位置図	106	第190図	古閑遺跡出土遺物実測図3	124
第166図	玉名平野条里跡C地点トレンチ 配置図	106	第191図	古閑遺跡出土遺物実測図4	125
第167図	玉名平野条里跡C地点トレンチ 土層断面図	107	第192図	古閑遺跡出土遺物実測図5	126
第168図	玉名平野条里跡C地点調査Ⅰ区 平面図・土層断面図	108	第193図	古閑遺跡出土遺物実測図6	127
第169図	玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区 平面図・土層断面図	108	第194図	古閑遺跡出土遺物実測図7	128
第170図	玉名平野条里跡C地点調査Ⅲ区 平面図・土層断面図	108	第195図	中道遺跡調査地位位置図	129
第171図	玉名平野条里跡C地点 出土遺物実測図	109	第196図	中道遺跡トレンチ配置図	129
第172図	玉名平野条里跡C地点 出土遺物実測図2	110	第197図	中道遺跡土層断面図1	129
第173図	玉名平野条里跡C地点 出土遺物実測図3	111	第198図	中道遺跡土層断面図2	130
第174図	玉名平野条里跡C地点 出土遺物実測図4	112	第199図	上小田宮の前・上小田古屋敷遺跡 調査地位位置図	131
第175図	玉名平野条里跡C地点 出土遺物実測図5	113	第200図	両迫間日渡遺跡B地点位置図	132
第176図	玉名平野条里跡C地点 出土遺物実測図6	114	第201図	両迫間日渡遺跡B地点トレンチ 配置図	132
第177図	備中遺跡調査地位位置図	116	第202図	両迫間日渡遺跡B地点 土層断面図	132
第178図	備中遺跡トレンチ配置図	116	第203図	寺田久保遺跡調査地位位置図	133
第179図	備中遺跡土層断面図	116	第204図	寺田久保遺跡トレンチ配置図	133
第180図	吉丸西遺跡調査地位位置図	117	第205図	第寺田久保遺跡土層断面図	133
第181図	吉丸西遺跡トレンチ配置図	117	第206図	五郎丸遺跡B地点位置図	134
第182図	吉丸西遺跡トレンチ実測図1	117	第207図	五郎丸遺跡B地点トレンチ 配置図	134
第183図	吉丸西遺跡トレンチ実測図2	118	第208図	五郎丸遺跡B地点土層断面図	134
第184図	古閑遺跡調査地位位置図	119	第209図	大野下ホームセンター予定地 位置図	135
第185図	古閑遺跡トレンチ配置図	119	第210図	大野下ホームセンター予定地 トレンチ配置図	135
第186図	古閑遺跡トレンチ実測図1	120	第211図	大野下ホームセンター予定地 土層断面図	135
第187図	古閑遺跡トレンチ実測図2	121	第212図	山田山口遺跡調査地位位置図	136
第188図	古閑遺跡出土遺物実測図1	122	第213図	山田山口遺跡トレンチ配置図	136
			第214図	山田山口遺跡土層断面図	136
			第215図	中土西遺跡調査地位位置図	137
			第216図	中土西遺跡トレンチ配置図	137
			第217図	中土西遺跡土層断面図	137

第218図	伊倉南方ホームセンター予定地 位置図……………138
第219図	伊倉南方ホームセンター予定地 トレンチ配置図……………138
第220図	伊倉南方ホームセンター予定地 土層断面図……………138
第221図	玉名高校校庭遺跡調査地 位置図……………139
第222図	玉名高校校庭遺跡トレンチ 配置図……………139
第223図	玉名高校校庭遺跡土層断面図……………139
第224図	石貫ナギノ横穴群位置図……………140
第225図	石貫ナギノ横穴群測量図……………141
第226図	ジュルクン谷製鉄跡調査地 位置図……………142
第227図	ジュルクン谷製鉄跡測量図……………143

写真目次

平成17年度分

写真 1	調査風景1…………… 2
写真 2	調査風景2…………… 2
写真 3	調査風景3…………… 2
写真 4	高岡原遺跡A地点全景1…………… 10
写真 5	高岡原遺跡A地点全景2…………… 10
写真 6	上小田古屋敷遺跡調査地全景…………… 12
写真 7	田島遺跡全景…………… 17
写真 8	田島遺跡S-01検出状況…………… 17
写真 9	高岡原遺跡B地点2T全景…………… 20
写真 10	高瀬御茶屋跡調査地全景…………… 29
写真 11	高瀬御茶屋跡1T遺構検出状況…………… 29
写真 12	立願寺廃寺調査地全景…………… 30
写真 13	立願寺廃寺4T遺構検出状況…………… 30
写真 14	伊倉宮の後遺跡調査地全景…………… 36
写真 15	伊倉宮の後遺跡調査地近景…………… 36
写真 16	伊倉宮の後遺跡1T土層…………… 37
写真 17	伊倉宮の後遺跡2T土層…………… 37
写真 18	繁根木遺跡群B地点調査地全景…………… 38

写真 19	繁根木遺跡群B地点1T全景…………… 38
写真 20	繁根木遺跡群B地点2T全景…………… 38
写真 21	凸版印刷工場予定地全景…………… 39
写真 22	凸版印刷工場予定地7T土層…………… 39
写真 23	中土西遺跡A地点全景…………… 42
写真 24	高岡原遺跡C地点全景…………… 45
写真 25	高岡原遺跡C地点遺構検出状況…………… 45
写真 26	岩崎原遺跡調査地全景…………… 48
写真 27	岩崎原遺跡1T遺構検出状況…………… 48
写真 28	山田神社門前遺跡調査地全景…………… 51
写真 29	中ん城遺跡調査地遠景…………… 54
写真 30	中ん城遺跡調査地全景…………… 54
写真 31	中土西遺跡B地点全景…………… 56
写真 32	中土西遺跡B地点2T全景…………… 56
写真 33	年の神遺跡調査地全景1…………… 61
写真 34	年の神遺跡調査地全景2…………… 61
写真 35	菊池川流域港施設…………… 63
写真 36	菊池川流域脇施設…………… 63
写真 37	菊池川流域列施設…………… 63

平成18年度分

写真 38	年の神遺跡S-01検出状況…………… 76
写真 39	年の神遺跡調査区全景…………… 76
写真 40	玉名平野条里跡A地点全景…………… 77
写真 41	玉名平野条里跡A地点1T全景…………… 77
写真 42	高瀬本町通遺跡遺構検出状況1…………… 81
写真 43	高瀬本町通遺跡遺構検出状況2…………… 81
写真 44	上ノ辻遺跡調査地全景1…………… 83
写真 45	上ノ辻遺跡調査地全景2…………… 83
写真 46	上ノ辻遺跡5T遺構検出状況…………… 85
写真 47	上ノ辻遺跡6T遺物出土状況1…………… 85
写真 48	上ノ辻遺跡6T遺物出土状況2…………… 85
写真 49	繁根木遺跡群調査地全景…………… 86
写真 50	蓮華遺跡調査地全景…………… 88
写真 51	蓮華遺跡4T遺構検出状況…………… 88
写真 52	築地東遺跡調査地全景…………… 91
写真 53	築地東遺跡2T遺構検出状況…………… 91
写真 54	築地東遺跡3T遺構検出状況…………… 91

写真55	築地東遺跡5T遺構検出状況	91
写真56	今泉遺跡A地点全景1	92
写真57	今泉遺跡A地点全景2	92
写真58	立願寺廃寺調査地全景	94
写真59	立願寺廃寺4T遺構検出状況	94
写真60	中北アカハゲ古墳全景1	98
写真61	中北アカハゲ古墳全景2	98
写真62	玉名平野条里跡C地点全景	105
写真63	玉名平野条里跡C地点 調査Ⅰ区全景	105
写真64	玉名平野条里跡C地点 調査Ⅱ区全景	105
写真65	玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区 S-01北側遺物出土状況1	114
写真66	玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区 S-01北側遺物出土状況2	114
写真67	玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区 S-01北側遺物出土状況近影	115
写真68	玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区 S-01南側遺物出土状況	115
写真69	玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区 S-01南側遺物出土状況近影	115
写真70	玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区 S-01南側炭化物検出状況	115
写真71	玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区 S-01完掘状況1	115
写真72	玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区 S-01完掘状況2	115
写真73	備中遺跡調査地全景	116
写真74	古閑遺跡調査地全景	119
写真75	古閑遺跡住居跡検出状況	128
写真76	古閑遺跡住居跡炉跡検出状況	128
写真77	古閑遺跡住居跡遺物出土状況1	128
写真78	古閑遺跡住居跡遺物出土状況2	128
写真79	上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡 調査地全景	131

写真80	上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡 遺構検出状況	131
写真81	岡迫間日渡遺跡B地点 1T土層断面	132
写真82	五郎丸遺跡B地点3T全景	134
写真83	五郎丸遺跡B地点3T土層断面	134
写真84	伊倉南方ホームセンター予定地 全景	138
写真85	玉名高校校庭遺跡調査地全景	139
写真86	石貫ナギノ横穴群所在地遺景	140
写真87	ジュルクン谷製鉄跡近影	142
写真88	ジュルクン谷製鉄跡遠景	143
写真89	ジュルクン谷製鉄跡 遺物散布状況	143
写真90	ジュルクン谷製鉄跡表探遺物	143
写真91	ジュルクン谷製鉄跡表探フイゴ羽口	143

表 目 次

第1表	平成17年度市内遺跡調査一覧	5
第2表	平成18年度市内遺跡調査一覧	6
第3表	平成17年度出土遺物観察表	65
第4表	平成18年度出土遺物観察表	144

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の体制

調査及び報告書の作成は、下記の体制により実施している。職員の所属等は、当時のものである。

平成17年度

調査主体 玉名市教育委員会
調査責任 教育長 森 義臣 (11月29日まで)
教育長 菊川茂男 (11月30日から)
調査総括 教育次長 久多見澄夫
(10月2日まで)
教育次長 杉本末敏 (10月3日から)
社会教育課長 西田道彦
(10月2日まで)
文化課長 西田道彦 (10月3日から)
文化係長 竹田宏司 (10月2日まで)
文化財係長 竹田宏司
(10月3日から)

庶務担当 主事 清田静香
調査担当 主任 兵谷有利
主任 田中康雄
主任 中村安宏
主任 末永 崇
主任 齧父雅史
調査員 古閑敬士

平成18年度

調査主体 玉名市教育委員会
調査責任 教育長 菊川茂男
調査総括 教育次長 杉本末敏
文化課長 西田道彦
文化財係長 竹田宏司
庶務担当 主事 清田静香
調査担当 文化財係長 竹田宏司
主任 兵谷有利
主任 田中康雄

主任 中村安宏
主任 末永 崇
主任 齧父雅史
主任 荒木隆宏

平成19年度 (報告書作成)

調査主体 玉名市教育委員会
調査責任 教育長 菊川茂男
調査総括 教育次長 杉本末敏
文化課長 西田道彦
課長補佐 内田秀昭
庶務担当 文化財係長 安田信孝
主事 清田静香
報告書担当 主任 田中康雄

2 調査の方法

試掘確認調査については、重機掘削により幅0.7~1m程度のトレンチを設定しており、重機が使用不可能な場合や、包含層の一部、遺構については人力掘削を行っている。対象面積に対する掘削面積等については特に基準等定めていないが、開発の内容、予想される遺跡の内容、地形等を勘案して適宜設定している。

実測図は、1/20スケールを基本として、平面・断面図を作成している。トレンチの配置図等については、基本的に開発に伴う測量図及び字図等に記入する形をとっている。地形測量図等が必要な場合には、平板及び光波測距儀を使用して、1/100スケールもしくは1/200スケールで作成している。

写真は、通常は35mmカラーネガを用いており、重要な遺構などが確認された場合は35mmモノクロ及びリバーサルフィルムによる撮影を行っている。

3 調査総括

玉名市では、平成11年度より、国・県の補助を受け、各種開発に伴う埋蔵文化財試掘確認調査等を行っている。

平成17年度は、事前審査298件中、文化財保護法第93・94条による届出・通知件数が112件で、うち試掘確認調査27件、発掘調査3件（内1件は平成18年度へ継続）を行い、その他分布調査1件を行った。平成18年度は、事前審査289件中、届出・通知件数が119件で、うち試掘確認調査29件、発掘調査1件を行い、それ以外に測量調査2件を行った。平成17年10月3日に旧玉名市、岱明町、天水町、横島町の1市3町が合併したことにより、届出・通知件数及び試掘確認調査件数が倍増し、また市町合併及び九州新幹線建設の影響により、開発が加速化しているようにも思われる。平成17、18年度に関しては、旧玉名市、岱明町においてのみの調査であったが、今後天水町、横島町における調査も増加するものと想定される。調査件数は、住宅集中地域である玉名町校区、築山校区が最も多く、旧岱明町でも多くの調査を行った。調査原因は、専用住宅、共同住宅建設に伴う小規模なものが大部分であるが、大・中規模店舗建設及び、大型公共事業に伴う確認調査も数件行った。玉名校区では、新幹線新玉名駅周辺整備事業に伴い、約40,000㎡を対象とし、平成17・18年度の2カ年にわたって確認調査を行った。小田校区では、平成18年度に、事業用地造成計画に伴い、約216,000㎡を対象とした確認調査を実施し、平成19年度も調査を継続して行っている。岱明町においては、大規模店舗建設計画に伴い、約87,000㎡を対象として確認調査を実施した。その他、中規模店舗建設、市道拡幅、都市計画街路建設、学校施設建設等の事業に伴い確認調査を実施した。各試掘確認調査及び発掘調査の詳細については後述にゆずる。



写真1 調査風景1

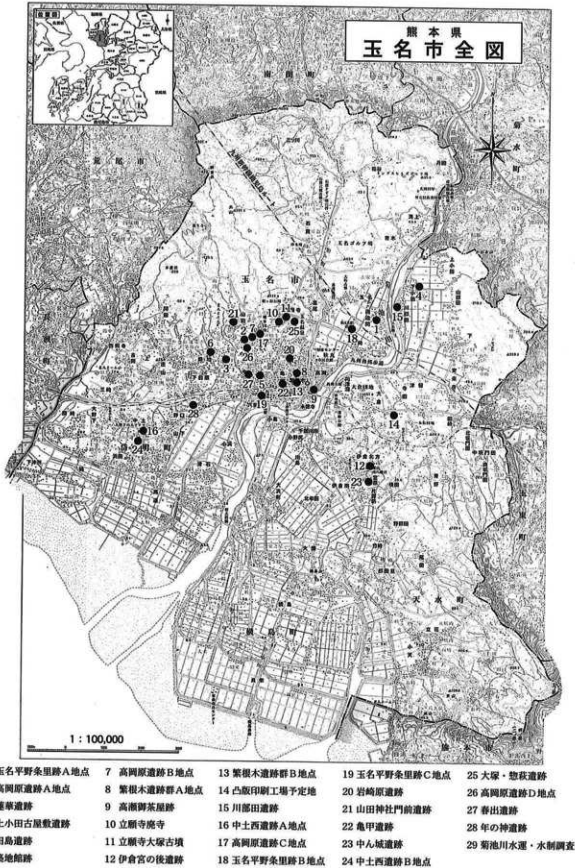


写真2 調査風景2



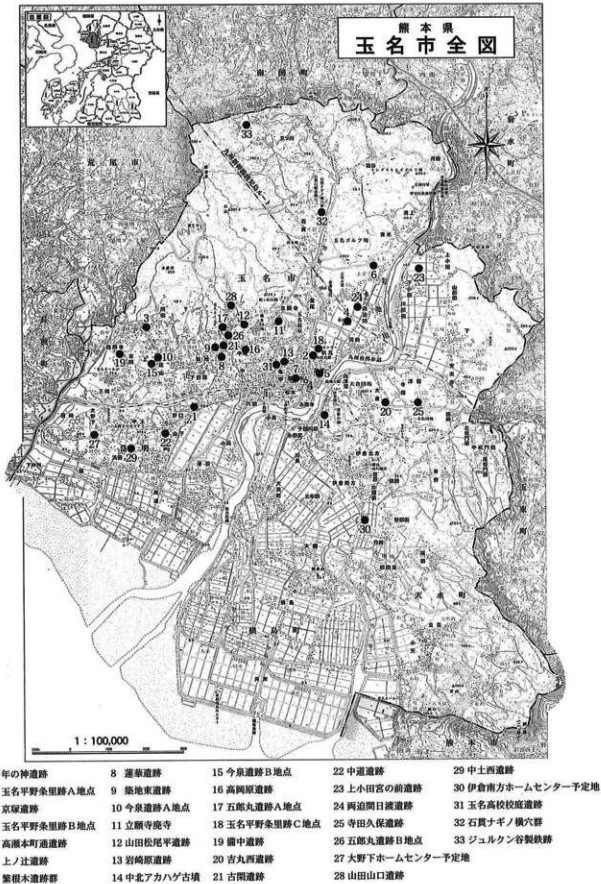
写真3 調査風景3

I 調査の概要



第1図 平成17年度調査地位位置図

I 調査の概要



第2図 平成18年度調査地位置図

I 調査の概要

第1表 平成17年度市内遺跡調査一覧

年度	番号	遺跡名	所在地	面積(m ²)	種別	略号	調査場所	調査期日	担当者	措置	備考
17	1	五名平野系土器A地点	五名900外	1,345.00	確認調査	THU	池内運動場	17年4月14日	米永 崇	慎重工事	16年度から継続
17	2	高岡原遺跡A地点	山田2050-1	1,007.00	発掘調査	TOB	店舗	17年4月26日～7月4日	藤父雅史	—	16年度B地点
17	3	高岡原遺跡	築港2070	1,097.57	確認調査	RNG	共同住宅	17年5月12日	米永 崇	慎重工事	
17	4	上小田古墳群遺跡	山田田90-10外	1,800.14	確認調査	KFY	専用住宅	17年5月12日	米永 崇	慎重工事	
17	5	田島遺跡	中1582-5,1606-2,1605-4	769.28	確認・発掘調査	TJM	共同住宅	17年5月19日～6月24日	古岡敏士	発掘調査	
17	6	築港遺跡	築港111-1	2,673.90	確認調査	TYU	寺院	17年6月9日	米永 崇	慎重工事	
17	7	高岡原遺跡B地点	山田2047-1	787.50	確認調査	TOB	専用住宅	17年5月9日～8月19日	米永・藤父	慎重工事	
17	8	築港水遺跡A地点	築港水64	1,270.53	確認調査	HNG	宅地造成	17年5月26日～8月29日	米永 崇	工事立金	
17	9	高岡原遺跡	水徳寺41-4	3,476.77	確認調査	TOC	倉庫	17年9月13日～9月30日	藤父雅史	慎重工事	
17	10	立願寺庵寺	立願寺1210-4	143.50	確認調査	RGH	車庫	17年10月6日～10月7日	米永 崇	慎重工事	
17	11	立願寺大塚古墳	立願寺大字大塚1087	703.00	確認調査	ROK	鉄塔	17年10月13日～10月14日	米永 崇	慎重工事	
17	12	伊賀宮の池遺跡	伊賀北方字本村遺敷2915	57.00	確認調査	DMA	建設工事	17年10月20日～18年1月12日	米永 崇	慎重工事	
17	13	築港水遺跡B地点	築港水54-11	256.44	確認調査	HNG	専用住宅	17年10月26日～10月27日	米永 崇	慎重工事	
17	14	凸版印刷工場地	大倉山/後62-1	2,438.00	試掘調査	—	工場	17年11月1日～11月2日	米永 崇	慎重工事	
17	15	川原田遺跡	川原田字草屋敷439,441-1	1,714.00	確認調査	KWB	宅地造成	17年11月14日～11月15日	藤父雅史	慎重工事	
17	16	中土西遺跡	伊勢町中土974-2	3,097.15	確認調査	NDN	公民館	17年11月15日～12月21日	中村安宏	慎重工事	
17	17	高岡原遺跡C地点	山田2041-3	291.00	確認調査	TOB	陸橋	17年11月17日	田中康雄	発掘調査	
17	18	五名平野系土器B地点	岡田田317外	40,000.00	確認調査	THU	新幹線駅周辺整備事務所	17年11月21日～3月31日	米永・藤父・中村	—	18年度へ継続
17	19	五名平野系土器C地点	岡田田317外	6,031.83	確認調査	THU	事務所	17年12月21日～12月26日	田中康雄	慎重工事	
17	20	岩崎遺跡	岩崎1317,1319	2,537.00	確認調査	ISH	運動場	18年1月10日～1月25日	中村安宏	慎重工事	
17	21	山田神社門前遺跡	山田字上馬場162-1	832.00	確認調査	YDM	共同住宅	18年2月18日～2月23日	藤父雅史	慎重工事	
17	22	亀甲遺跡	亀甲2009-1,201-1,164-4	269.29	確認調査	KMK	事務所	18年2月27日	米永 崇	慎重工事	
17	23	中土西遺跡	方瀬野田中土22-1	659.00	確認調査	NNU	島地造成	18年2月28日	兵谷有利	慎重工事	
17	24	中土西遺跡B地点	伊勢町山下字池草1-1	448.88	確認調査	NDN	車庫	18年2月28日	中村安宏	慎重工事	
17	25	大塚・伊賀遺跡	立願寺大字大塚1049	602.00	確認調査	OTH	調査依頼	18年3月5日	藤父雅史	—	
17	26	高岡原遺跡D地点	山田字高岡原2049-1	430.88	確認調査	TOB	専用住宅	18年3月7日～3月10日	藤父雅史	慎重工事	
17	27	春田遺跡	中土西内1452-9	247.40	確認調査	HRD	専用住宅	18年3月8日～3月9日	中村安宏	慎重工事	
17	28	年の神遺跡	伊勢町野口字早降2923-3	408.87	確認調査	TNK	専用住宅	18年3月14日～3月15日	藤父雅史	発掘調査	
17	29	築港川水遺・水堀遺跡	築港川流域一帯	—	発掘調査	—	—	17年7月1日～18年3月31日	兵谷有利	—	

第2表 平成18年度市内施設調査一覧

施設番号	施設名	所在地	面積(m ²)	種別	略号	調査原因	調査期日	担当者	措置	備考
18 1	年の神遊勝	伊明町野白字早馬3823-3	409.87	祭壇調査	TNK	専用住宅	18年3月17日～6月12日	藤父肇史	—	17年度から継続
18 2	玉巻平野桑田原A地点	伊明町140	1,876.84	確認調査	THU	市民会館	18年4月22日	中村安宏	慎重工事	—
18 3	京塚遊勝	伊明町山田381-1外5区	86,504.78	確認調査	KVZ	調査依頼	18年4月25日～4月28日	中村安宏	—	—
18 4	玉巻平野桑田原B地点	阿波田3317外	40,000.00	確認調査	THU	新幹線駅周辺整備	18年4月27日～12月16日	米水 崇	発掘調査	17年度から継続
18 5	高瀬水町遊勝	高瀬224	280.00	工事立会	JHT	石垣改修	18年4月25日～6月8日	田中康雄	—	—
18 6	上ノ辻遊勝	玉巻字上ノ辻3013外4区	761.00	試験調査	JNT	調査依頼	18年5月22日～6月6日	兵谷有利	慎重工事	—
18 7	栗根水遊勝	栗根木195-9	148.34	確認調査	HNG	専用住宅	18年5月22日～6月29日	中村安宏	慎重工事	—
18 8	栗根東遊勝	栗根東大門2059-6外4区	683.73	確認調査	RNG	共同住宅	18年6月6日～6月9日	米水 崇	工事立会	—
18 9	飯塚東遊勝	飯塚2351-2外1区	1,833.84	確認調査	DH	共同住宅	18年6月7日～6月8日	藤父肇史	慎重工事	—
18 10	今泉遊勝A地点	今泉遊勝B地点	2,988.40	確認調査	RCH	調査依頼	18年7月4日～7月14日	藤父肇史	慎重工事	—
18 11	立尾寺遊勝	立尾寺部の地1169	853.00	確認調査	YMH	宅地造成	18年8月29日～8月30日	中村安宏	慎重工事	—
18 12	山田松尾平遊勝	山田字松尾原1351-1外	1,111.00	確認調査	ISH	専用住宅	18年9月22日	藤父肇史	慎重工事	—
18 13	岩崎東遊勝	岩崎字松尾原1135-3	270.02	確認調査	NAK	調査依頼	18年11月1日～11月22日	藤父肇史	慎重工事	—
18 14	中上7方ハグ古墳	伊分北方549-1	1,900.52	確認調査	DMZ	牛舎	18年12月4日～12月15日	中村安宏	慎重工事	—
18 15	今泉遊勝B地点	伊明町上433-2外4区	19,383.39	確認調査	TOB	共同住宅	18年12月20日～12月21日	藤父肇史	慎重工事	—
18 16	高瀬西遊勝	中野字西原53外1区	882.71	確認調査	GLM	宅地造成	18年1月18日	米水 崇	慎重工事	—
18 17	五郎丸遊勝A地点	山田538-1	497.00	確認調査	THU	遊勝	19年1月18日～2月28日	藤父 田中	慎重工事	—
18 18	玉巻平野桑田原C地点	岩崎344-10外20区	5,427.40	確認調査	BTY	専用住宅	19年1月19日	竹田宏司	慎重工事	—
18 19	備中遊勝	伊明町西原2659-8	348.06	確認調査	YMN	調査依頼	19年1月23日～2月25日	竹田宏司	—	—
18 20	吾久西遊勝	寺田字大塚7外4区	6,367.31	試験調査	KOG	専用住宅	19年2月1日～2月23日	米水 崇	工事立会	—
18 21	古瀬遊勝	飯塚字古瀬1904	1,518.75	確認調査	NAO	調査依頼	19年2月16日～2月18日	兵谷有利	—	—
18 22	中道遊勝	伊明町山下231-1	1,940.00	確認調査	KOM	工業団地	19年2月6日～3月30日	寛水肇宏	—	19年度へ継続
18 23	小上田宮の前遊勝	小上田708-1外	216,346.00	確認調査	RSH	調査依頼	19年2月21日	兵谷有利	—	—
18 24	阿波田日宮遊勝	玉巻字御時1186外2区	1,089.00	確認調査	TKB	調査依頼	19年2月28日	田中康雄	—	—
18 25	寺田久保遊勝	寺田409-1	378.00	確認調査	GLM	調査依頼	19年2月28日	兵谷有利	—	—
18 26	五郎丸遊勝B地点	山田416	881.00	確認調査	—	調査依頼	19年3月1日～3月2日	田中康雄	—	—
18 27	大野下ホームセンター予定地	伊明町大野下1058外2区	4,315.00	試験調査	YVG	調査依頼	19年3月14日～3月2日	米水 崇	—	—
18 28	山田山口遊勝	山田1048-11049-1	1,062.00	確認調査	NDN	調査依頼	19年3月14日～3月15日	藤父肇史	—	—
18 29	山田山遊勝	伊明町浜田120	1,272.00	確認調査	TKK	調査依頼	19年3月22日	藤父肇史	—	—
18 30	伊田南ホームセンター予定地	伊田南方247-1,256-1	4,915.44	試験調査	INY	店舗兼住宅	19年3月28日～3月30日	中村安宏	慎重工事	—
18 31	玉巻高校校庭遊勝	中1909-8外2区	224.00	確認調査	JKD	—	19年3月18日～3月30日	米水 崇	—	—
18 32	石匠ノ子ノ柳穴群	石匠2951外	1,500.00	測量調査	—	—	19年9月1日～10月11日	寛水肇宏	—	—
18 33	ジュルケン谷間敷跡	三ツ川字宮田4323	2,100.00	測量調査	—	—	—	—	—	—

II 平成17年度の調査

玉名平野条里跡A地点

高岡原遺跡A地点

蓮華遺跡

上小田古屋敷遺跡

田島遺跡

築地館跡

高岡原遺跡B地点

繁根木遺跡群A地点

高瀬御茶屋跡

立願寺廃寺

立願寺大塚古墳

伊倉宮の後遺跡

繁根木遺跡群B地点

凸版印刷工場予定地

川部田遺跡

中土西遺跡A地点

高岡原遺跡C地点

玉名平野条里跡B地点・兩泊間日渡遺跡

玉名平野条里跡C地点

岩崎原遺跡

山田神社門前遺跡

亀甲遺跡

中ん城遺跡

中土西遺跡B地点

大塚・惣萩遺跡

高岡原遺跡D地点

春出遺跡

年の神遺跡

菊池川水運・水制調査

1 玉名平野条里跡A地点

所在地：玉名900

調査原因：学校施設建設（屋内運動場）

対象面積：1,345m²

調査期間：17年3月30日・4月14日

担当者：末永 崇

調査地は、菊池川右岸の平野部北側に位置する標高約6.4mの地点である。周辺は、県道玉名立花線の改修工事に伴い、熊本県教育庁文化課により発掘調査が実施されており、中世や弥生時代の土器片が出土している。

調査では、工事予定地内の既存建物が未解体であったため、掘削可能な部分に2ヶ所トレンチを設定した。

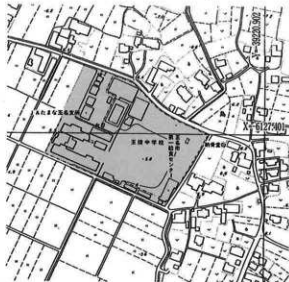
両トレンチとも、I層は駐車場の砕石、II層は山砂による盛土層であった。その下層については、1トレンチでIII～IX層、2トレンチでIII～VII層を確認した。

1トレンチIII層は、旧水田耕作土であり、土師皿や染付の細片を数点検出した。IV層は、灰オリーブ色を呈する砂質土で、土師質の土器細片を1点検出した。V層以下は、全体的に酸化鉄、二酸化マンガンを含む砂質土及び粘性土が堆積しており、遺構、遺物は検出されなかった。

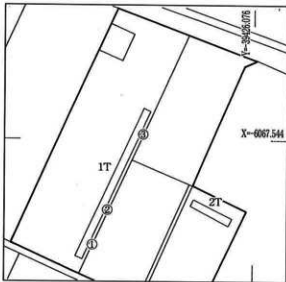
2トレンチIII層は、暗褐色を呈する砂質土で、近世～中世の土器細片を数点検出した。IV層は褐色を呈する粘性土、V層は褐色を呈する砂質土で、両層とも中世の土器片を数点検出したが、いずれもローリングを受けており、両層に含まれる石も角がなく丸い。VI層以下は、1トレンチと同じ様相を呈する。

このような状況から、本調査地点は、旧河道かその縁辺部であったことが考えられる。

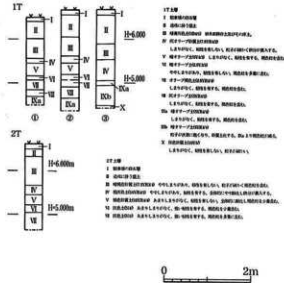
調査後の措置は、慎重工事である。



第3図 玉名平野条里跡A地点位置図 S=1/5,000



第4図 玉名平野条里跡A地点トレンチ位置図 S=1/1,000



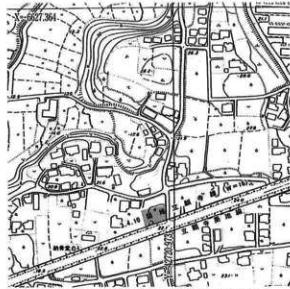
第5図 玉名平野条里跡A地点土層図

2 高岡原遺跡A地点

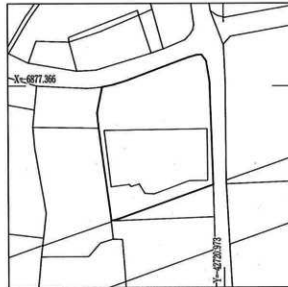
(1) 調査に至る経緯

玉名市山田2050-1において店舗の建設が計画された。当地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である高岡原遺跡の範囲内であったため、平成16年11月9日付けで埋蔵文化財発掘の届出がなされ、平成16年11月24日から26日にかけて確認調査を実施した。その結果、住居跡等の埋蔵文化財が確認されたため、施主及び関係者と協議を行い、敷地1,007㎡のうち、埋蔵文化財が確認された600㎡について発掘調査を実施することになった。

平成17年4月26日から7月4日にかけて発掘調査を実施し、その結果、弥生時代後期の住居跡8基、土坑6基、古代の掘立柱建物跡と想定される遺構1基、土坑・ピット数基、中世の土坑1基、中世から近世にかけての溝状遺構1基、その他時期不明のピット・土坑等多数を確認した。調査の詳細については、平成20年度に刊行予定の玉名市内遺跡調査報告書Vに掲載予定である。



第6図 高岡原遺跡A地点位置図 S=1/5,000



第7図 高岡原遺跡A地点調査区位置図 S=1/1,000



写真4 高岡原遺跡A地点全景1 南から



写真5 高岡原遺跡A地点全景2 東から

3 蓮華遺跡

所在地：築地字南大門2070

調査原因：共同住宅建設

対象面積：1,097.5㎡

調査期間：17年5月12日

担当者：末永 崇

調査地は、境川右岸の低段丘上に位置する標高15m程の地点である。調査時の現状は畑地で耕作が行われていた。

敷地の東側隣接地では、昭和62年に浄光寺跡寺院確認調査が行われており、その際に中世の竪穴状遺構が確認されている。

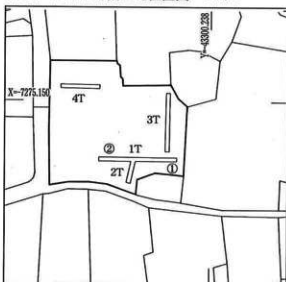
調査では、敷地内の掘削可能な部分4ヶ所にトレンチを設定した。

各トレンチとも、表土は30～40cm程の耕作土（I層）で、その下層に一部で明褐色粘性土と黒褐色土の混合土（II層）、その下層にぶい黄褐色および黄褐色土（III層）を確認した。1、2トレンチで遺構、遺物は確認されなかったが、3トレンチのIII層上面で中世の土器片を含む溝状遺構を検出した。検出状況から、東西方向に延びるものと考えられる。

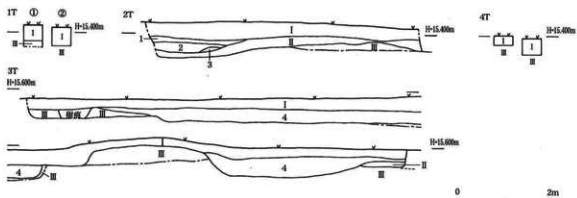
調査の結果を受け、施工側と協議を行った結果、埋蔵文化財に影響を与えないよう設計変更が行われたため、調査後の措置は慎重工事となった。



第8図 蓮華遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第9図 蓮華遺跡トレンチ位置図 S=1/1,000



1層

I 表土 耕作土

II 明褐色粘性土（0T2000）と黒褐色土（0T2000）の混合土、ややよりみずみず、中々硬結を有する、砂粒を含む。

III 黄褐色土（0T2000）ややよりみずみず、硬結を有する、0T2000-黒褐色土が混入する。

1 明褐色土の付着層 ややよりみずみず、硬結を有しない、明褐色土と（0T2000）をフロンツに透過し、掘削面を含む。

2 明褐色土の付着層 1層に透けず、硬結を有する層を含む。

3 黄褐色土の付着層 明褐色土と黒褐色土の混合土、ややよりみずみず、中々硬結を有しない、砂粒を含む。

4 黄褐色土の付着層 明褐色土と黒褐色土の混合土、ややよりみずみず、中々硬結を有する、中々の硬結を含む。

第10図 蓮華遺跡土層図

4 上小田古屋敷遺跡

所在地：山部田字境目90-10外4筆

調査原因：専用住宅建設

対象面積：1,800.1㎡

調査期間：17年5月17日

担当者：末永 崇

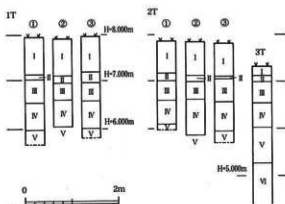
調査地は、玉名平野北部、菊池川左岸堤防際の標高7.3m程の地点である。調査時の状況は、隣接する水田面から約1mの盛土が行われた宅地であった。

調査では、敷地内に3ヶ所のトレンチを設定した。各トレンチとも盛土下にI～V層を確認した。I層は盛土前の表土で旧水田耕作土である。II層は砂質土で、下位は粘性が強く色調も明るくなる。III層からV層にかけては、暗褐色から褐色を呈する層である。このうち、1トレンチIII層より、土師器坏の細片1点を検出したが、それ以外に遺物は確認されず、遺構も確認されなかった。

調査後の措置は、慎重工事である。

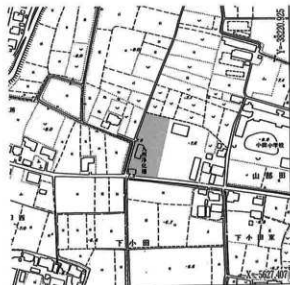


第12図 上小田古屋敷遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



- 土層
- I 表土 遺物に乏しい盛土。
 - II 砂質土 厚さ約1.0m 中やしまりがあり、粘性は弱い。色が暗くやや赤っぽい。
 - III 暗褐色土 厚さ約1.0m 中やしまりがあり、粘性は強い。色が暗くやや赤っぽい。土師器の破片が散見する。
 - IV 暗褐色土 厚さ約1.0m 中やしまりがあり、粘性は強い。色が暗くやや赤っぽい。土師器の破片が散見する。
 - V 暗褐色土 厚さ約1.0m 中やしまりがあり、粘性は強い。色が暗くやや赤っぽい。土師器の破片が散見する。
 - VI 暗褐色土 厚さ約1.0m 中やしまりがあり、粘性は強い。色が暗くやや赤っぽい。土師器の破片が散見する。

第13図 上小田古屋敷遺跡土層図



第11図 上小田古屋敷遺跡調査地位位置図 S=1/5,000



写真6 上小田古屋敷遺跡調査地全景 南から

5 田島遺跡

(1) 確認調査

所在地：中字寺畑1582-5外2筆

調査原因：共同住宅建設

対象面積：769.28㎡

調査期間：17年5月19日

担当者：古閑敬士

調査地は、境川左岸に面した玉名台地南西部の標高15m程の地点である。春日神社の北側隣接地で、調査時の状況は、既存建物解体後の更地であった。

調査では、建設予定地に3ヶ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、宅地化時の整地層（Ⅰ層）下に褐色土（Ⅱ層）を確認した。Ⅱ層は、宅地化前の畑の畝により削平を受けていた。Ⅱ層以下については、3トレンチでのみ確認を行った。Ⅲ層は褐色のローム層、Ⅳ層は5cm大の礫を多量に含む褐色土（岱明層）である。遺構、遺物については、1、2トレンチⅡ層上面でピット、土坑を確認し、ピット内から中世の土器、瓦器が出土した。土坑は無遺物のため時期の特定ができなかった。3トレンチで遺構、遺物は確認されなかった。

調査の結果を受け、施工側と協議を行い、埋蔵文化財に影響を与える基礎掘削部について発掘調査を行うことになった。



第16図 田島遺跡土層図

(2) 調査体制

発掘調査（平成17年度）

調査期間 平成17年6月13日～6月24日

調査担当 調査員 古閑敬士

発掘作業員 竹内伴英 西田宣道

整理作業（平成19年度）

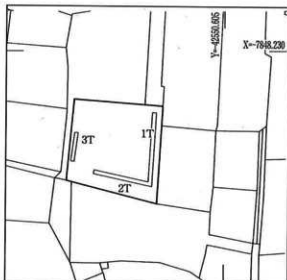
整理・報告書担当 主任 田中康雄

整理作業員 坂崎郷子 五野富美子

早川イツエ 楠藤 功



第14図 田島遺跡調査地位図 S=1/5,000



第15図 田島遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000

II 平成17年度の調査

(3) 遺跡の概要

田島遺跡は、玉名市のほぼ中央部、小代山南側丘陵部に接する玉名台地南西部の標高約13～17mの部分に位置する。西側には、小代山南東部を源流とする境川が南流し、その開析により形成された谷底平野が広がる。遺跡が所在する台地上及び、境川対岸の低位段丘上には、縄文時代から中世にかけての遺跡が密集しており、試掘・確認調査や発掘調査が頻繁に実施されている。

(4) 調査の方法

調査では、基礎掘削部にA～Dの調査区を設定した。表土のみ重機で掘削し、それ以下は人力で作業を行った。調査の結果、A・B区でのみ遺構、遺物を検出した。検出された遺構は、種別ごとに番号を付けて掘り下げた。実測は、遺構配置図を1/100、それ以外を1/20スケールで行い、撮影は35mmカラーリバーサル及び

モノクロフィルムにより行った。

(5) 遺構・遺物

①弥生時代の遺構・遺物

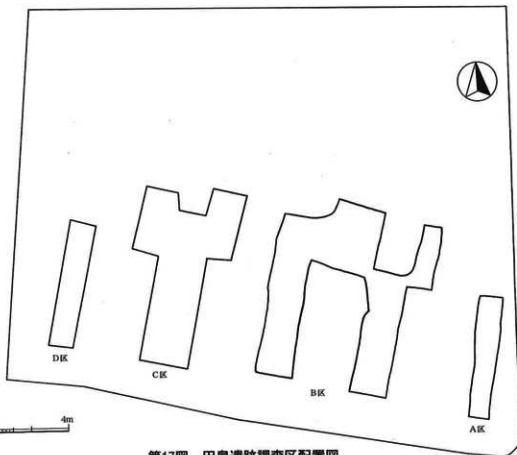
・1号住居跡（S-01）

調査B区北側のⅡ層上面で検出した。全体に調査が及んでいないが、検出状況から想定して、一辺3.5m程の正方形に近い形状と想定される。しかし、上部を大きく削平され、部分的な調査であるため、ベッド状遺構を有する可能性も否定できず、そうなれば、規模はやや大きくなる。中央部北側に伊を有し、それを北端として、硬化面が遺構中央西側に見られる。硬化面を挟んで東西に2基のピットを有しており、これを柱穴と想定している。

遺物は弥生土器、石畿が出土している。

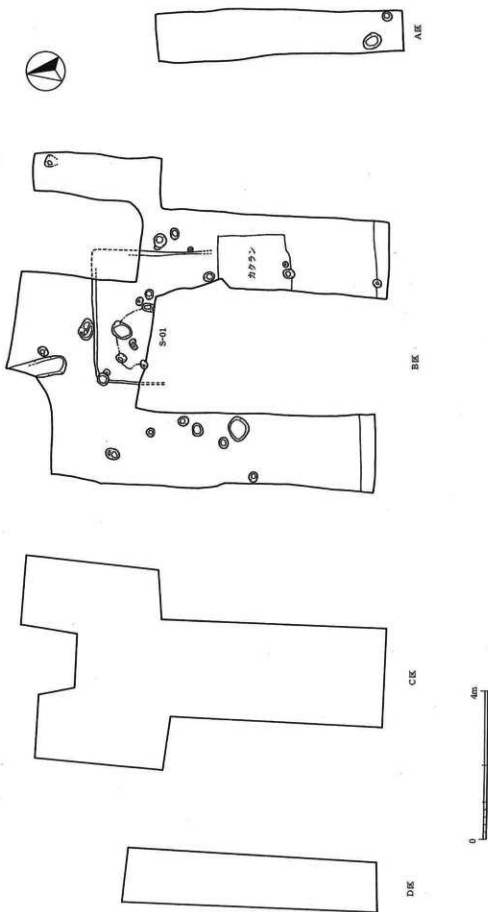
②中世の遺構・遺物

中世の遺構として溝、ピットを検出した。遺物は土師器の坏、皿が出土している。



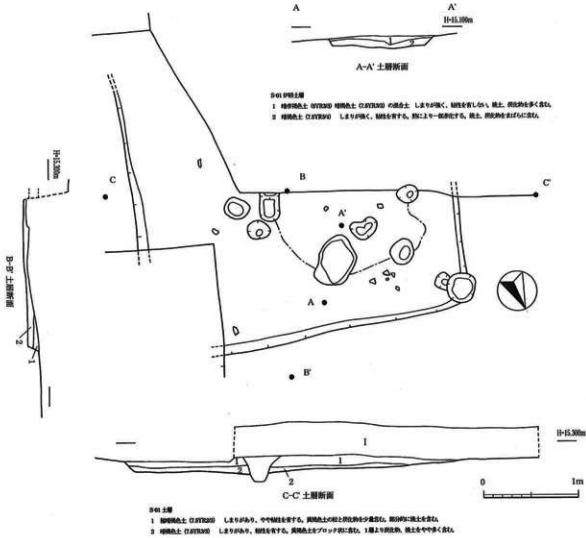
第17図 田島遺跡調査区配置図

II 平成17年度の調査

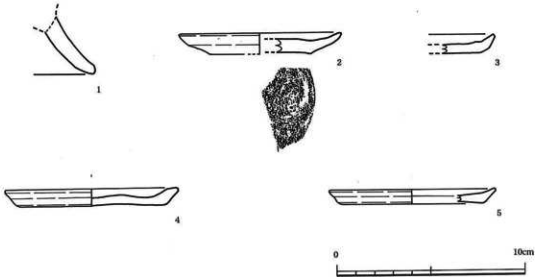


第18図 田島遺跡遺構配置図

II 平成17年度の調査



第19図 田島遺跡 S-01 実測図



第20図 田島遺跡出土遺物実測図

II 平成17年度の調査



写真7 田島遺跡全景 西から



写真8 田島遺跡S-01検出状況 南から

6 築地館跡

所在地：築地111-1

調査原因：寺院建設

対象面積：2,673.9㎡

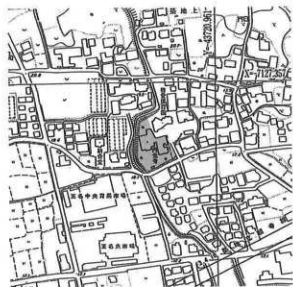
調査期間：17年6月9日

担当者：末永 崇

調査地は、玉名市の中西部、境川右岸の小代山南側丘陵部に接する、玉名台地上の標高18m程の地点で、中世城館跡推定範囲の西側に位置する。

今回の調査では、工事予定地内の既存建物が未解体であったため、周辺の掘削可能な3ヶ所にトレンチを設定した。これらのうち、3トレンチで、遺構の一部と考えられる弥生土器を多量に含む層(S-01)を確認したが、近現代の攪乱が敷地全体に及んでおり、その他に遺構、遺物は確認できなかった。

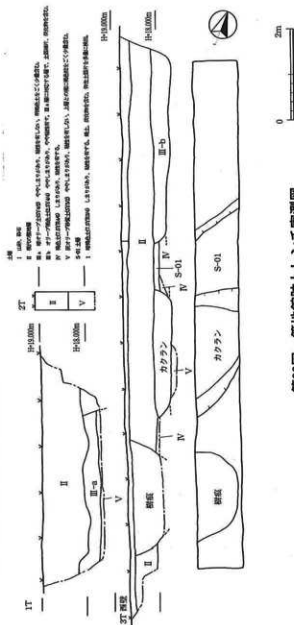
調査の結果、敷地全体が近現代の攪乱を受けており、遺構がほとんど残存していないと判断されたが、遺構の一部と考えられる箇所がわずかに確認されたため、調査後の措置は、工事立会となった。



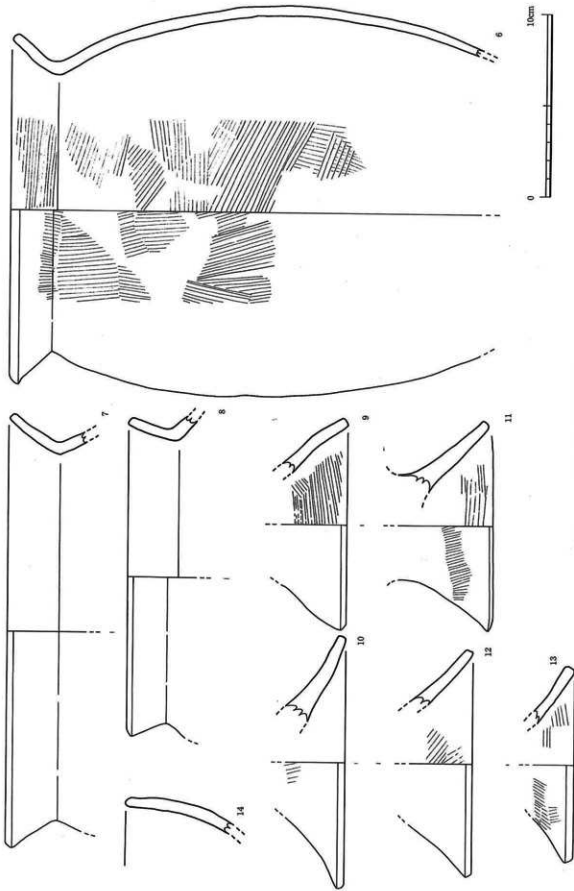
第21図 築地館跡調査地位置図 S=1/5,000



第22図 築地館跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第23図 築地館跡トレンチ断面図



第24図 築地館跡出土遺物実測図

7 高岡原遺跡B地点

所在地：山田字高岡原2047-1

調査原因：専用住宅建設

対象面積：499.99㎡

調査期間：17年8月9日～8月19日

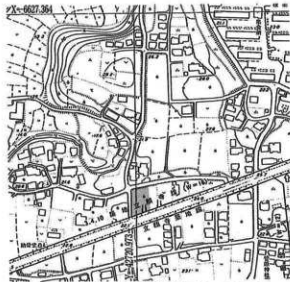
担当者：末永 崇

調査地は、境川左岸に面した玉名台地西側の標高24m程の地点で、弥生時代後期の大規模な集落跡と考えられる高岡原遺跡の中央部南側に位置する。

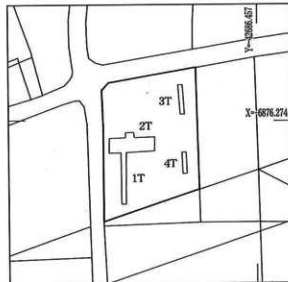
調査では、建設予定地内に4ヶ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、Ⅰ、Ⅱ層は表土及び耕作に伴う攪乱層である。1～3トレンチでは、Ⅱ層直下の暗褐色土（Ⅲ層）上面で、4トレンチでは、Ⅲ層が確認されず、その下の褐色土（Ⅳ層）上面で、古代及び弥生時代のものと思われる遺構を確認した。

このように、敷地のほぼ全域に古代及び弥生時代の遺構が所在する状況であったが、専用住宅建設部については、基礎掘削がⅠ、Ⅱ層内で収まることから、埋蔵文化財に対する影響は発生しないとの結論にいたった。しかし、進入路設置部については、切土により埋蔵文化財に対する影響が発生するため、その箇所にあたる2トレンチ内の遺構については、継続して調査を行った。

2トレンチ内の遺構は、弥生時代後期の竪穴住居跡2基、土坑2基、古代の竪穴遺構1基、時期不明のピット多数である。各遺構の詳細は以下の通りである。



第25図 高岡原遺跡B地点位置図 S=1/5,000



第26図 高岡原遺跡B地点トレンチ配置図 S=1/1,000



写真9 高岡原遺跡B地点2T全景 東から

II 平成17年度の調査

・弥生時代の遺構・遺物

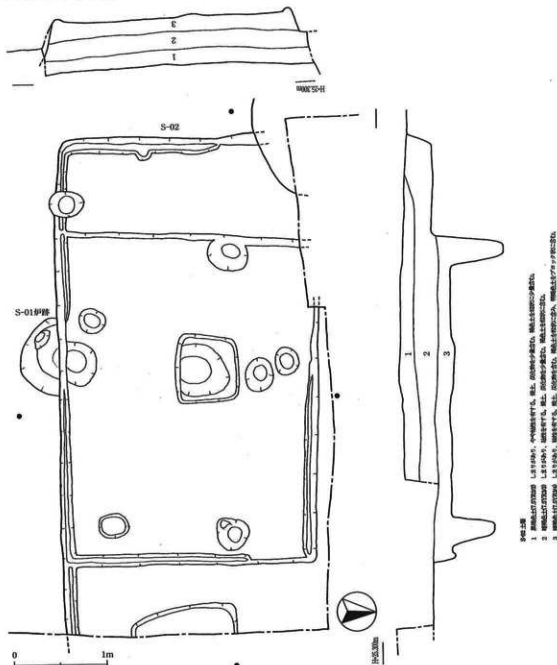
1号住居跡 (S-01)

2トレンチ東側Ⅲ層上面で検出した。2号住居跡に切れられ、床面まで耕作による攪乱を受けていたため、炉の一部のみを検出するに止まった。このため、形状、規模ともに不明である。

2号住居跡 (S-02)

1号住居跡と同様に、2トレンチ東側のⅢ層上面で検出した。遺構がトレンチ外に及んでい

るため全体形は不明だが、検出状況から長辺5.6m、短辺3.7m程度の隅丸長方形の住居跡と想定される。遺構の北及び東西に、コの字形のベッド状遺構を有する2本柱の住居跡である。炉はほぼ正方形で、遺構中央やや北寄りに位置する。弥生時代後期の土器が出土している。1号住居跡を切っており、これに後出する住居跡である。



第29図 高岡原遺跡B地点S-01-02実測図

II 平成17年度の調査

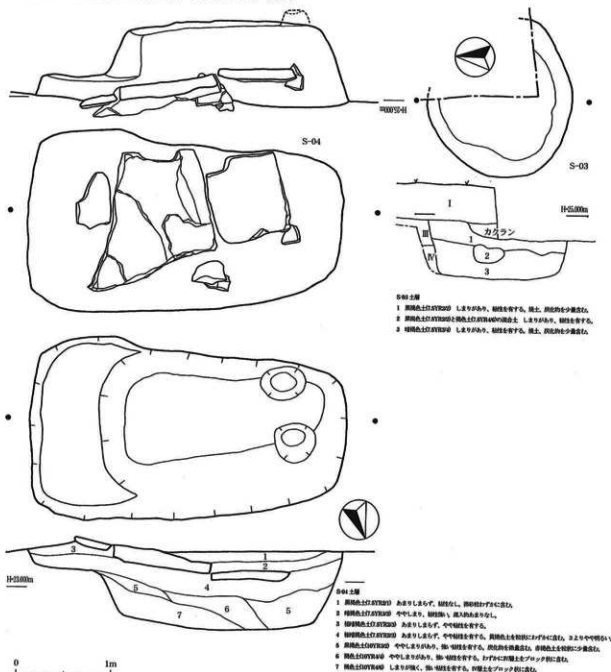
1号土坑 (S-03)

2トレンチ北側のⅢ層上面で検出した。遺構の一部がトレンチ外に及んでいるが、東西1.7m、南北1.5m、深さ0.58mのほぼ円形の土坑と考えられる。土器細片4点と石器1点が出土している。2号住居跡を切っており、これに後出する遺構である。

2号土坑 (S-04)

2トレンチ北側のⅢ層上面で検出した。東西

3.47m、南北1.83m、深さ0.82mの隅丸長方形の土坑である。東側にテラス、西側の底部にピットを2基有する。土坑上面に蓋石状の板石が確認されており、そのうちの1枚は内側を赤彩(おそらくベンガラ)してあった。このことから、石蓋土坑墓ではないかと考えられる。土坑内からは、弥生時代後期のものと思われる土器細片が出土している。



第30図 高岡原遺跡B地点S-03・04実測図

II 平成17年度の調査

・古代の遺構・遺物

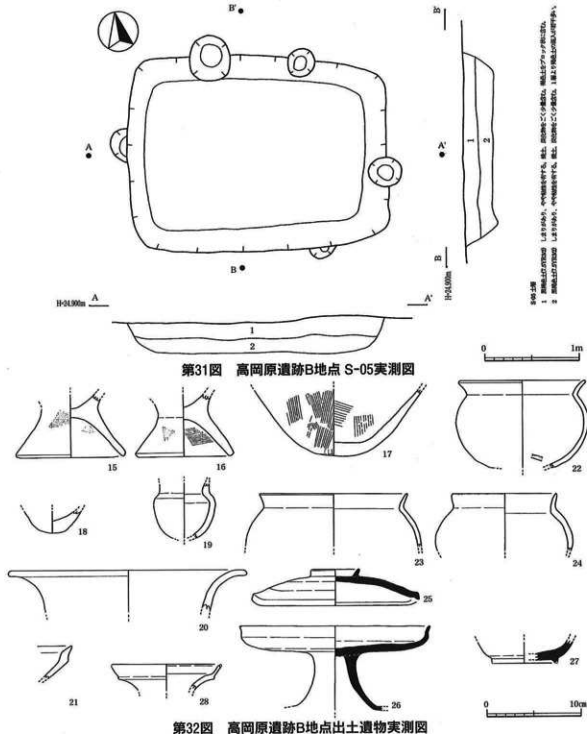
竪穴遺構 (S-05)

2トレンチ西側のⅢ層上面で検出した。東西2.0m、南北2.75m、深さ0.33mの竪穴遺構で、須恵器高坏、坏、坏蓋及び弥生後期の土器細片が出土している。遺構の性格は不明である。

・時期不明の遺構

ピット群

その他の遺構として、ピット群が確認されているが、多くは無遺物あるいは土器細片のみの出土であり、大部分で時期の特定が不可能であった。おそらく弥生時代後期もしくは古代の遺構と考えられる。



8 繁根木遺跡群A地点

所在地：繁根木64

調査原因：宅地造成

対象面積：1,270.5㎡

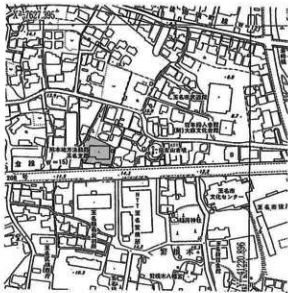
調査期間：17年8月25日～8月29日

担当者：末永 崇

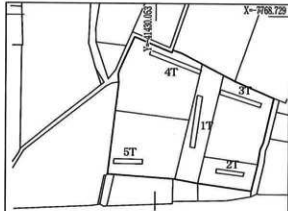
調査地は、繁根木川右岸に面した玉名台地中央南端部の標高16m程の地点に位置する。熊本法務局玉名支局跡地で、東側約50mには、伝左山古墳が所在する。

調査では、造成予定地内に5ヶ所のトレンチを設定した。このうち、1トレンチを除いた各トレンチでは、耕作等による攪乱層（Ⅰ、Ⅱ層）下に、暗褐色粘性土（Ⅲ層）、その下に礫を多く含む褐色土（Ⅳ層）を確認した。旧建物所在部にあたる1トレンチでは、建物基礎等の攪乱により、大部分がⅢ層又はⅣ層まで削平されていた。各トレンチとも遺構は確認されず、遺物も、1トレンチ攪乱層より土器細片を数点確認したのみである。

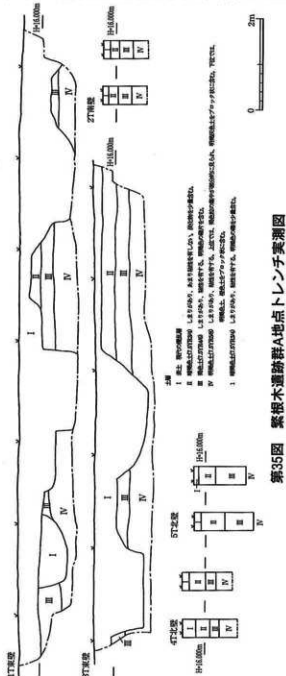
調査の結果、埋蔵文化財への影響は発生しないものと考えられたが、伝左山古墳近接地であることから、調査後の措置は、工事立会となった。



第33図 繁根木遺跡群A地点位置図 S=1/5,000



第34図 繁根木遺跡群A地点トレンチ配置図 S=1/1,000



第35図 繁根木遺跡群A地点トレンチ実測図

9 高瀬御茶屋跡

所在地：永徳寺414-4外2庫

調査原因：倉庫建設

対象面積：3,476.7㎡

調査期間：17年9月13日～9月30日

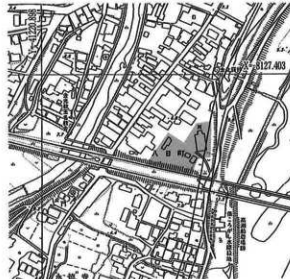
担当者：藪父雅史

調査地は、菊池川右岸堤防際の標高7m程の地点で、支流繁根木川との合流点よりやや北側に位置する。調査時の状況は、盛土による造成地及び畑地で、高瀬御茶屋跡の痕跡は、敷地内に残る1基の井戸のみであった。

調査では、倉庫基礎部分を中心に24ヶ所のトレンチを設定した。1～3、7トレンチ及びび4～6、8トレンチの西側は、現代の整地部、4、5トレンチの大部分及び6トレンチの一部は、近代の瓦や礫の廃棄部、6トレンチの大部分及び、8～13トレンチは、明治10年の西南戦争以降の整地部と考えられ、各トレンチとも、それ以前の遺構、遺物は確認されなかった。敷地南東側の17～24トレンチでは、近世初頭から近世末にかけての遺構、遺物が確認された。各トレンチとも、IV層上面で遺構を確認し、大部分が石列であるが、23トレンチでは、丸瓦を転用した極管遺構を確認した。

遺物は、I層（表土）及びII層からは確認されず、III層上面から、近世末の陶磁器、IV層上面から近世初頭の染付が確認された。IV層以下には、中世の遺物小片が摩耗した状態で混入する。IV層上面で確認された遺物から、これらの遺構は、残存する絵図から、近世初頭～近世末にかけて構築された、高瀬御茶屋に関連する施設であると考えられるが、III層とIV層の間で、幾度か建替えが行われている可能性もあり、検出した遺構が、御茶屋造営当初のものかは不明である。このことから、敷地の南東側一帯は、残存している井戸も含めて、御茶屋の遺構が残存している可能性が高いと考えられる。

調査の結果を受け協議を行った結果、埋蔵文化財に影響を与えないよう基礎部分の設計変更が行われたため、調査後の措置は慎重工事となった。

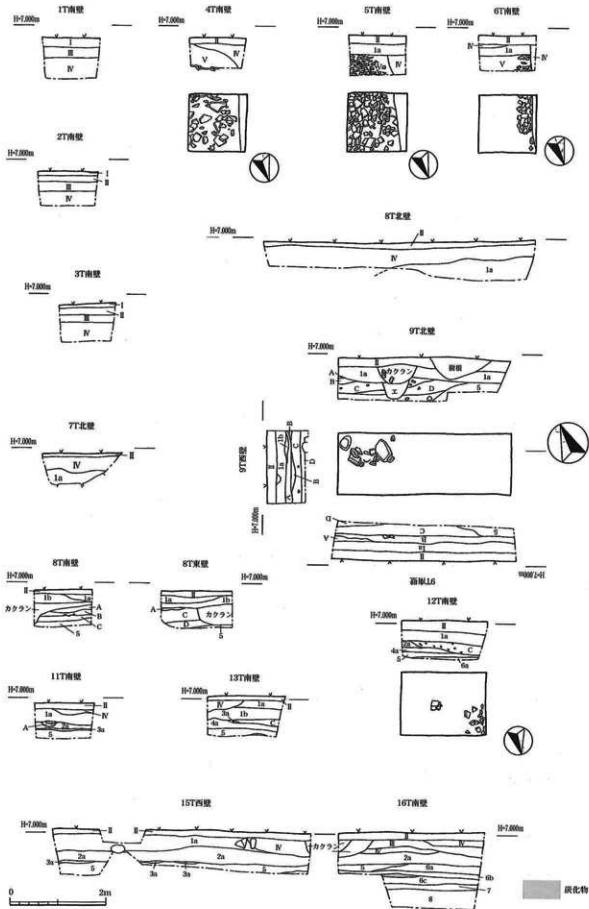


第36図 高瀬御茶屋跡調査地位図 S-1/5,000



第37図 高瀬御茶屋跡トレンチ配置図 S-1/1,000

II 平成17年度の調査



第38図 高瀬御茶屋跡トレンチ実測図1

II 平成17年度の調査



写真10 高瀬御茶屋跡調査地全景 東から



写真11 高瀬御茶屋跡17T遺構検出状況 東から

10 立願寺廃寺

所在地：立願寺字塔ノ尾1210-4

調査原因：車庫建設

対象面積：143.5㎡

調査期間：17年10月6日～10月7日

担当者：末永 崇

調査地は、玉名市の中西部、小代山南側丘陵部に接する玉名台地北端部の標高34m程の地点である。近年まで畑地であったが、調査時は、砂利敷きの駐車場として利用されていた。古代寺院の推定地で、過去数回の確認調査では、大量の古代瓦等が出土している。

調査では、車庫基礎部7ヶ所にトレンチを設定した。このうち、1・4・5・6・7トレンチで古代の遺物（瓦・須恵器）を含む遺構を確認した。しかし、調査範囲が狭小であり、トレンチごとで土層の堆積状況が異なることから、他遺構の存在や、整地の可能性も考えられる。これらは、遺物の内容から古代寺院に伴うものである可能性が高いと考えられる。

調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、今回調査を行った範囲以外は掘削が行われなため、調査後の措置は慎重工事となった。



第41図 立願寺廃寺トレンチ配置図 S=1/1,000



写真12 立願寺廃寺調査地全景 西から

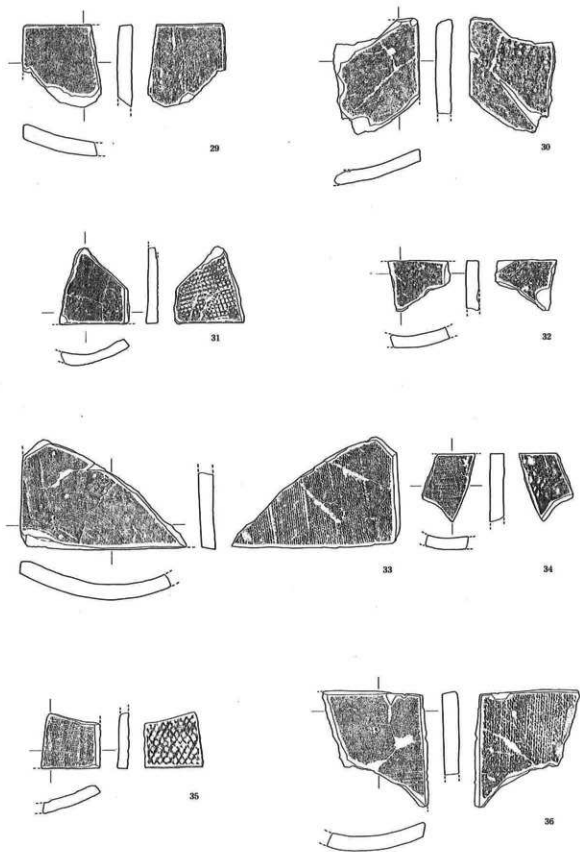


第40図 立願寺廃寺調査地位置図 S=1/5,000



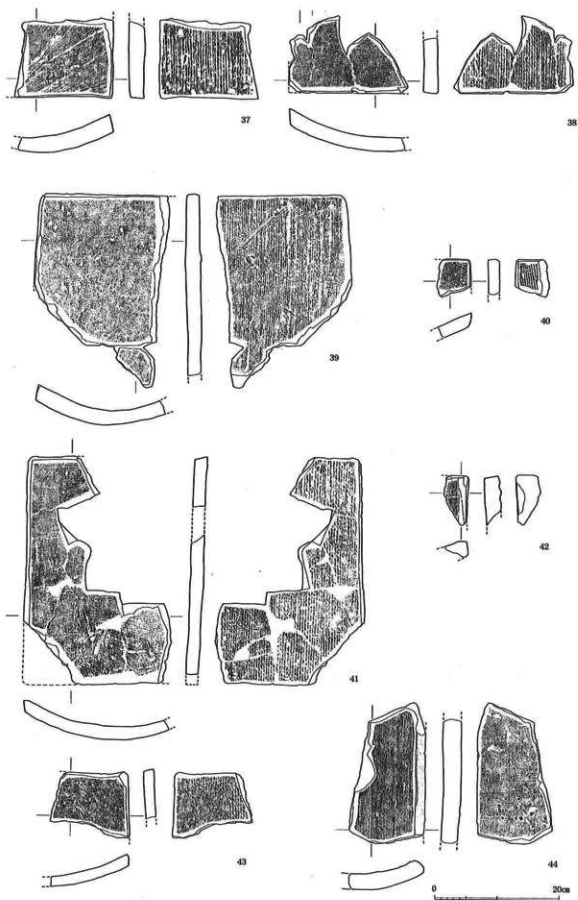
写真13 立願寺廃寺4T遺構検出状況 東から

II 平成17年度の調査



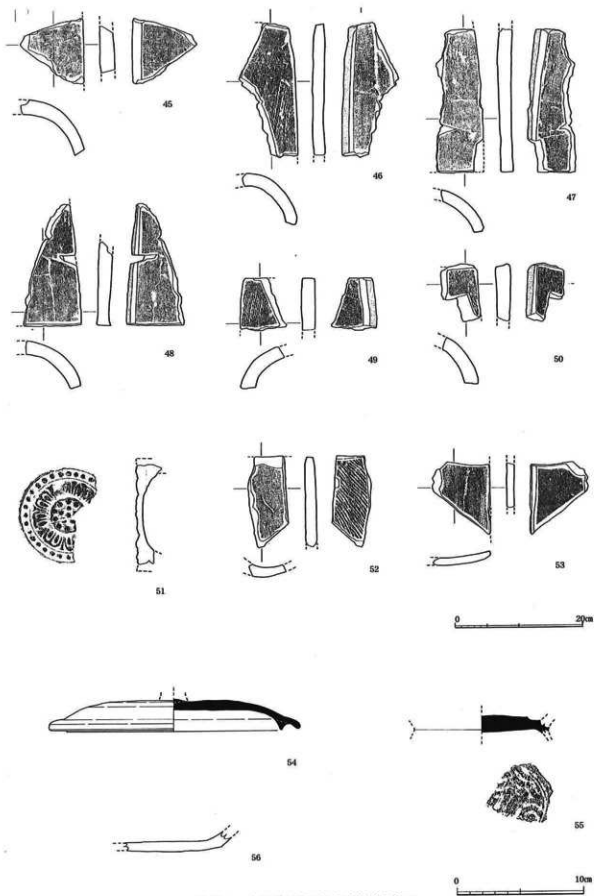
第43図 立願寺廃寺出土遺物実測図1

II 平成17年度の調査



第44図 立願寺廃寺出土遺物実測図2

II 平成17年度の調査



第45図 立願寺廃寺出土遺物実測図3

11 立願寺大塚古墳

所在地：立願寺字大塚1087

調査原因：鉄塔建設

対象面積：703m²

調査期間：17年10月13日～10月14日

担当者：末永 崇

調査地は、小代山南側丘陵部に接する、玉名台地北端部の標高34m程の地点である。施工予定地は、残存している墳丘の20m程東側で、東側への傾斜地を造成し、畑地とした箇所である。

調査では、施工に伴い掘削される範囲に、コの字形に1～3トレンチを設定した。各トレンチとも、I層は表土、II～V層は暗褐色を呈する層、VI層以下は明褐色のローム層である。II～V層中より、土師質の土器細片を数点確認し、1トレンチではIV層上面からの落ち込みを2ヶ所で確認した。しかし、層の堆積状況や周辺の地形から、II～V層は、畑地造成に伴う盛土と考えられ、2ヶ所の落ち込みもその形状から倒木痕と判断した。その他青磁細片1点を表採したのみで、遺構は確認されなかった。

調査後の措置は、慎重工事である。



第46図 立願寺大塚古墳調査地位図 S=1/15,000



第47図 立願寺大塚古墳トレンチ配置図 S=1/1,000



第48図 立願寺大塚古墳トレンチ実測図

12 伊倉宮の後遺跡

所在地：伊倉北方字本村屋敷2915地先

調査原因：擁壁建設

対象面積：57㎡

調査期間：17年10月20日～18年1月12日

担当者：末永 崇

調査地は、菊池川左岸に面した伊倉丘陵性台地南西部の標高36m程の地点である。伊倉北八幡宮の北側隣接地で、伊倉保育所の敷地西側に、南北約35mにわたって所在する高さ約1.5mの石垣である。

調査では、現況で観察可能な北から約23mを実測し、2カ所にトレンチを設定した。石垣は、野面石を乱積みしているが、全体的に崩落しかけており、部分的に修理が繰り返されていた。2カ所のトレンチでは、石垣の裏込めに多量に混入した、近世及び近代の陶磁器片、瓦片を確認した。このことから、この石垣は、近代以降に造られたと考えられる。

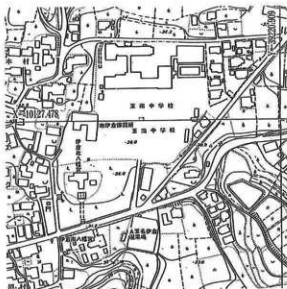
調査後の措置は、慎重工事である。



第50図 伊倉宮の後遺跡調査範囲図 S=1/1,000



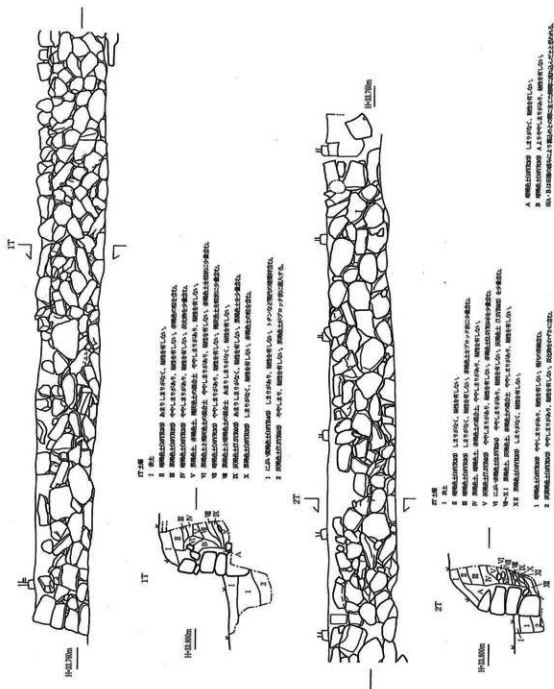
写真14 伊倉宮の後遺跡調査地全景 西から



第49図 伊倉宮の後遺跡調査地位置図 S=1/5,000



写真15 伊倉宮の後遺跡調査地近景 南から



第51図 伊倉宮の後遺跡石積・土層断面実測図



写真16 伊倉宮の後遺跡1T土層



写真17 伊倉宮の後遺跡2T土層

13 繁根木遺跡群B地点

所在地：繁根木54-11

調査原因：専用住宅建設

対象面積：256.44㎡

調査期間：17年10月26日～10月27日

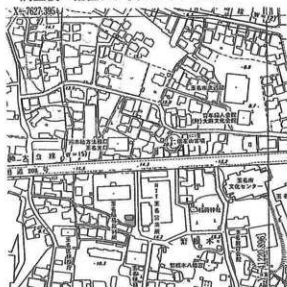
担当者：末永 崇

調査地は、繁根木川右岸に面した玉名台地中央南端部の標高14.2m程の地点に位置する。

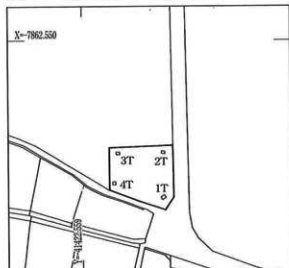
調査時の状況は、建物解体後の更地であった。

調査では、敷地内の四隅にトレンチを設定した。調査の結果、遺構は確認されず、遺物は、土器細片が数点確認されたのみであった。

調査後の措置は、慎重工事である。



第52図 繁根木遺跡群B地点位置図 S-1/5,000



第53図 繁根木遺跡群B地点トレンチ配置図 S-1/1,000



写真18 繁根木遺跡群B地点調査地全景 南から



写真19 繁根木遺跡群B地点1T全景 東から



写真20 繁根木遺跡群B地点2T全景 南から

14 凸版印刷工場予定地

所在地：大倉山ノ後152-1

調査原因：工場建設

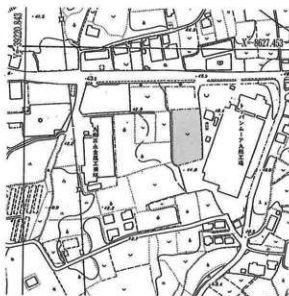
対象面積：2,438㎡

調査期間：17年11月1日～11月2日

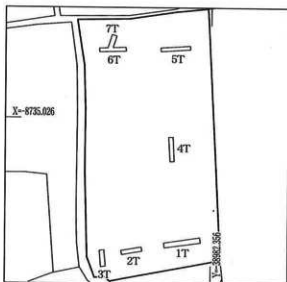
担当者：藤父雅史

調査地は、菊池川左岸に面した伊倉丘陵性台地北側の標高44m程の地点である。国道208号線南側沿いの敷地で、調査時の状況は耕作の行われていない畑地であった。

調査では、工場予定地内に7カ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、Ⅰ～Ⅲ層は近世～現代の耕作土、Ⅳ～Ⅴ層は、しまりのない黒褐色、暗褐色、褐色を呈する層、Ⅵ層は明褐色土であった。堆積状況から、調査地の南西に向かって谷状に落ち込んでいると考えられる。Ⅳ～Ⅴ層には、土器細片が少量含まれるが、北側に隣接する吉丸西遺跡の影響によるものと考えられる。遺構は、1・3トレンチで溝及び畑の畝と思われるものを確認したが、ともに時期は不明である。また、6・7トレンチで国道建設以前の旧道跡の一部と考えられる落ち込みを確認した。しかし、その他文化財保護の対象となるような明確な遺構、遺物は確認されなかった。



第54図 凸版印刷工場予定地調査地位位置図 S=1/5,000



第55図 凸版印刷工場予定地トレンチ配置図 S=1/1,000



写真21 凸版印刷工場予定地全景 北から



写真22 凸版印刷工場予定地7T土層 東から

15 川部田遺跡

所在地：川部田字東屋敷439、441-1

調査原因：宅地造成

対象面積：1,714㎡

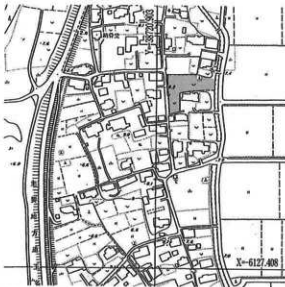
調査期間：17年11月14日

担当者：齋父雅史

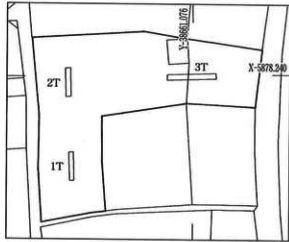
調査地は、菊池川左岸の玉名平野西端部に接する自然堤防上に位置する、標高8.2m程の地点である。調査時の状況は畑地であった。

調査では、敷地内に3カ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、現況面から1.2~1.4mの深さまで畑、水田の耕作土が堆積しており、その下層は河川氾濫に伴う砂の堆積層であった。畑、水田の時期については、遺物が確認されていないため不明であるが、近現代のものではないかと思われる。その他遺構は確認されなかった。

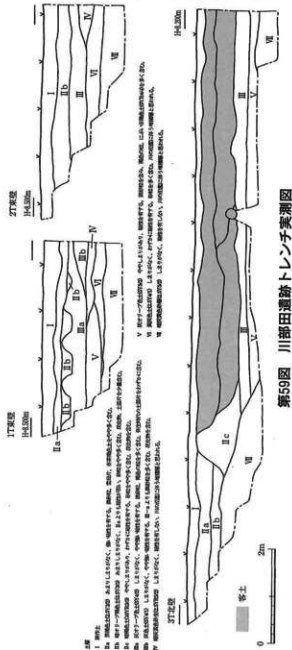
調査後の措置は、慎重工事である。



第57図 川部田遺跡調査地位図 S=1/5,000



第58図 川部田遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第59図 川部田遺跡トレンチ実測図

16 中土西遺跡A地点

所在地：岱明町中土974-2

調査原因：岱明町文化センター建設

対象面積：2,500m²

調査期間：17年11月15日～12月21日

担当者：中村安宏

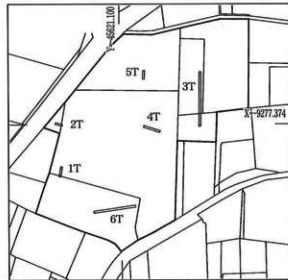
調査地は、玉名市の西部、小代山南部を源流とする境川と行末川の間に北から張り出した玉名台地南側の標高14m程の地点である。調査時の状況は、現岱明町中央公民館とアスファルト舗装による駐車場であった。

調査では、事業予定地内に6ヶ所のトレンチを設定した。I層は表土で、アスファルト、碎石、耕作土等である。II a・b層は1～10mm大の小礫を多量に混入し、厚さが1m前後に及ぶ。おそらく耕作地造成に伴う客土と考えられる。III層は黒褐色土で、1トレンチで弥生土器小片が微量出土した。IV a・b層は極暗褐色土及び暗褐色土で、1～5トレンチでIV a層より弥生土器小片が微量出土した。また、2トレンチIV a層上面で時期不明の南北方向に延びる溝、1・3トレンチIV b層上面で不定形の浅いピットを検出したが、いずれも時期は不明である。V a・b層は黒褐色土、VI層は褐色土であった。

調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、遺構、遺物ともに低密度で散漫な状況だった。このため発掘調査の必要はないものと考えられたが、その後計画が中断されており、建設は行われていない。



第60図 中土西遺跡A地点位置図 S=1/5,000

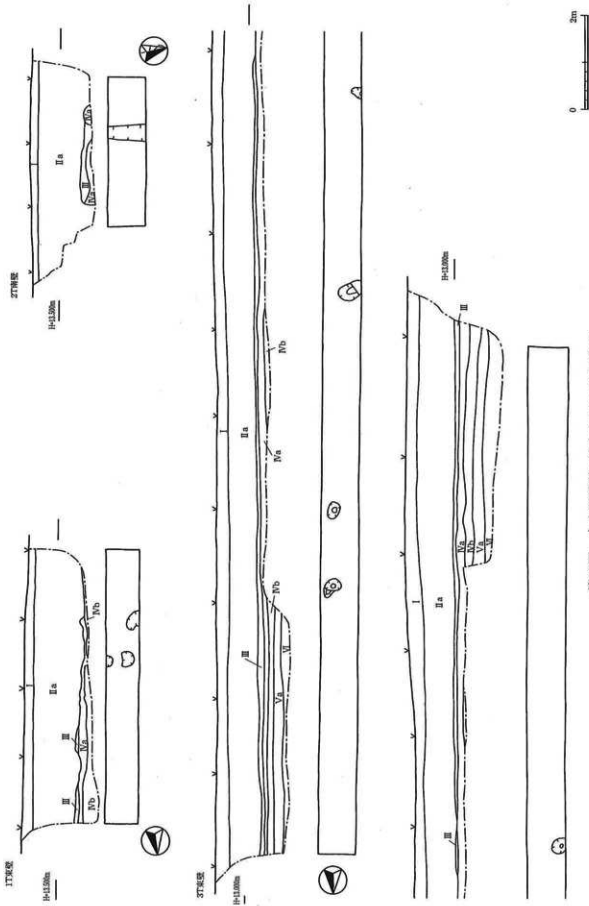


第61図 中土西遺跡A地点トレンチ配置図 S=1/2,000

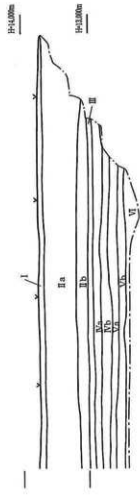
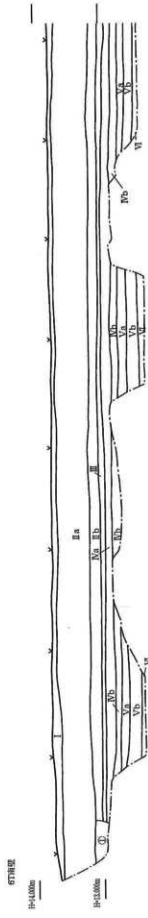
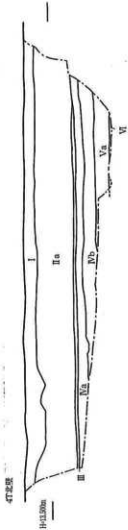
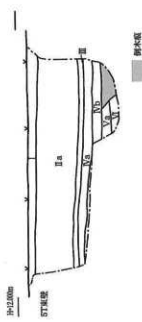


写真23 中土西遺跡A地点全景 北から

II 平成17年度の調査



第62図 中土西運動A地点トレンチ子家測図1



① 地質調査所の調査結果により、IIa, IIb, III, IV, V, VIの層位は、
 Ⅰ Ⅱa Ⅱb Ⅲ Ⅳ Ⅴ Ⅵ
 Ⅰ Ⅱa Ⅱb Ⅲ Ⅳ Ⅴ Ⅵ
 Ⅰ Ⅱa Ⅱb Ⅲ Ⅳ Ⅴ Ⅵ
 Ⅰ Ⅱa Ⅱb Ⅲ Ⅳ Ⅴ Ⅵ
 Ⅰ Ⅱa Ⅱb Ⅲ Ⅳ Ⅴ Ⅵ
 Ⅰ Ⅱa Ⅱb Ⅲ Ⅳ Ⅴ Ⅵ
 Ⅰ Ⅱa Ⅱb Ⅲ Ⅳ Ⅴ Ⅵ
 Ⅰ Ⅱa Ⅱb Ⅲ Ⅳ Ⅴ Ⅵ



第63図 中土西遺跡A地点トレンチ発掘図2

17 高岡原遺跡C地点

所在地：山田字高岡原2041-3

調査原因：鉄塔建設

対象面積：291㎡

調査期間：17年11月17日

担当者：田中康雄

調査地は、境川左岸に面した玉名台地西側の標高25m程の地点で、弥生時代後期の大規模な集落跡と考えられる、高岡原遺跡の中央部北側に位置する。

調査では、敷地東側から西側に向かってL字形のトレンチを設定した。トレンチのほぼ全体にわたって、表土直下のII層上面で、弥生時代のものと考えられる遺構を確認した。

調査の結果を受け、施主側と協議を行い、埋蔵文化財に影響を与える範囲について発掘調査を行うことになった。

発掘調査の詳細については、別途刊行予定の報告書に掲載する。



第65図 高岡原遺跡C地点トレンチ配置図 S=1/1,000



写真24 高岡原遺跡C地点全景 東から



第64図 高岡原遺跡C地点地位図 S=1/5,000



写真25 高岡原遺跡C地点遺構検出状況 南から

18 玉名平野条里跡B地点 両迫間日渡遺跡

所在地：玉名御琴1218-2外15筆

調査原因：新幹線新玉名駅周辺整備事業

対象面積：30,699㎡

調査期間：17年11月21日～18年3月31日

担当者：末永 崇

調査地は、菊池川右岸の玉名平野中央部に位置する標高6m程の地点である。玉名平野条里跡と両迫間日渡遺跡の重複箇所、調査時の状況は水田及び水路である。

調査では、事業用地内に41カ所のトレンチを設定し、弥生時代から古墳時代にかけての遺物及び、古代から中世にかけての遺物を検出した。詳細については、発掘調査の報告書に掲載する予定である。



第66図 玉名平野条里跡・両迫間日渡遺跡位置図 S=15,000



第67図 玉名平野条里跡・両迫間日渡遺跡トレンチ配置図 S=1/2,000

19 玉名平野条里跡C地点

所在地：六田7-1

調査原因：事務所建設

対象面積：6,031.8㎡

調査期間：17年12月21日～12月26日

担当者：田中康雄

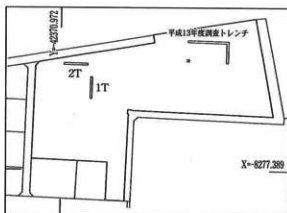
調査地は、J R玉名駅の南側、菊池川右岸平野部に位置する標高4m程の地点で、現況は砂利敷きの駐車場である。平成13年度に、同敷地内の事務所建設に伴う確認調査を実施し、その際の処置は慎重工事であった。

調査では、建物の北側と東側の基礎部分にトレンチを設定した。両トレンチとも、現代の水田耕作面と思われるものは確認されたが、古代条里跡に伴う水田面や畦、溝等は確認されなかった。

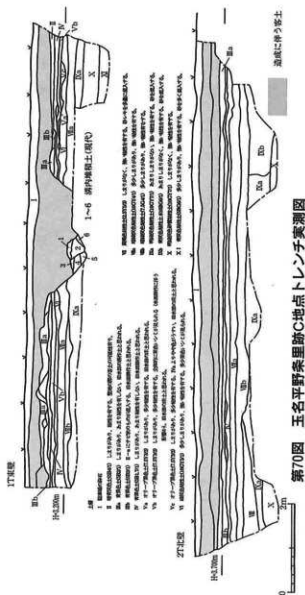
調査後の措置は、慎重工事である。



第68図 玉名平野条里跡C地点位置図 S=1/5,000



第69図 玉名平野条里跡C地点トレンチ配置図 S=1/1,000



20 岩崎原遺跡

所在地：岩崎字北岩原1317、1319

調査原因：運動場建設

対象面積：2,537㎡

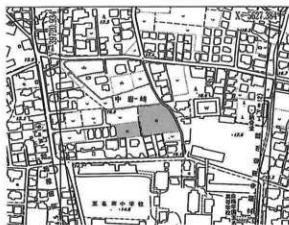
調査期間：18年1月10日～1月25日

担当者：中村安宏

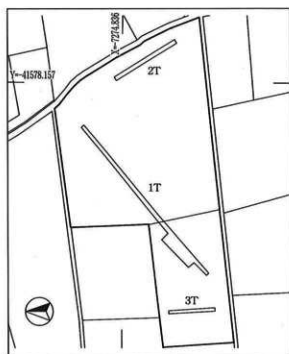
調査地は、紫根木川右岸に面した玉名台中西部に位置する標高17m程の地点である。近世末期高瀬藩陣屋跡の範囲にも含まれ、北西隣接地には、古代道路跡推定地も所在する。

調査では、造成予定地の東側に2トレンチ、西側に3トレンチ、隣接する古代道路跡推定地の延長線上に直交するように1トレンチを設定した。これらのうち、1トレンチでは、明確な遺物包含層は確認されなかったが、古代道路跡推定地の延長線上に、大型の溝状遺構が確認された。遺構内からは、中世から近世にかけての播鉢片、瓦質土器片、陶磁器片、瓦片が出土したが、硬化面等の道路跡と想定されるものは確認されなかった。2・3トレンチでは、遺構・遺物は確認されなかった。

調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、掘削が埋蔵文化財に影響を与えないため、調査後の措置は、慎重工事となった。



第71図 岩崎原遺跡調査地位置図 S=1/15,000



第72図 岩崎原遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000

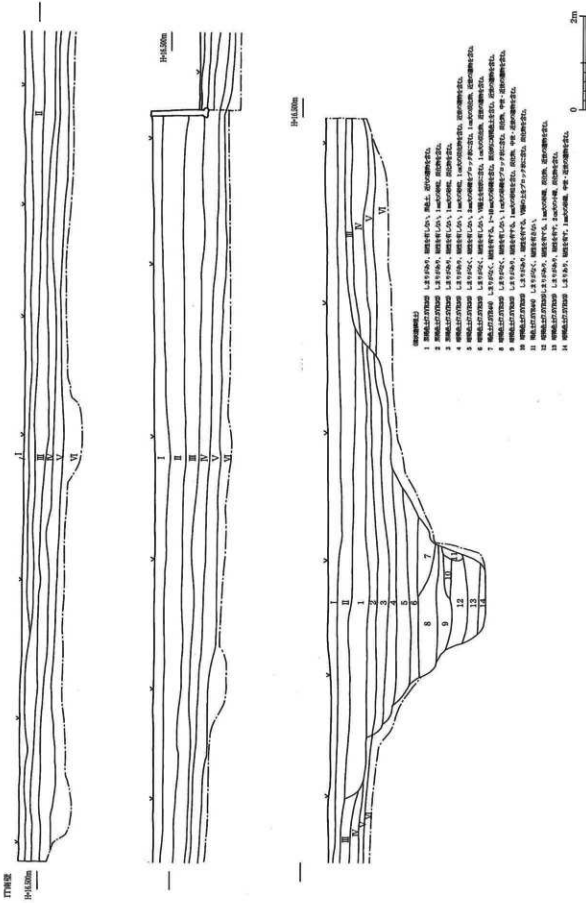


写真26 岩崎原遺跡調査地全景 東から

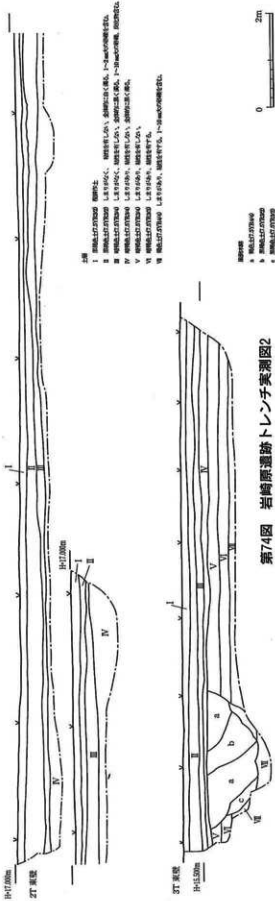


写真27 岩崎原遺跡1T遺構検出状況 西から

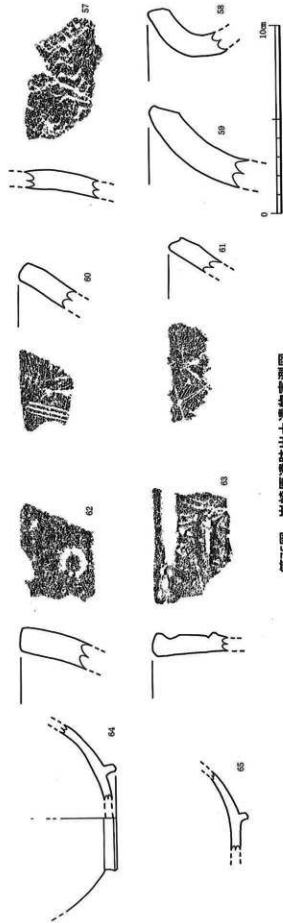
II 平成17年度の調査



第73図 岩崎原通訪トレンチ実測図1



第74図 岩崎新選跡トレン子家測図2



第75図 岩崎新選跡トレン子家測図3

2 1 山田神社門前遺跡

所在地：山田字上馬場162-1

調査原因：共同住宅建設

対象面積：832㎡

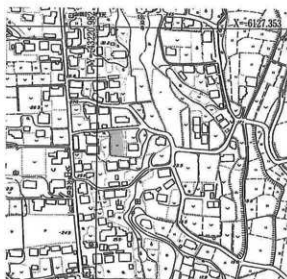
調査期間：18年2月22日～2月23日

担当者：齋父雅史

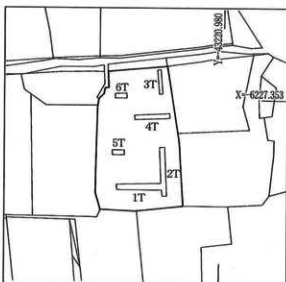
調査地は、境川右岸際の玉名台地北部に位置する標高29m程の地点である。調査時の状況は畑地で、隣接する東側の畑地より1m程低いことから、切土により造成されていることが予想された。

調査では、敷地内に6カ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、表土（耕作土）直下でローム層（V、VI、VII層）及び客土（II、III層）が確認されたことから、畑地造成に伴い地形が変更されたと考えられる。1トレンチ及び5トレンチでは、削平されたローム層上面で遺構を4基確認した。このうち、1トレンチで確認した土坑と思われる遺構からは、中世の土師器、瓦器、青磁の小片が出土した。他の遺構についても同時期のものと考えられる。

調査の結果を受け、施主側と協議を行った結果、施工に伴い埋蔵文化財に対する影響が発生することから、発掘調査が必要となったため、事業が中止されることになった。



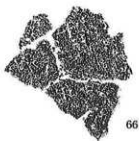
第76図 山田神社門前遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第77図 山田神社門前遺跡トレンチ位置図 S=1/1,000

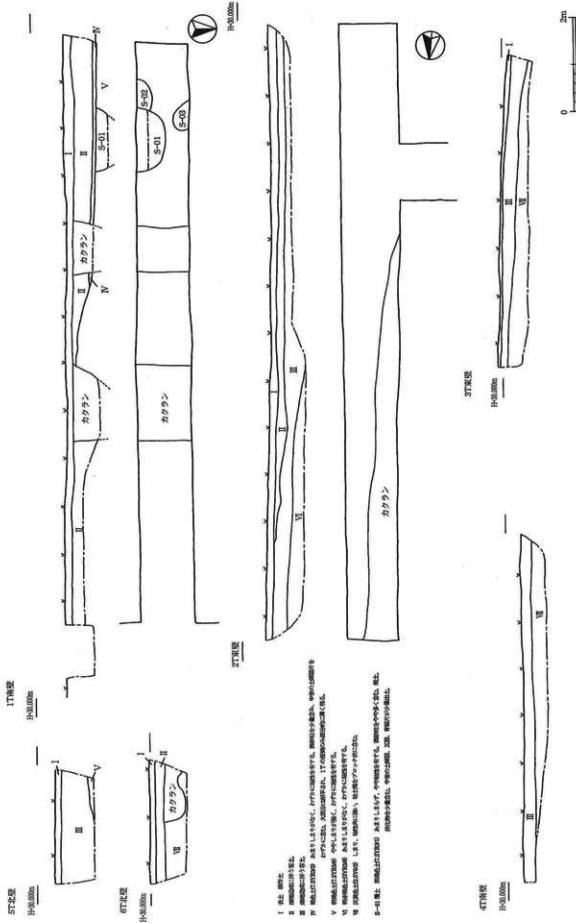


写真28 山田神社門前遺跡調査地全景 北から



第78図 山田神社門前遺跡出土遺物実測図

II 平成17年度の調査



第79図 山田神社前遺跡トレンチ調査図

2.2 亀甲遺跡

所在地：亀甲200-1外2筆

調査原因：事務所建設

対象面積：269.29㎡

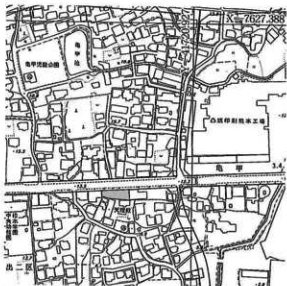
調査期間：18年2月27日

担当者：末永 崇

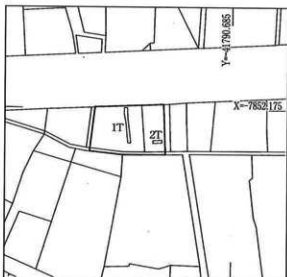
調査地は、菊池川支流の繁根木川右岸に面した玉名台地南側の標高13m程の地点で、玉名市中心市街地を東西に走る国道208号線の南沿いに位置する。調査時の状況は、既存建物解体後の更地及びアスファルト敷の駐車場であった。

調査では、敷地内に2カ所のトレンチを設定した。I～IV層は旧建物解体後の整地層及び旧建物基礎砕石層であった。V～VII層は、現地の地形、堆積状況及びその内容物から、近代以降の盛土層と判断した。VIII層は黄褐色土で、地山と考えられる。

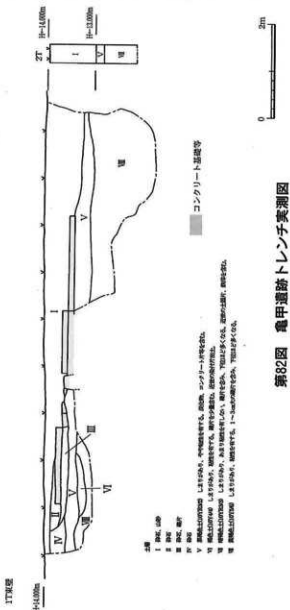
施工においては、基礎等の掘削がI～IV層内で収まるため、調査後の措置は、慎重工事となった。



第80図 亀甲遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第81図 亀甲遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第82図 亀甲遺跡トレンチ実測図

23 中ん城遺跡

所在地：片諏訪22-1

調査原因：農地進入路建設

対象面積：659㎡

調査期間：18年2月28日～3月8日

担当者：兵谷有利

調査地は、菊池川左岸に面した、伊倉丘陵性台地南西部の標高25m程の地点である。平成10年度に実施された伊倉城範囲確認調査の範囲と一部重複しており、その際には、弥生時代の住居跡や中世のピット、陶磁器類が確認されている。

調査では、進入路建設予定地の内、平成10年度の調査区に含まれていない部分全域を調査区として設定した。Ⅰ層は表土、Ⅱ層はぶい黄褐色土、Ⅲ層は黒褐色土、Ⅳ層は褐色土であった。Ⅱ・Ⅲ層は炭化物・土器細片を含み、Ⅳ層上面で土坑2基とピット群を検出した。遺構はすべて調査を行い、土師器、青磁小片等が出土した。またピット群の内1基から、備前系甕の小片も出土した。

調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、施工対象部については調査を完了したため、調査後の措置は慎重工事となった。



第84図 中ん城遺跡調査区配置図 S=1/1,000



写真29 中ん城遺跡調査地遠景 西から

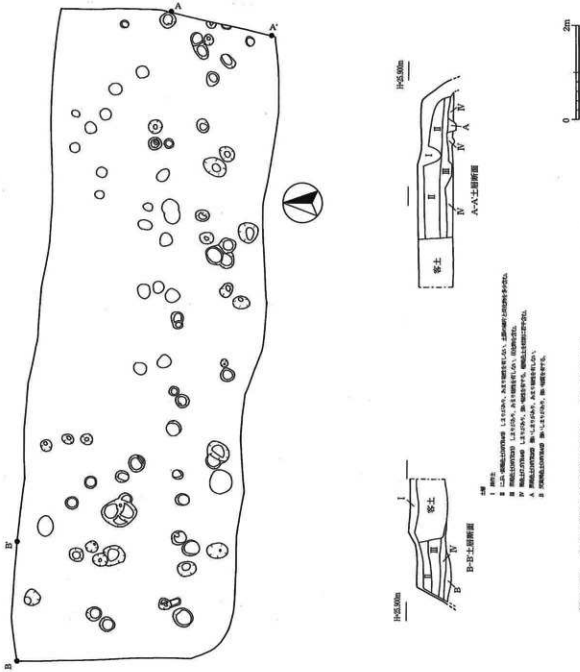


第83図 中ん城遺跡調査位置図 S=1/5,000

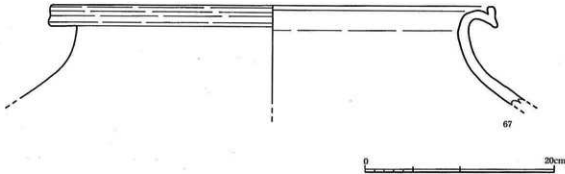


写真30 中ん城遺跡調査地全景 東から

II 平成17年度の調査



第85図 中ん城遺跡遺構配置図・土層断面図



第86図 中ん城遺跡出土遺物実測図

24 中土西遺跡B地点

所在地：岱明町山下字池平14-1

調査原因：車庫建設

対象面積：448.88㎡

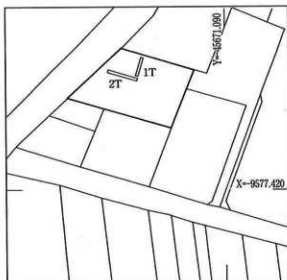
調査期間：18年2月28日

担当者：中村安宏

調査地は、玉名市の西部、小代山南部を源流とする境川と行末川の間に北から張り出した玉名台地南側の標高13m程の地点である。岱明中学校北側隣接地で、調査時の状況は畑地であった。

調査では、車庫建設予定箇所に2ヶ所のトレンチを設定した。両トレンチとも、I層は耕作土、II層は暗褐色土、III層は極暗褐色土、IV層は黒色土であった。このうち、IV層中に時期不明の土器細片1点を確認したが、その他に遺構・遺物は確認されなかった。

調査後の措置は慎重工事である。



第88図 中土西遺跡B地点トレンチ配置図 S=1/1,000



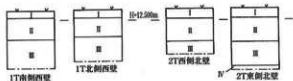
写真31 中土西遺跡B地点全景 西から



第87図 中土西遺跡B地点位置図 S=1/5,000



写真32 中土西遺跡B地点2T全景 西から



第89図 中土西遺跡B地点土層断面図

注
 1 調査は土質調査と同時
 2 調査は土質調査と同時
 3 調査は土質調査と同時
 4 調査は土質調査と同時



25 大塚・惣萩遺跡

所在地：立願寺字大塚1049

調査原因：宅地造成

対象面積：602㎡

調査期間：18年3月3日

担当者：藪父雅史

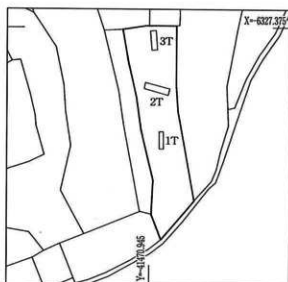
調査地は、小代山南側丘陵部の南東裾部に位置する、標高35m程の地点である。調査時の状況は、丘陵裾部の宅地であり、周辺の地形から、丘陵裾の谷を埋め立てて宅地化したものと想像された。

調査では、敷地に3カ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、現況面から1m程掘り下げ確認をおこなったが、すべて埋め立てに伴う客土であり、遺構、遺物は確認されなかった。

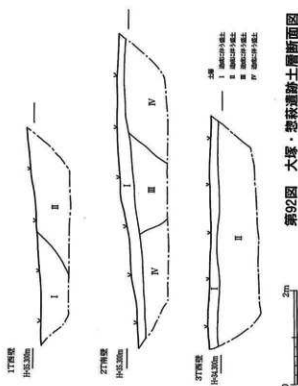
調査後の措置は、慎重工事である。



第90図 大塚・惣萩遺跡調査地位位置図 S=1/5,000



第91図 大塚・惣萩遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第92図 大塚・惣萩遺跡土層断面図

26 高岡原遺跡D地点

所在地：山田字高岡原2049-1

調査原因：専用住宅建設

対象面積：430.88㎡

調査期間：18年3月7日～3月10日

担当者：蘆父雅史

調査地は、境川左岸に面した玉名台地西側の標高24m程の地点で、弥生時代後期の大規模な集落跡と考えられる高岡原遺跡のほぼ中央部に位置する。調査時の状況は、畑地を宅地化したものであった。

調査では、敷地内に6ヶ所のトレンチを設定した。そのうち1～4トレンチで弥生時代後期及び時期不明の遺構と、弥生時代後期・古代・中世の遺物を確認した。

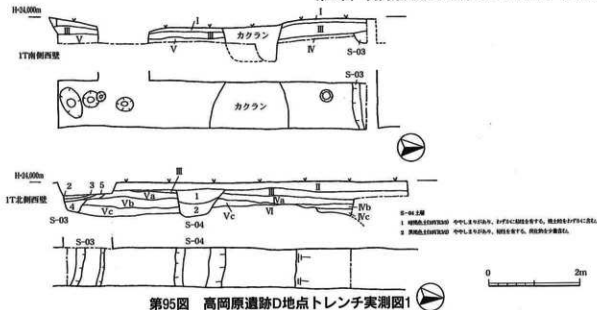
調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、施工の際に影響が生じる擁壁部分については、調査を完了したため、調査後の措置は慎重工事となった。



第93図 高岡原遺跡D地点位置図 S=1/5,000

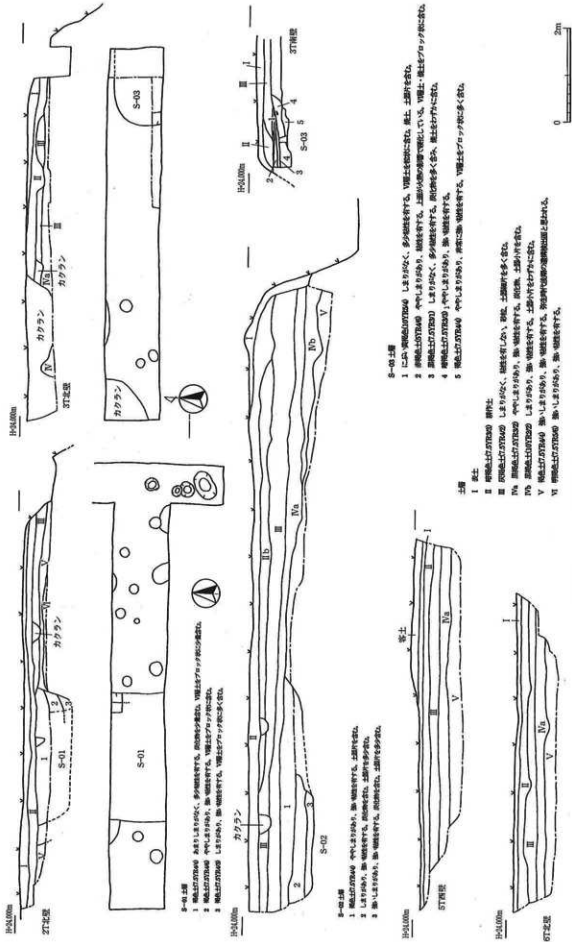


第94図 高岡原遺跡D地点トレンチ配置図 S=1/1,000



第95図 高岡原遺跡D地点トレンチ実測図1

II 平成17年度の調査



27 春出遺跡

所在地：中字陣内1452-9

調査原因：専用住宅建設

対象面積：247.4㎡

調査期間：18年3月8日～3月9日

担当者：中村安宏

調査地は、境川左岸に面した、玉名台地南西端部の標高16.7m程の地点である。調査時の状況は、旧畑地を宅地化したものであった。

調査では、敷地に3ヶ所のトレンチを設定した。I層は宅地化した際の客土、II a・b層は黒褐色土、III層は褐色土、IV層は暗褐色土、V層は黒褐色土、VI層は暗褐色土であった。このうち、IV層中に粒状の土器細片が含まれ、V層中にも土器小片が確認された。また、1トレンチVI層上面で時期不明のピット2基を確認した。

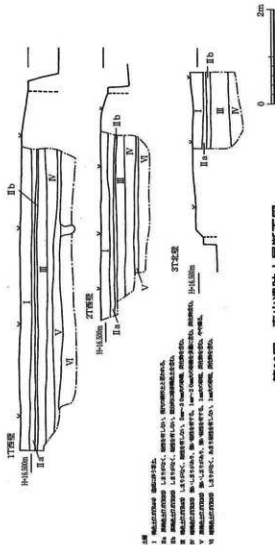
調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、施工内容が埋蔵文化財に影響を与えないため、調査後の措置は慎重工事となった。



第97図 春出遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第98図 春出遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第99図 春出遺跡土層断面図

28 年の神遺跡

所在地：岱明町野口字早馬2823-3

調査原因：専用住宅建設

対象面積：408.87㎡

調査期間：18年3月14日～3月15日

担当者：齋父雅史

調査地は、玉名市の中西部、境川と友田川に挟まれた台地上に位置する標高15m程の地点である。昭和43年に大規模な開田造成が行われており、調査時の状況は畑地であった。

調査では、敷地内に4ヶ所のトレンチを設定した。Ⅰ層は表土、Ⅱa・b層は耕作土及び開田造成に伴う客土、Ⅲa・b層は開田造成に伴う客土、Ⅳ層は黒褐色土、Ⅴ層は暗褐色土、Ⅵ層は褐色の粘性土であった。これらのうち、Ⅳ層で古代及び弥生時代の土器片を少量確認し、Ⅴ層上面で古代あるいは弥生時代の遺構と思われるものを確認した。

調査の結果、埋蔵文化財が確認されたため、施工の際に影響が発生する進入路部分について、発掘調査を実施することとなった。



第101図 年の神遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



写真33 年の神遺跡調査地全景1 北から



第100図 年の神遺跡調査地位置図 S=1/5,000



写真34 年の神遺跡調査地全景2 東から

29 菊池川水運・水制調査

所在地：菊池川流域一帯

(高瀬大橋～新大浜橋までの区間)

調査期間：17年7月1日～18年3月31日

担当者：兵谷有利

菊池川は、阿蘇外輪山深葉山地（阿蘇市）に発し、熊本県北部の菊池・鹿本・玉名郡和水町を経て、玉名市の大浜・滑石で有明海に注いでおり、熊本県内では、球磨川、緑川につく一級河川である。菊池川は、玉名市のほぼ中央部を貫流しているが、その両岸には、近世期の港施設及び加藤清正が行った治水工事により考案された水制施設と伝えられる、脇・羽が残存している。

脇は、ワキ、ワクノハナ、デブチンとも呼ばれる石積の構造物で、増水時に堤防を守るため、河川が蛇行する外周部分の堤外地（河川側）に設置された。特徴は、石積が高く、先端部は河川の下流側を向き、短い。

羽は、「羽根」とも書き、水流を羽ね、河川中央部に水流を集中させることが主な機能である。特徴は、石積が低く、河川の下流側中央部を向き、長く延びる。

また、脇や羽は、堤防を守る機能以外に、河川堆積を調整し、高瀬・大浜・晒の港施設の水深を確保する役割も果たしていた。

調査では、高瀬大橋から下流側を対象とし、安政二（1855）年の菊池川全図に記載のある水運・水制施設の分布及びその構造・規模について調査を行った。結果、右岸に港2箇所、脇25箇所、羽3箇所、不明石積1箇所、左岸に港2箇所、脇21箇所、羽6箇所を確認した。これらについては位置図を作成し、脇・羽については石積の種類・段数・修復痕の確認及び、長さ、幅、高さを計測し、台帳を作成した。尚、分布図上の欠番については、絵図上に記載があるが確認できなかったものである。



写真35 菊池川流域港施設

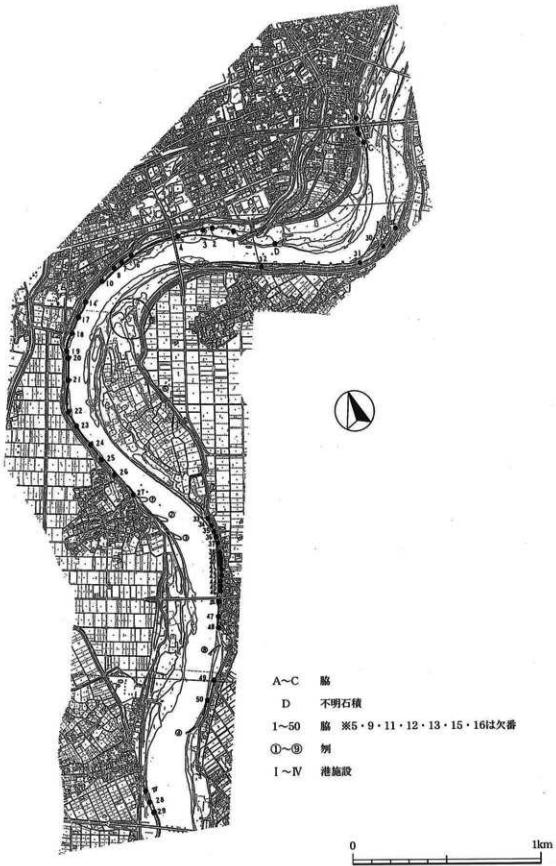


写真36 菊池川流域脇施設



写真37 菊池川流域羽施設

II 平成17年度の調査



第103図 菊池川流域港施設・橋・別分布図

II 平成17年度の調査

第3表 平成17年度出土遺物観察表

遺跡番号	遺跡名	遺物名	遺物種別	口徑cm	底径cm	脚高保存cm	脚径(外)	脚径(内)	色澤(外)	色澤(内)	新土	備考
1	田原遺跡	出土土瓦	瓦	不明	0.0	不明	ヨコナガナナ子	ナナ子	にぶい黄褐色 10YR7/4	暗褐色 10YR7/1 黒色 N2Y/1	新土	褐色
2	田原遺跡	ビット内 中土土器	瓦	8.6	5.4	1.1	ナナ子	ロクロナナ子	暗褐色 10YR8/4	暗褐色 10YR8/4	新土	青
3	田原遺跡	ビット内 中土土器	瓦	不明	不明	不明	ナナ子	ナナ子	暗褐色 7.5YR7/6	暗褐色 7.5YR7/6	新土	青
4	田原遺跡	ビット内 中土土器	瓦	9.3	7.4	0.9	ナナ子	ナナ子	暗褐色 7.5YR7/6	暗褐色 7.5YR7/6	新土	青
5	田原遺跡	ビット内 中土土器	瓦	8.8	7.4	0.78	ナナ子	ナナ子	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	新土	青
6	田原遺跡	瓦	瓦	19.2	0.5	0.8	ナナ子	ナナ子	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	新土	青
7	田原遺跡	瓦	瓦	23.6	0.4	0.3	ヨコナガナナ子	ナナ子	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/4	新土	青
8	田原遺跡	瓦	瓦	17.2	0.8	0.9	不明	不明	暗褐色 7.5YR7/6	暗褐色 7.5YR7/6	新土	青
9	田原遺跡	瓦	瓦	11.5	0.6	0.6	不明	不明	暗褐色 5YR6/6	暗褐色 7.5YR7/6	新土	青
10	田原遺跡	瓦	瓦	不明	13.7	0.3	ハケム	ヨコナガナナ子	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	新土	青
11	田原遺跡	瓦	瓦	不明	11.4	0.3	ハケム	ヨコナガナナ子	暗褐色 7.5YR7/6	暗褐色 7.5YR7/6	新土	青
12	田原遺跡	瓦	瓦	不明	12.4	0.3	不明	ハナム	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	新土	青
13	田原遺跡	瓦	瓦	不明	10.6	0.2	ハケム	ハナム	暗褐色 10YR8/4	暗褐色 10YR8/4	新土	青
14	田原遺跡	瓦	瓦	不明	11.6	0.7	ハケム	ナナ子	暗褐色 7.5YR6/6	暗褐色 7.5YR6/6	新土	青
15	高尾遺跡	瓦	瓦	不明	10.5	0.6	ハケム	ハナム	暗褐色 10YR8/4	暗褐色 10YR8/4	新土	青
16	高尾遺跡	瓦	瓦	不明	不明	不明	不明	不明	暗褐色 10YR8/4	暗褐色 10YR8/4	新土	青
17	高尾遺跡	瓦	瓦	不明	11.6	0.7	ハケム	ナナ子	暗褐色 7.5YR6/6	暗褐色 7.5YR6/6	新土	青
18	高尾遺跡	瓦	瓦	不明	不明	不明	不明	不明	暗褐色 7.5YR6/6	暗褐色 7.5YR6/6	新土	青
19	高尾遺跡	瓦	瓦	不明	不明	不明	不明	不明	暗褐色 10YR8/6	暗褐色 10YR7/4	新土	青
20	高尾遺跡	瓦	瓦	25.2	0.4	0.4	ナナ子	ナナ子	暗褐色 5YR6/6	暗褐色 5YR6/6	新土	青
21	高尾遺跡	瓦	瓦	不明	不明	不明	不明	不明	暗褐色 10YR7/6	暗褐色 10YR7/6	新土	青
22	高尾遺跡	瓦	瓦	不明	不明	不明	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR8/4	にぶい黄褐色 10YR8/4	新土	青
23	高尾遺跡	瓦	瓦	13.4	0.3	0.3	不明	不明	暗褐色 10YR7/6	暗褐色 5YR7/6	新土	青
24	高尾遺跡	瓦	瓦	15.6	0.3	0.3	不明	不明	暗褐色 7.5YR7/6	暗褐色 7.5YR7/6	新土	青
25	高尾遺跡	瓦	瓦	11.2	0.3	0.3	不明	不明	暗褐色 5YR6/6	暗褐色 5YR6/6	新土	青
26	高尾遺跡	瓦	瓦	不明	不明	不明	不明	不明	暗褐色 5YR6/6	暗褐色 5YR6/6	新土	青
27	高尾遺跡	瓦	瓦	20.2	0.3	0.3	不明	不明	暗褐色 5YR6/6	暗褐色 5YR6/6	新土	青
28	高尾遺跡	瓦	瓦	不明	7.0	0.2	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/2	新土	青
29	高尾遺跡	瓦	瓦	11.6	0.3	0.3	不明	不明	にぶい黄褐色 5YR6/6	暗褐色 5YR7/6	新土	青
30	高尾遺跡	瓦	瓦	不明	不明	不明	不明	不明	暗褐色 5YR7/2	暗褐色 5YR7/2	新土	青
31	高尾遺跡	瓦	瓦	15.0	0.3	0.3	不明	不明	暗褐色 5YR7/2	暗褐色 5YR7/2	新土	青
32	高尾遺跡	瓦	瓦	10.0	0.3	0.3	不明	不明	暗褐色 5YR7/2	暗褐色 5YR7/2	新土	青
33	高尾遺跡	瓦	瓦	0.3	0.4	0.4	不明	不明	暗褐色 5YR7/2	暗褐色 5YR7/2	新土	青
34	高尾遺跡	瓦	瓦	0.7	0.6	0.6	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
35	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
36	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
37	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
38	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
39	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
40	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
41	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
42	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
43	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
44	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
45	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
46	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
47	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
48	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
49	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
50	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
51	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
52	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
53	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
54	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
55	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
56	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
57	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
58	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
59	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青
60	高尾遺跡	瓦	瓦	0.1	0.7	0.7	不明	不明	暗褐色 10YR8/1	暗褐色 10YR8/1	新土	青

II 平成17年度の調査

第3表 平成17年度出土遺物観察表

調査番号	遺跡名	出土方法	調査	遺物	部位	口部径	底径	胴部高さ	胴部口径	調査(外)	調査(内)	色調(外)	色調(内)	土質	備考
36	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	(18.7)	2.4	4.4	4.4	春日任瓦	黒目タタキ	黒目タタキ	黒目タタキ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
37	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	(15.7)	2.2~2.8	4.4	4.4	春日任瓦	黒目タタキ	黒目タタキ	黒目タタキ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
38	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	(18.8)	2.3~2.3	4.4	4.4	春日任瓦	黒目タタキ	黒目タタキ	黒目タタキ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
39	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	(26.0)	2.3~2.8	4.4	4.4	春日任瓦	黒目タタキ	黒目タタキ	黒目タタキ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
40	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	(6.0)	2.0	4.4	4.4	春日任瓦	黒目タタキ	黒目タタキ	黒目タタキ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
41	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	36.6	2.8~2.2	4.4	4.4	春日任瓦	黒目タタキ	黒目タタキ	黒目タタキ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
42	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	(7.9)	2.0	4.4	4.4	春日任瓦	不明	不明	不明	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	中・員
43	立派南蔵寺	3T 3層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	(10.5)	2.1~2.4	4.4	4.4	春日任瓦	黒目タタキ	黒目タタキ	黒目タタキ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	中・員
44	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	(22.2)	2.1~2.4	4.4	4.4	春日任瓦	黒目タタキ	黒目タタキ	黒目タタキ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	中・員
45	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	(10.3)	1.8~2.3	4.4	4.4	春日任瓦	ナガヘハノ溝	ナガヘハノ溝	ナガヘハノ溝	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
46	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	(11.1)	0.9	4.4	4.4	春日任瓦	黒目タタキ	黒目タタキ	黒目タタキ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
47	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	(22.4)	1.8~2.2	4.4	4.4	春日任瓦	黒目タタキ ナジ	黒目タタキ ナジ	黒目タタキ ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
48	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	(14.3)	0.9	4.4	4.4	春日任瓦	黒目タタキ ナジ	黒目タタキ ナジ	黒目タタキ ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
49	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	(6.2)	2.0~2.2	4.4	4.4	春日任瓦	黒目タタキ ナジ	黒目タタキ ナジ	黒目タタキ ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	中・員
50	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	(9.0)	2.0~2.2	4.4	4.4	春日任瓦	黒目タタキ ナジ	黒目タタキ ナジ	黒目タタキ ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	中・員
51	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	15.6(縦横)	—	1.1~1.8	—	—	ナガヘハノ溝	ナガヘハノ溝	ナガヘハノ溝	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
52	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	(14.3)	(6.2)	1.2~1.6	4.4	春日任瓦	ナガヘハノ溝	ナガヘハノ溝	ナガヘハノ溝	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
53	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	(11.3)	(9.1)	1.2	4.4	春日任瓦	ナジ	ナジ	ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
54	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	19.6	(9.0)	(9.0)	4.4	春日任瓦	ナジ	ナジ	ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
55	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	—	—	—	—	—	ナジ	ナジ	ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
56	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	—	—	—	—	—	ナジ	ナジ	ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
57	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	—	—	—	—	—	ナジ	ナジ	ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
58	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	—	—	—	—	—	ナジ	ナジ	ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
59	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	—	—	—	—	—	ナジ	ナジ	ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
60	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	—	—	—	—	—	ナジ	ナジ	ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
61	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	—	—	—	—	—	ナジ	ナジ	ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
62	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	—	—	—	—	—	ナジ	ナジ	ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
63	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	—	—	—	—	—	ナジ	ナジ	ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
64	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	—	—	—	—	—	ナジ	ナジ	ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
65	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	—	—	—	—	—	ナジ	ナジ	ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
66	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	—	—	—	—	—	ナジ	ナジ	ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員
67	立派南蔵寺	3T 4層	瓦(古灰)	平瓦	瓦当部	—	—	—	—	—	ナジ	ナジ	ナジ	1. 土質中の片断、黒色の土をまじり含む。	員

()内は保存箇所

III 平成18年度の調査

年の神遺跡

玉名平野条里跡A地点

京塚遺跡

玉名平野条里跡B地点

高瀬本町通遺跡

上ノ辻遺跡

繁根木遺跡群

蓮華遺跡

築地東遺跡

今泉遺跡A地点

立願寺廃寺

山田松尾平遺跡

岩崎原遺跡

中北アカハゲ古墳

今泉遺跡B地点

高岡原遺跡

五郎丸遺跡A地点

玉名平野条里跡C地点

備中遺跡

吉丸西遺跡

古閑遺跡

中道遺跡

上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡

両迫間日渡遺跡

寺田久保遺跡

五郎丸遺跡B地点

大野下ホームセンター予定地

山田山口遺跡

中土西遺跡

伊倉南方ホームセンター予定地

玉名高校校庭遺跡

石貫ナギノ横穴群

ジュルクン谷製鉄跡

1 年の神遺跡

所在地：岱明町野口字早馬2823-3

調査原因：専用住宅建設

対象面積：409.87㎡

調査期間：18年3月30日～5月12日

担当者：齋父雅史

(1) 調査に至る経緯

当地での専用住宅建設に伴い、平成18年2月28日付けで埋蔵文化財発掘の届出があり、平成19年3月14、15日に確認調査を実施した。その結果、埋蔵文化財が確認されたため、施主、関係者と協議し、敷地409.87㎡のうち、施工の際に埋蔵文化財への影響が発生する90㎡について発掘調査を実施した。

(2) 調査体制

発掘調査（平成18年度）

調査期間 平成18年3月30日～5月12日

調査担当 技師 齋父雅史

発掘作業員 北嶋百合子 古賀武子

佐藤建郎 竹内伴英

田上俊子 平野輝代

福島年春 堀田裕子

吉田ムツ子

整理作業（平成19年度）

整理・報告書担当 主任 田中康雄

整理作業員 坂崎郷子 五野富美子

早川イツエ 榎藤 功

(3) 遺跡の概要

年の神遺跡は、小代山南東部を源流とする、境川と友田川に挟まれた台地の北東部に位置する、弥生時代及び古代の大規模な複合遺跡である。昭和43年の大規模な開田造成に伴い発掘調査が実施され、支石墓、甕棺墓、貝塚等が確認されている。

当台地上には、縄文時代から中世にかけての遺跡が多数分布する。旧海岸線である台地南、東端部には、縄文時代の浜田貝塚、古閑原貝塚、

庄司貝塚、尾崎貝塚が所在し、その他縄文時代の遺物包蔵地が散在している。弥生時代の遺跡では、甕棺墓や箱式石棺群が確認されている塚原遺跡、甕棺墓が確認されている岱明町総合グラウンド遺跡、集落跡である山下遺跡、その他多くの包蔵地、集落跡等が所在している。台地南東端部には、藤光寺古墳、弁財天古墳が所在し、その他古墳時代の石蓋土墳墓や遺物包蔵地が散在している。その他、古代の包蔵地や、中世の城館跡、寺院跡も数多く所在し、また台地北側の友田川を挟んだ対岸の台地上にも、縄文時代から中世にかけての遺跡が多数分布している。



第104図 年の神遺跡調査地位置図 S=1/5,000



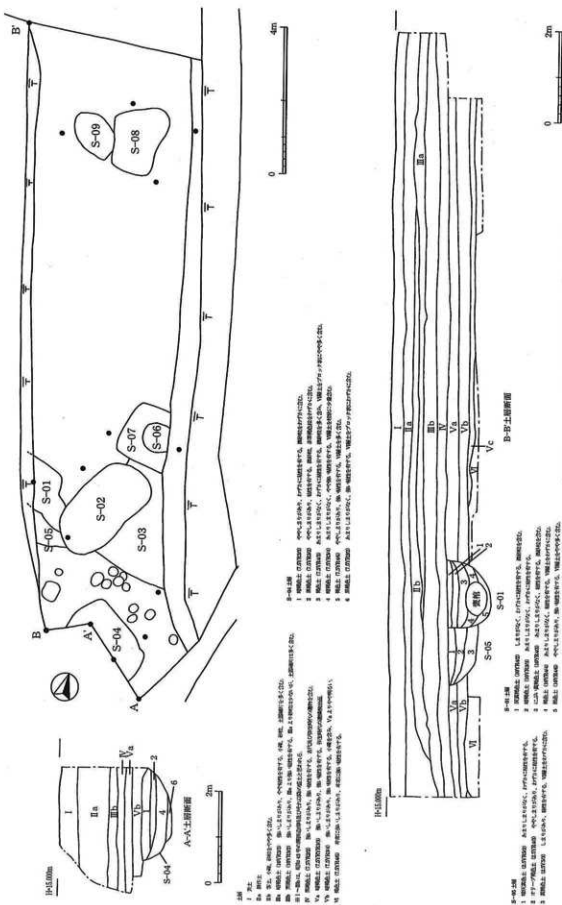
第105図 年の神遺跡調査区配置図 S=1/1,000

Ⅲ 平成18年度の調査



- | | | | | |
|--------------|--------------|-----------------|-------------|------------|
| 1 年の神道跡 | 15 藤光寺古墳 | 29 山下前畑道跡 | 43 中土屋敷跡 | 57 東旗布道跡 |
| 2 塚原石蓋土墳墓群 | 16 幸長寺跡 | 30 大野小学校石蓋土墳墓 | 44 貴船東道跡 | 58 旗布道跡 |
| 3 塚原道跡 | 17 幸長寺道跡 | 31 下野口石蓋土墳墓 | 45 貴船道跡 | 59 今泉道跡 |
| 4 塚原古墳 | 18 無量山寿福寺跡 | 32 下野口道跡 | 46 大原道跡 | 60 今泉古墳 |
| 5 尾崎道跡 | 19 浜田貝塚 | 33 東中土道跡 | 47 築地市場道跡 | 61 吉宝寺跡 |
| 6 尾崎貝塚 | 20 浜田西原古墳参考地 | 34 中土館跡 | 48 貴船西道跡 | 62 今泉西道跡 |
| 7 山下道跡 | 21 浜田吹上古墳 | 35 願正寺跡 | 49 下前原道跡 | 63 岩倉山平等寺跡 |
| 8 庄町貝塚 | 22 上鍋道跡 | 36 中土館ノ尾道跡 | 50 正覚寺跡 | 64 満福禪寺跡 |
| 9 古閑原貝塚 | 23 浜田西原道跡 | 37 万福寺跡 | 51 今見堂道跡 | 65 陣館跡 |
| 10 イッチャンサン道跡 | 24 中土西道跡 | 38 中土西宮の前道跡 | 52 築地太郎国秀館跡 | 66 上村城跡 |
| 11 高道城跡 | 25 山下西道跡 | 39 下村城跡 | 53 淨幸寺跡 | |
| 12 舟附天古墳 | 26 仏教寺跡 | 40 目倉尾道跡 | 54 下前原西道跡 | |
| 13 石橋古墳 | 27 中道石蓋土墳墓 | 41 中尾崎道跡 | 55 菊ノ尾道跡 | |
| 14 藤光寺跡 | 28 中道道跡 | 42 信明町総合グラウンド道跡 | 56 天満宮古墳参考地 | |

第106図 年の神道跡周辺遺跡分布図 S-1/20,000



第107図 年の神通跡遺構配置区土層断面図

Ⅲ 平成18年度の調査

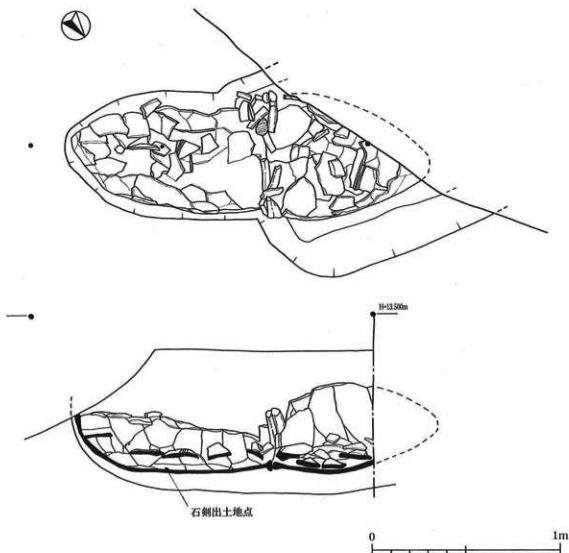
(4) 調査の方法

調査では、施工範囲のうち、埋蔵文化財に影響が発生する進入路設置部（90m）に調査区を設定した。昭和43年の開田造成に伴う客土と考えられるⅠ～Ⅲ層までを重機で掘削し、それ以下は人力で作業を行った。検出した遺構には、それぞれ番号を付けて掘り下げた。実測は、遺構配置図を1/100、それ以外を1/10及び1/20スケールで行い、撮影は35mmカラーリバーサル及びモノクロフィルムにより行った。

(6) 遺構・遺物

① 弥生時代の遺構・遺物 ・ 甕棺墓（S-01）

調査区南東部に位置する。残存状況から、土庄により甕棺上半部が潰れ、それにともない墓墳上半部も陥没したと思われる。おそらく、隅丸形状の1次墓墳東側に2次墓墳が掘られていると考えられ、墓墳西側が調査区外に及んでいるため、全体規模は不明である。甕（上）と甕（下）による合口棺で、主軸方位はN-46°-Wである。



第108図 年の神遺跡 S-01 実測図

Ⅲ 平成18年度の調査

・土坑

S-02

調査区南側中央部に位置する。長さ2.9m、幅1.5m、深さ0.96mの楕円形を呈する。

S-03

調査区南東部に位置する。数基の遺構に切られ、大部分が調査区外に及んでいるため全体形は不明である。住居跡の可能性も考えられるが、柱穴、炉跡、硬化面等の住居跡に伴う遺構は確認されていない。

S-04

調査区南端部に位置する。遺構が調査区外に及ぶため全体形は不明である。検出部で、長さ2.3m、深さ0.58mを測り、隅丸方形もしくは、隅丸長方形を呈するものと思われる。

S-05

調査区南西部に位置する。S-01・02によ

り切れられ、また遺構が調査区外に及んでいるため全体形は不明である。検出部で深さ0.6mを測る。

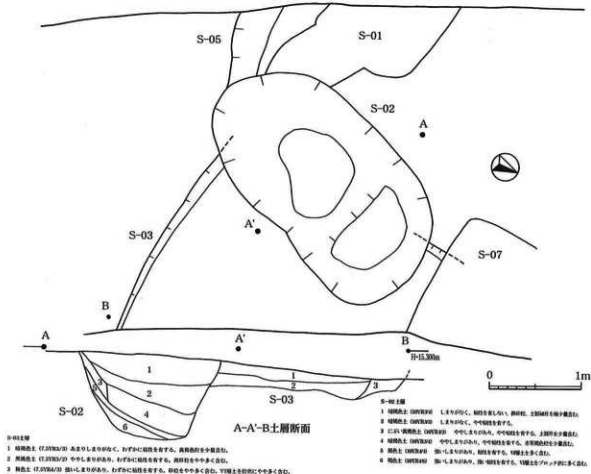
S-06

調査区中央部東側に位置する。遺構上部をS-07に切られているが、ほぼ円形に近い形状を呈するものと思われる。残存部で直径1.6m、深さ0.8mを測る。

②古代の遺構・遺物

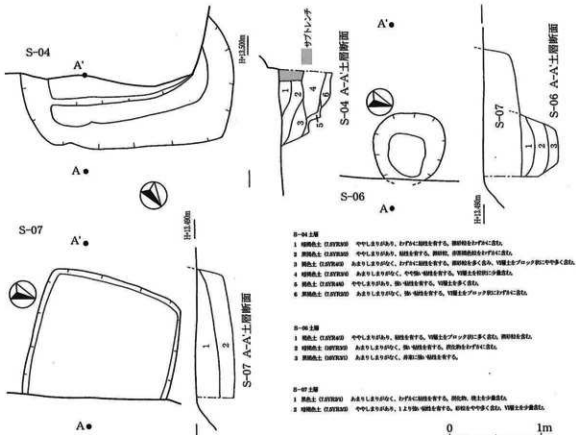
S-07

調査区中央部東側に位置する。遺構東側が調査区外に及んでいるため全体形は不明であるが、隅丸方形あるいは隅丸長方形を呈するものと思われる。検出部で、長さ3.0m、深さ0.85mを測る。奈良時代末期から平安時代初頭にかけてのものと思われる須恵器、土師器が出土している。

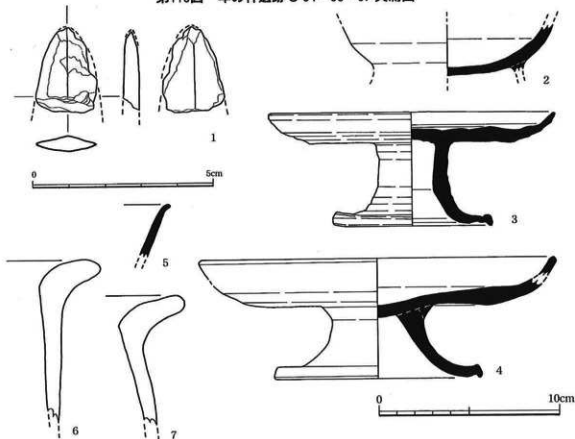


第109図 年の神遺跡 S-02・03・05 実測図

Ⅲ 平成18年度の調査



第110図 年の神遺跡 S-04・06・07 実測図



第111図 年の神遺跡 S-01・07 出土遺物実測図

Ⅲ 平成18年度の調査

③時期不明の遺構

S-08

調査区北側中央部に位置する。長さ1.8m、幅1.2m、深さ0.5mの土坑で、隅丸長方形を呈する。

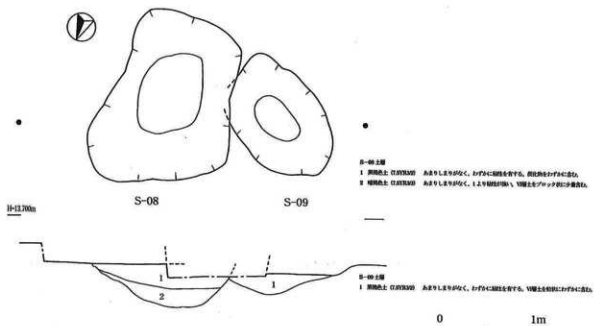
S-09

調査区北側中央部に位置する。長さ1.5m、

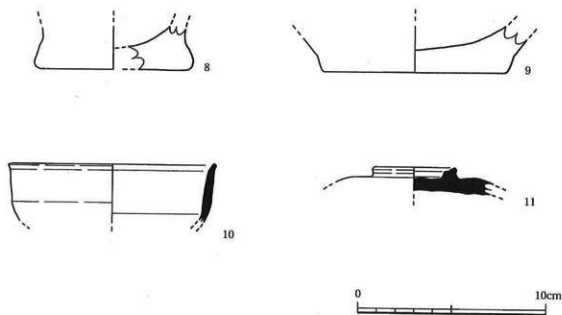
幅0.9m、深さ0.3mの土坑で、楕円形を呈するものと思われる。

その他時期不明のピットを数基確認したが、前述の土坑2基も含め、性格は不明である。

土層中からは、IV層から、弥生時代中期の土器片、奈良時代末期～平安時代初頭の須恵器・土師器片が出土している。



第112図 年の神遺跡 S-08・09 実測図



第113図 年の神遺跡出土遺物実測図



写真38 年の神遺跡S-01検出状況 西から



写真39 年の神遺跡調査区全景 北から

2 玉名平野条里跡A地点

所在地：岩崎140

調査原因：市民会館建設

対象面積：1,875.84㎡

調査期間：18年4月12日

担当者：中村安宏

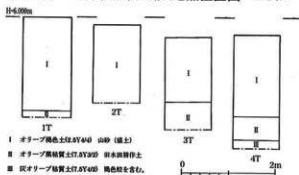
調査地は、菊池川右岸の玉名平野西端部、繁根木川左岸堤防際の標高5.8m程の地点である。調査時の状況は、盛土により造成され、駐車場として利用されていた。

調査では、敷地の4ヶ所にトレンチを設定した。各トレンチとも、1.4~2.0mの真砂土による盛土を確認し、その下に旧水田耕作土を確認した。最大で2.4m程掘り下げたが、現代の水田耕作土及びその床土を確認するに止まり、遺構、遺物は確認されなかった。

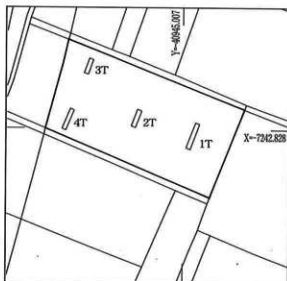
調査後の措置は、慎重工事である。



第114図 玉名平野条里跡A地点位置図 S=1/5,000



第116図 玉名平野条里跡A地点土層断面図



第115図 玉名平野条里跡A地点トレンチ配置図 S=1/1,000



写真40 玉名平野条里跡A地点全景 東から



写真41 玉名平野条里跡A地点1T全景 北から

3 京塚遺跡

所在地：岱明町開田381-1外5筆

調査原因：店舗建設

対象面積：86,504.78㎡

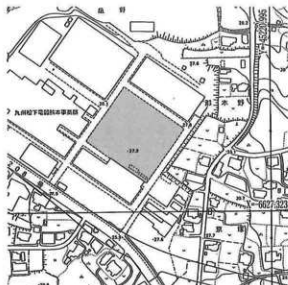
調査期間：18年4月25日～4月28日

担当者：中村安宏

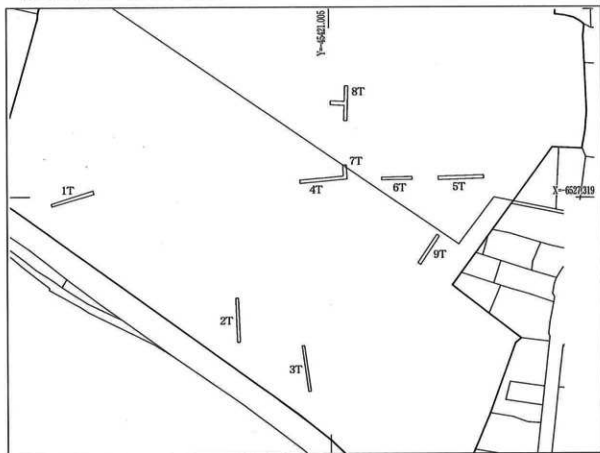
調査地は、玉名市の西端部、行末川と今泉川に挟まれた小代山麓丘陵上の標高28m程の地点である。調査時の状況は工場跡地で、かつて院塚古墳が所在していた箇所にあたる。

調査では、事業予定地内に10ヶ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、表土は工場建設時の造成に伴う客土で、その下層は、大部分が砂礫層（赤田層）であった。このことから、当地においては、工場建設時に大規模な切土がなされ、埋蔵文化財は残存していないものと考えられる。

調査後の措置は、慎重工事である。

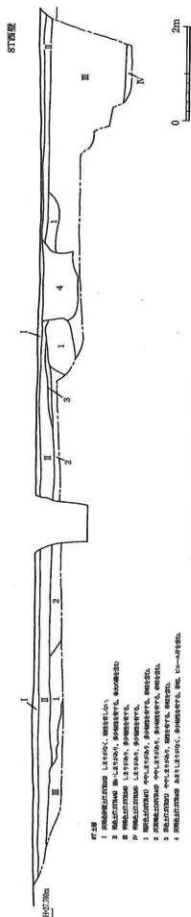


第117図 京塚遺跡調査地位位置図 S=1/5,000



第118図 京塚遺跡トレンチ配置図 S=1/2,000

III 平成18年度の調査



第119図 京塚遺跡土層断面図

4 玉名平野条里跡B地点 両迫間日渡遺跡A地点

所在地：両迫間317外

調査原因：新幹線新玉名駅周辺整備事業

対象面積：40,000㎡

調査期間：18年4月27日～12月6日

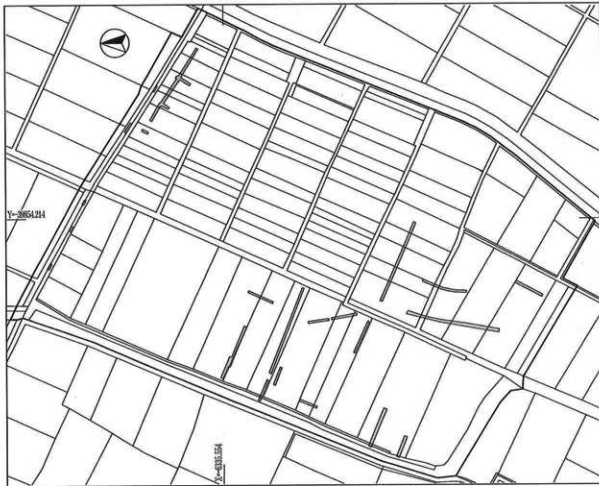
担当者：末永 崇

調査地は、菊池川右岸の玉名平野中央部に位置する標高6m程の地点である。玉名平野条里跡と両迫間日渡遺跡の重複箇所、調査時の状況は水田及び水路である。

平成17年度からの継続調査で、事業用地内に17ヶ所のトレンチを設定し、弥生時代～古墳時代及び古代～中世にかけての遺物を検出した。詳細については、発掘調査の報告書に掲載予定である。



第120図 玉名平野条里跡B地点・両迫間日渡遺跡A地点位置図 5=15,000



第121図 玉名平野条里跡B地点・両迫間日渡遺跡A地点トレンチ配置図 5=12,000

5 高瀬本町通遺跡

所在地：高瀬224

調査原因：石積改修

対象面積：280㎡

調査期間：18年4月25日～5月8日

担当者：田中康雄

調査地は、菊池川右岸の自然堤防上に位置する標高8.5m程の地点である。旧高瀬町中心部の、間口の狭い細長い敷地で、高瀬裏川沿いの石積である。石積は凝灰岩によるもので、はらみが発生し危険な状態であることから、この積み直しを行い、併せて出入り用の階段を設置することになった。

調査では、現況石積の実測を行い、解体時に立会を行った。調査及び立ち会いの結果、近世2時期の石積及び石段、その上部に積まれた近代以降の石積が確認された。前者は手斧による丁寧な加工が施されているが、後者は雑割石であった。調査地横の階段上部に馬門石製のサブタが設けられているが、近世期は、馬門石の使用が藩により制限され、一個人の利用は不可能であったはずで、これが後者の石積と一体をなしていることから、後者の石積が近代以降のものであると判断した。また、石積解体時の立ち会いの際、解体石積の裏に凝灰岩製の石段を確認した。高瀬裏川は、中世期には既に形成されていたと考えられるが、現在のような石積、石段等を備えるようになったのは近世以降と思われる。この石段もその時期のものと考えられる。よって当該地では、少なくとも近世期に2回、近代以降に1回石積等の築造、改修が行われていると考えられる。

施工では、現状石積をすべて撤去するが、再利用可能な石材はそのまま利用し、確認した石段については、そのまま埋戻すことになった。



第122図 高瀬本町通遺跡調査地位置図 S-1/5,000

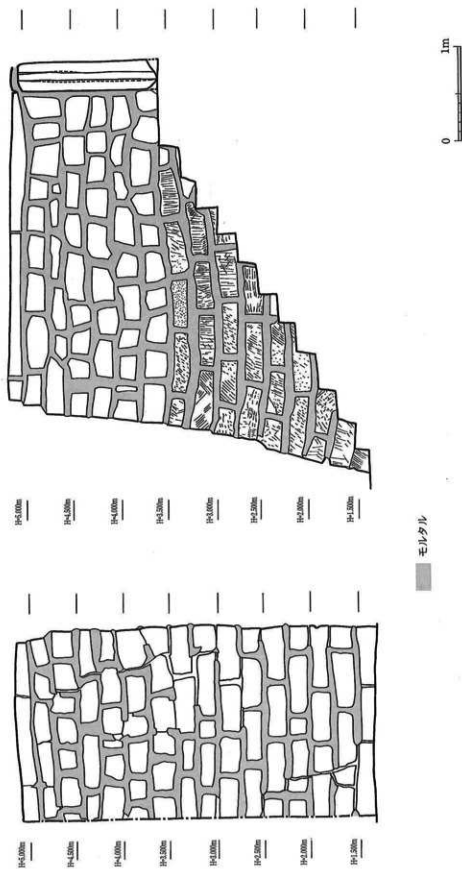


写真42 高瀬本町通遺跡遺構検出状況1 東から



写真43 高瀬本町通遺跡遺構検出状況2 東から

Ⅲ 平成18年度の調査



第123図 滝瀬本町御清園遺跡石壁築設断面図

6 上ノ辻遺跡

所在地：玉名字上ノ辻3613外5筆

調査原因：山砂採取

対象面積：761㎡

調査期間：18年5月22日～6月6日

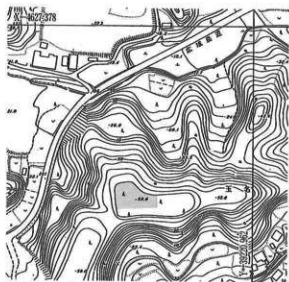
担当者：兵谷有利

調査地は、菊池川右岸の玉名平野北端に接する丘陵部上の、標高約60mの地点である。

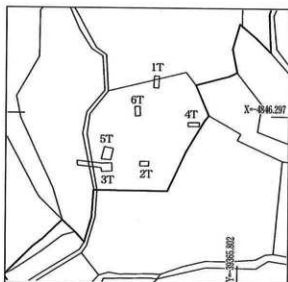
山砂の採取に伴い、現地踏査を行ったところ、遺物の散布が認められたため、開発者との協議後、調査依頼を受け、確認調査を実施した。

調査では、山砂採取予定地最頂部の平坦地に6箇所のトレンチを設定し、また周辺部も含めた地形から、中世山城の所在が想定されたため、縄張図の作成をおこなった。設定したトレンチのうち、2・3・4・5トレンチで土坑、ピットが確認され、6トレンチでは、弥生時代中期の遺物包含層が確認された。

調査の結果、埋蔵文化財が確認されたため、開発者側と協議を行い、山砂採取範囲の変更を行い、埋蔵文化財に影響が及ばないよう採取を行うこととなった。



第124図 上ノ辻遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第125図 上ノ辻遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000

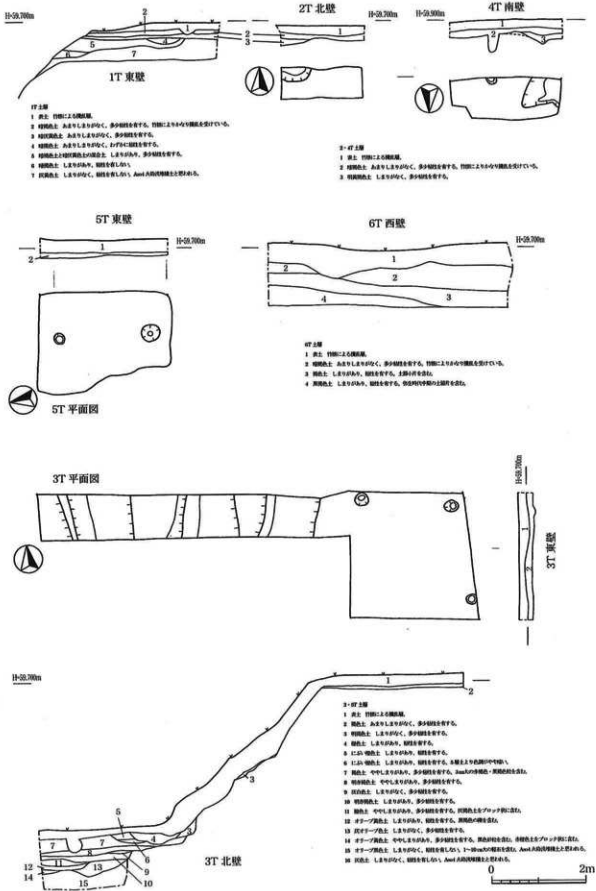


写真44 上ノ辻遺跡調査地全景1 北から



写真45 上ノ辻遺跡調査地全景2 北から

Ⅲ 平成18年度の調査



第126図 上ノ辻遺跡トレンチ実測図

III 平成18年度の調査

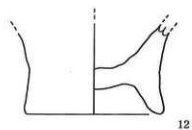


写真46 上ノ辻遺跡5T遺構検出状況 西から

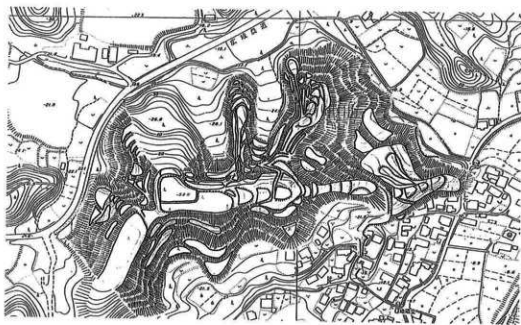
第127図 上ノ辻遺跡出土遺物実測図



写真47 上ノ辻遺跡6T遺物出土状況1 東から



写真48 上ノ辻遺跡6T遺物出土状況2 東から



第128図 上ノ辻遺跡周辺縄張図 S-1/5,000

7 繁根木遺跡群

所在地：繁根木195-9

調査原因：専用住宅建設

対象面積：148.34㎡

調査期間：18年5月22日～5月29日

担当者：中村安宏

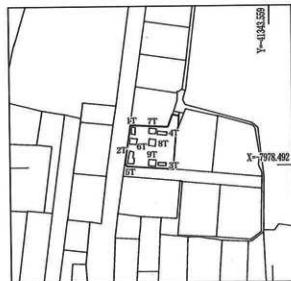
調査地は、繁根木川右岸に面した玉名台地中央南端部の傾斜地で、標高12m程の地点である。調査時の状況は、旧建物解体後の更地であった。

調査では、敷地内の建物基礎予定部に9ヶ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、I層は建物解体後の客土、II・III層は灰褐色土、IV層は暗褐色土、V層は暗褐色土でIV層土をブロック状に含む層、VI層は明褐色土、VII層は明褐色土で人頭大の礫を多量に含む層であった。このうち、II、III層中には近現代の瓦片、磁器片等が含まれ、その堆積状況から、近現代における整地層であると判断した。IV、V層は近現代以前の整地層、VI、VII層は無遺物層と判断した。また、2、7、8トレンチVI層上面で溝状遺構、9トレンチVI層上面で土坑状の遺構を検出した。このうち、8トレンチの溝状遺構中から中世の土師器、瓦器の小片及び近世の陶器小片が出土している。

調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、施工の際に影響が発生する部分については、確認調査時に完掘したため、調査後の措置は慎重工事となった。



第129図 繁根木遺跡群調査地位置図 S=1/5,000

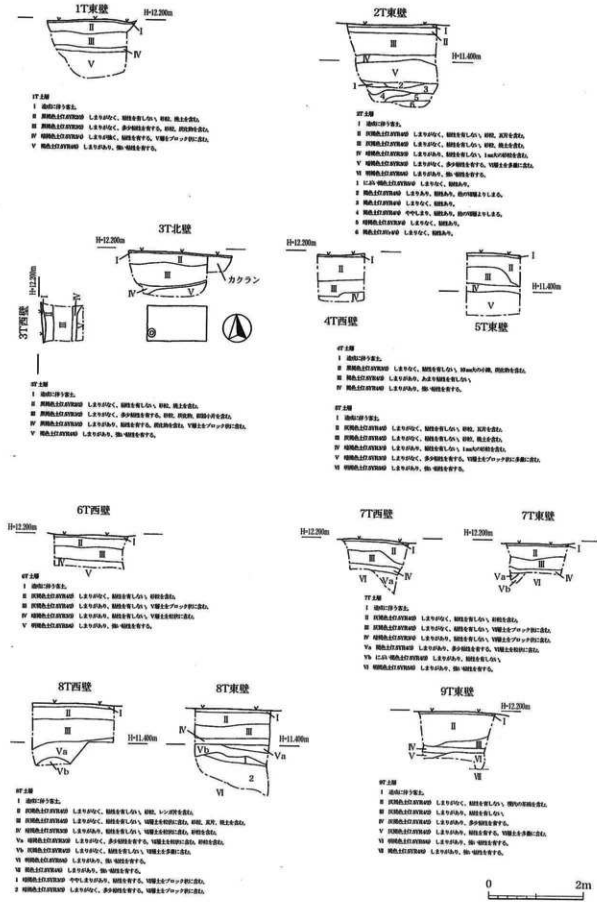


第130図 繁根木遺跡群トレンチ配置図 S=1/1,000



写真49 繁根木遺跡群調査地全景 西から

III 平成18年度の調査



第131図 繁根木遺跡群トレンチ実測図

8 蓮華遺跡

所在地：築地南大門2059-6外4筆

調査原因：共同住宅建設

対象面積：683.73㎡

調査期間：18年6月6日～6月9日

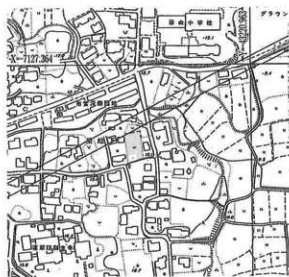
担当者：末永 崇

調査地は、境川右岸に面した玉名台地東端部の低位段丘上に位置する、標高15m程の地点である。調査時の状況は、耕作が行われている畑地であった。

調査では、敷地内に4ヶ所のトレンチを設定した。Ⅰ・Ⅱ層は耕作土、Ⅲ層は暗褐色土、Ⅳ層は黒褐色土、Ⅴ層は極暗褐色土、Ⅵ層は褐色の砂礫層であった。このうち、Ⅴ層は1トレンチでのみ確認されており、敷地中央から北側にのみ堆積しているものと考えられる。

Ⅲ、Ⅳ層で土器細片を僅かに確認し、Ⅴ・Ⅵ層上面で住居跡、土坑、ピット等の遺構を確認した。周辺の調査状況より、弥生時代から中世にかけてのものと思定される。

調査の結果を受け、施主側と協議を行った結果、建物部分については、埋蔵文化財に影響を与えないよう設計変更が行われたが、進入路については、狭小であるが切土が行われるため、工事立会を行うこととなった。



第132図 蓮華遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第133図 蓮華遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



写真50 蓮華遺跡調査地全景 南から



写真51 蓮華遺跡4T遺構検出状況 南から

9 築地東遺跡

所在地：築地2351-2外4筆

調査原因：共同住宅建設

対象面積：1,833.84㎡

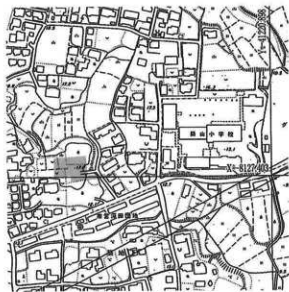
調査期間：18年6月7日～6月8日

担当者：篠父雅史

調査地は、境川右岸に面した玉名台地北西部に位置する、標高17m程の地点である。周辺一帯は、弥生時代の包蔵地であり、中世城館の推定範囲とも重複している。調査時の状況は、畑地をならした程度の更地であった。

調査では、敷地内に5ヶ所のトレンチを設定した。I層は表土、II・III層は耕作土、IV層は黒褐色土、V層は褐色土、VI層はにぶい黄褐色土であった。設定した5ヶ所のトレンチのうち、1～3トレンチのV層上面で、弥生時代及び中世期の遺構を検出し、2トレンチで弥生時代から中世にかけての遺物包含層（IV層）を確認した。弥生時代の遺構は、住居跡、土坑、ピットで、中世期の遺構は、土坑、ピットであった。

調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、埋蔵文化財に対して影響が発生しないため、調査後の措置は、慎重工事となった。

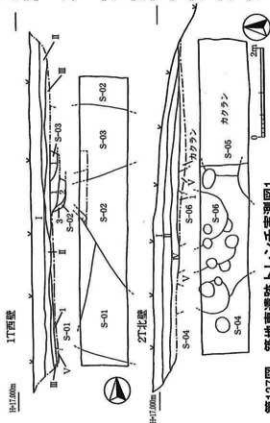


第135図 築地東遺跡調査地位位置図 S-1/5,000



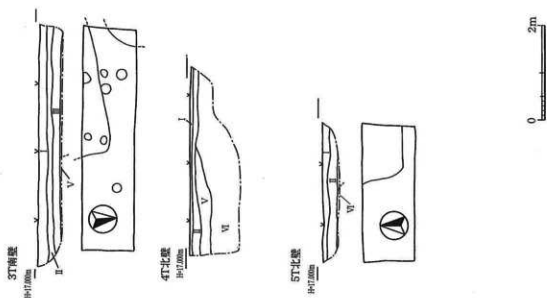
第136図 築地東遺跡トレンチ配置図 S-1/1,000

- 1 I層 表土層、耕作層、埋蔵文化財なし。
 2 II層 耕作層、埋蔵文化財なし。
 3 III層 耕作層、埋蔵文化財なし。
 4 IV層 黒褐色土層、弥生時代から中世にかけての遺物包含層。
 5 V層 褐色土層、弥生時代及び中世期の遺構を検出。
 6 VI層 にぶい黄褐色土層、埋蔵文化財なし。
 7 1T トレンチ1、弥生時代及び中世期の遺構を検出。
 8 2T トレンチ2、弥生時代から中世にかけての遺物包含層を確認。
 9 3T トレンチ3、弥生時代及び中世期の遺構を検出。
 10 4T トレンチ4、埋蔵文化財なし。
 11 5T トレンチ5、埋蔵文化財なし。



第137図 築地東遺跡トレンチ発露図

III 平成18年度の調査



第138図 築地東遺跡踏跡調査要図2



写真52 築地東遺跡調査地全景 東から



写真53 築地東遺跡2T遺構検出状況 南から



写真54 築地東遺跡3T遺構検出状況 東から



写真55 築地東遺跡5T遺構検出状況 東から

10 今泉遺跡A地点

所在地：岱明町上字塚浦

調査原因：道路拡幅工事

対象面積：2,988.4㎡

調査期間：18年6月21日

担当者：篠父雅史

調査地は、玉名市の西部、行末川と今泉川に挟まれた小代山麓丘陵南東端部の標高14～23 m程の地点である。これまで当遺跡での本格的な調査事例はないが、地元の河北毅氏による表採資料が「肥後考古」第4号（1983）に掲載されており、弥生時代中期から後期にかけた集落跡の可能性が指摘されている。

調査では、道路拡幅予定の畑地に9ヶ所のトレンチを設定した。結果、現状の市道部及び畑地は、切盛土によるもので、旧地形が大きく改変されており、6トレンチでのみ、削平を免れた柱穴と思われる遺構2基を確認した。このように、施工予定地内は削平が著しいことから、埋蔵文化財が残存している可能性は低いと判断した。

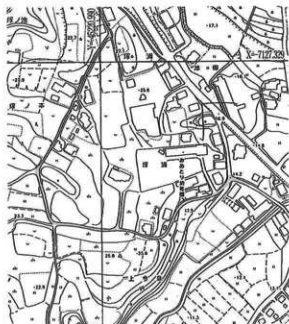
調査後の措置は、慎重工事である。



第140図 今泉遺跡A地点トレンチ配置図 S=1/2,000



写真56 今泉遺跡A地点全景1 西から

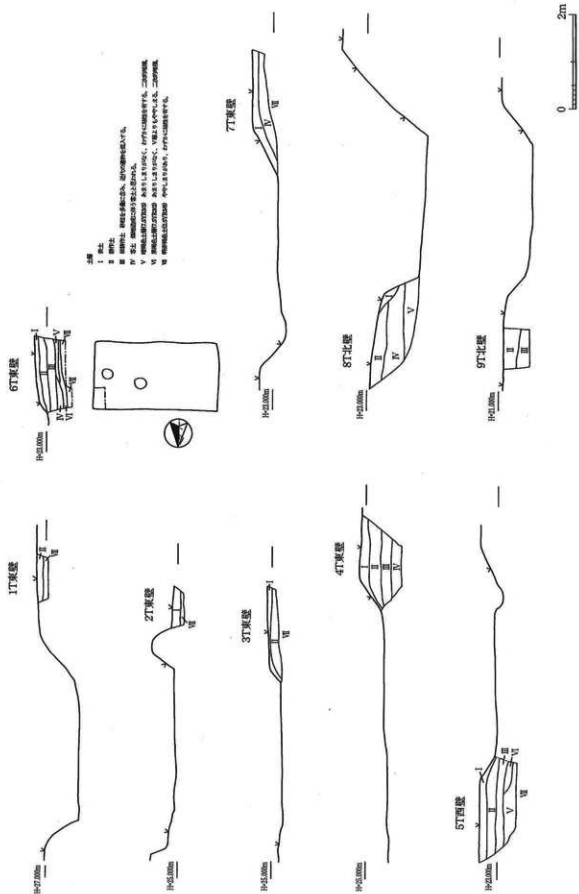


第139図 今泉遺跡A地点位置図 S=1/5,000



写真57 今泉遺跡A地点全景2 南から

III 平成18年度の調査



第141図 今泉遺跡人地点トレンチ実測図

11 立願寺廃寺

所在地：立願寺塔の尾1169

調査原因：専用住宅建設

対象面積：853㎡

調査期間：18年7月4日～7月14日

担当者：蓑父雅史

調査地は、玉名市の中西部、小代山南側丘陵部に接する玉名台地北端部に位置する、標高35m程の地点である。調査時の状況は、畑地をならした程度の更地であった。

調査では、敷地内に6ヶ所のトレンチを設定した。各トレンチのうち、1～4トレンチで古代から中世にかけての遺構を確認した。遺構は、土坑、ピット、溝状遺構で、このうち溝状遺構は、東西方向に延び、多量の古代瓦が出土した。寺院を区画する溝の可能性も考えられるが詳細は不明である。土坑は、焼土を含み、周辺の調査例から中世期の廃棄土坑の可能性が考えられる。

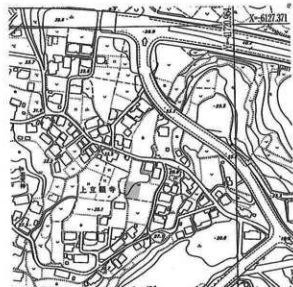
調査の結果を受け協議を行い、埋蔵文化財に影響を与えないよう設計変更が行われたため、調査後の措置は慎重工事となった。



第143図 立願寺廃寺トレンチ配置図 S=1/1,000



写真58 立願寺廃寺調査地全景 南から



第142図 立願寺廃寺調査地位置図 S=1/5,000



写真59 立願寺廃寺4T遺構検出状況 南から

12 山田松尾平遺跡

所在地：山田字松尾原1351-1外

調査原因：宅地造成

対象面積：1,111m²

調査期間：18年8月29日～8月30日

担当者：中村安宏

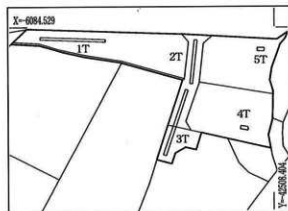
調査地は、小代山南側丘陵部の南部に位置する、標高36m程の地点である。調査時の状況は畑地であった。

調査では、敷地内に5カ所のトレンチを設定した。各層から遺構、遺物は確認されなかった。

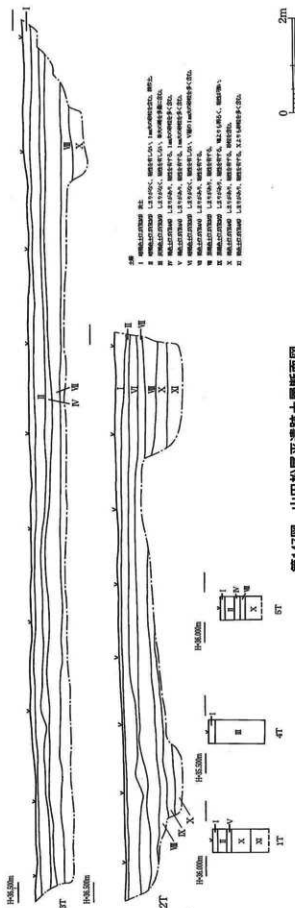
調査後の措置は、慎重工事である。



第145図 山田松尾平遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第146図 山田松尾平遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第147図 山田松尾平遺跡土層断面図

13 岩崎原遺跡

所在地：岩崎字南岩原1135-3

調査原因：専用住宅建設

対象面積：270.02㎡

調査期間：18年9月22日

担当者：藤父雅史

調査地は、繁根木川右岸に面した玉名台地のほぼ中央部に位置する、標高12m程の地点である。調査時の状況は、旧建物解体後の更地であった。

調査では、敷地内に3カ所のトレンチを設定した。Ⅰ層は建物解体時の整地層、Ⅱ層は解体建物建設時の整地層、Ⅲ層は近代の整地層、Ⅳ層は褐色を呈したローム層であった。このうちⅢ層上面で土坑を1基確認した。この土坑内からは、明治初期の陶磁器類やキセル片等が確認された。この一帯は、高瀬藩時代の家臣団屋敷であることから、これに伴う廃棄土坑と思われる。なお本調査地については、残存する絵図に「戸川次郎」の記載がなされている。

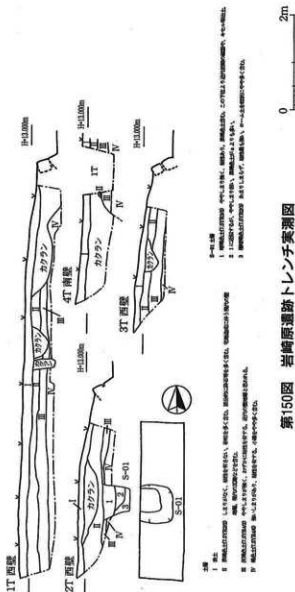
調査後の措置は、慎重工事である。



第148図 岩崎原遺跡調査地位図 S=1/5,000



第149図 岩崎原遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第150図 岩崎原遺跡トレンチ断面図

14 中北アカハゲ古墳

所在地：伊倉北方549-1

調査原因：宅地造成

対象面積：1,900.5㎡

調査期間：18年11月1日～11月22日

担当者：猿父雅史

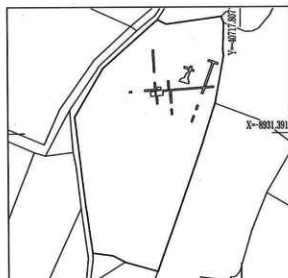
調査地は、菊池川左岸堤防際の伊倉丘陵性台地北西裾部に位置する、標高5～11m程の地点である。台地突出部の周辺が開削され、古墳墳丘状の高まりとなっていた。

調査では、この高まりが古墳であるかどうかの確認を目的としてトレンチを設定した。大部分のトレンチで、表土下20cm程度で凝灰岩の岩盤が確認された。岩盤上層には近世～現代にかけての陶磁器片が混入し、古墳に伴う遺構・遺物は確認されなかった。また北東側の崖面で、横穴墓の奥壁らしき部分を確認したが、後世の掘削や自然崩落により残存状態が悪く、床面も攪乱を受けていたため、横穴墓と断定するには至らなかった。

調査の結果、当地が古墳であるとの根拠は得られなかった。一部横穴墓らしき部分を確認したが、施工の際に影響が発生しないため、調査後の措置は慎重工事となった。



第151図 中北アカハゲ古墳位置図 S-1/5,000



第152図 中北アカハゲ古墳トレンチ配置図 S-1/1,000

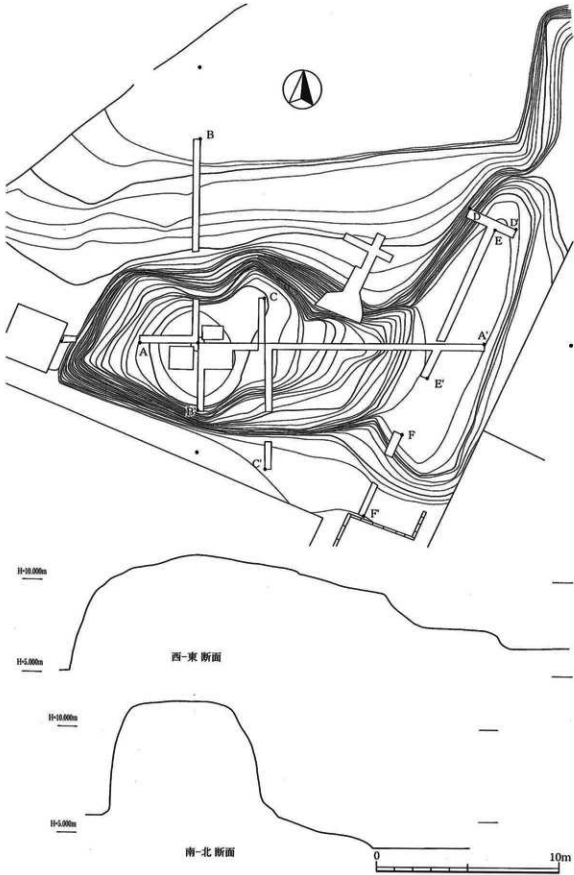


写真60 中北アカハゲ古墳全景1 北から



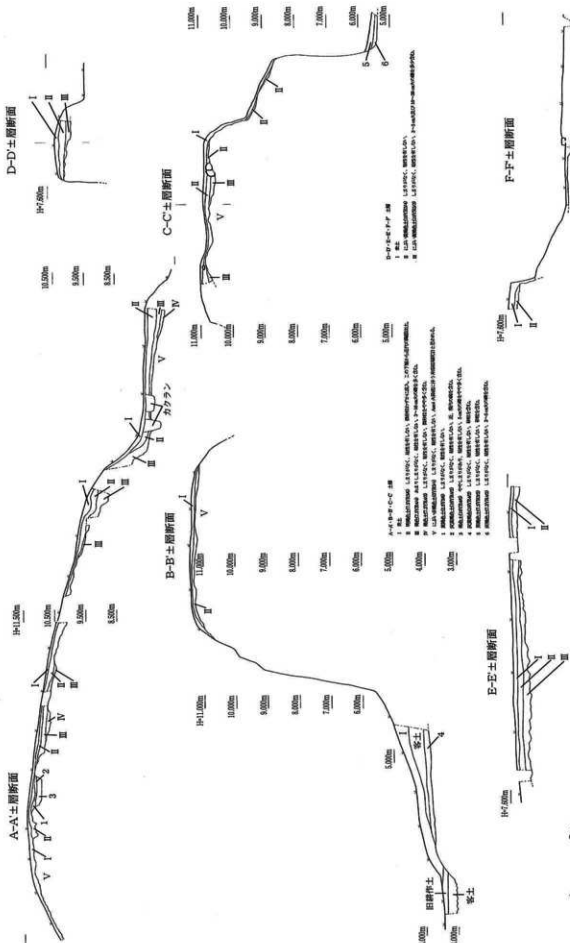
写真61 中北アカハゲ古墳全景2 西から

III 平成18年度の調査



第153図 中北アカハゲ古墳測量図

III 平成18年度の調査



第154図 中北アカハゲ古墳土層断面図

16 高岡原遺跡

所在地：中尾字西原53外1筆

調査原因：共同住宅建設

対象面積：882.71㎡

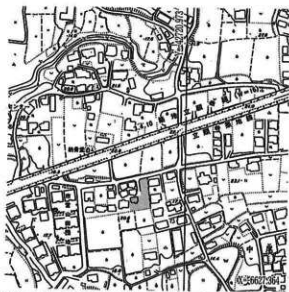
調査期間：18年12月20日～12月21日

担当者：齋父雅史

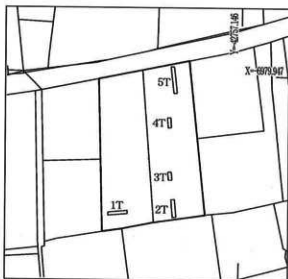
調査地は、境川左岸に面した玉名台地西側の標高20m程の地点で、弥生時代後期の大規模な集落跡と考えられる高岡原遺跡の中央部やや南西側に位置する。調査時の状況は、旧畑地と思われる更地であった。

調査では、敷地内に5ヶ所のトレンチを設定した。調査の結果、調査地の旧地形は、北側から南側に向かって傾斜しており、敷地中央部から南側に設定した1～4トレンチでは、流れ込みの土層堆積や土器小片が少量確認されたのみで、敷地北側に設定した5トレンチのみ、弥生時代の住居跡及び土坑らしき遺構を検出した。

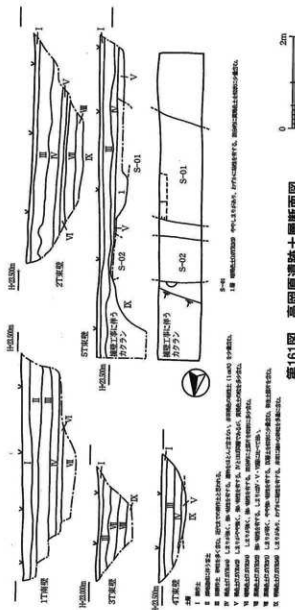
調査の結果、敷地内の一部で埋蔵文化財が確認されたが、施工の際に影響が発生しないため、調査後の措置は慎重工事となった。



第159図 高岡原遺跡調査地位図 S=1/5,000



第160図 高岡原遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



17 五郎丸遺跡A地点

所在地：山田538-1

調査原因：宅地造成

対象面積：497㎡

調査期間：19年1月16日

担当者：末永 崇

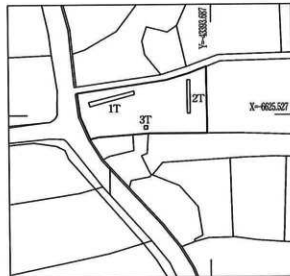
調査地は、境川とその支流山田川に挟まれた、小代山南側丘陵南東端部に位置する、標高25m程の地点である。調査時の状況は畑地であった。

調査では、敷地内に3ヶ所のトレンチを設定したが、各トレンチとも、Ⅰ・Ⅱ層は耕作土及び畑地造成に伴う盛土であった。以下Ⅲ層は旧耕作土、Ⅳ層は暗褐色土、Ⅴ層は褐色土、Ⅵ層はにぶい黄褐色土、Ⅶ層は黄褐色土、Ⅷ層はにぶい黄褐色土であった。各トレンチのうち、2トレンチのⅡ層上面及びⅢ層上面で遺構を確認した。内1基は弥生時代後期の住居跡の可能性が考えられる。1トレンチでは表土直下にⅢ、Ⅴ、Ⅵ層が、3トレンチでは表土直下にⅢ層が確認されたことから、既にかなり削平を受けていると考えられる。

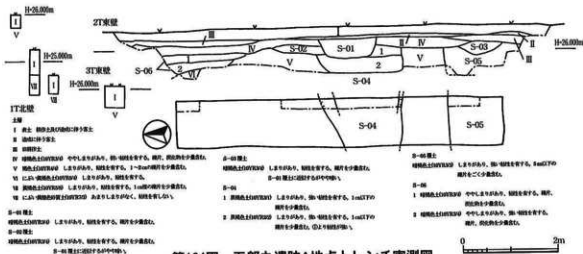
調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、施工に際しては、埋蔵文化財に対して影響が発生しないことから、調査後の措置は、慎重工事となった。



第162図 五郎丸遺跡A地点位置図 S=1/5,000



第163図 五郎丸遺跡A地点トレンチ配置図 S=1/1,000



第164図 五郎丸遺跡A地点トレンチ実測図

18 玉名平野条里跡C地点

所在地：岩崎344-10外20筆

調査原因：道路建設

対象面積：5,427.4㎡

調査期間：19年1月18日～2月28日

担当者：藪父雅史 田中康雄

調査地は、菊池川右岸の玉名平野西端部、繁根木川左岸堤防際に位置する、標高5m程の地点である。調査時の状況は、水田及び駐車場であった。

調査では、道路建設予定地内に20ヶ所のトレンチを設定した。これらのうち、1・2・4トレンチで遺構・遺物を確認した。しかし、トレンチのみでは、遺構の拡がり及び性格を特定するに至らなかったため、この3ヶ所については、調査区（Ⅰ～Ⅲ区）を設定して調査を行った。その結果、Ⅰ区では、近世末頃のものと思われる畑の畝を確認し、Ⅲ区では、明確な時期は不明であるが、層的に近世の水田に伴う畦畔及び、それに付随する溝と思われる遺構を確認した。Ⅲ区では、弥生時代終末期～古墳時代初頭にかけての遺物が集中する窪地状の遺構を確認した。遺物の内容としては、甕、壺、高坏、鉢、小型丸底壺、ミニチュア土器等があり、遺構内に炭化物の集中部も確認された。これらのことから、この遺構は、祭祀的な意味合いを持つ遺構ではないかと想定される。調査Ⅰ～Ⅲ区については、それぞれ遺構を完掘し、調査を完了した。その他のトレンチについては、遺構・遺物は確認されなかった。

調査の結果、部分的に埋藏文化財が確認されたが、それらについては、調査を完了したため、調査後の措置は慎重工事となった。



写真62 玉名平野条里跡C地点全景 南から

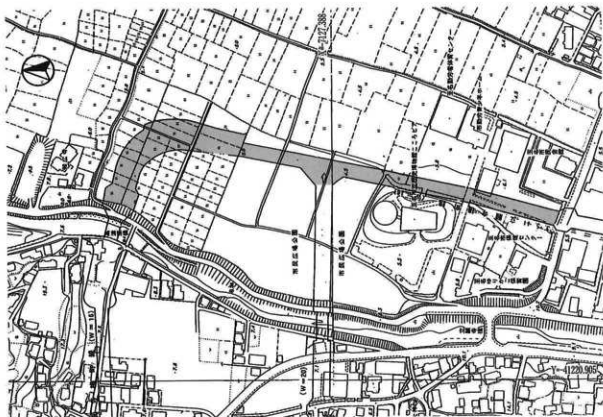


写真63 玉名平野条里跡C地点調査Ⅰ区全景 南から

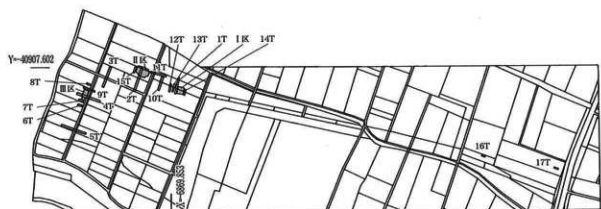


写真64 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区全景 南から

Ⅲ 平成18年度の調査

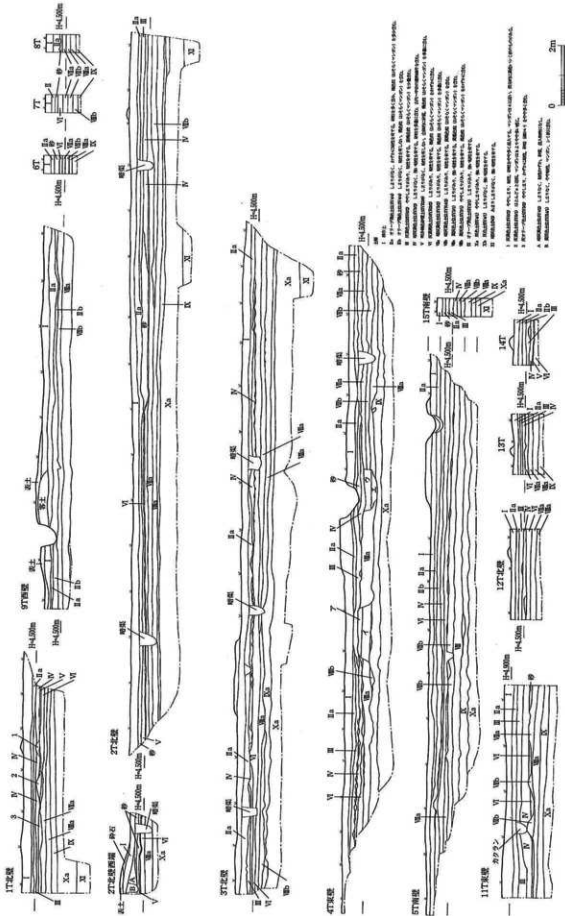


第165図 玉名平野条里跡C地点位置図 S=1/5,000



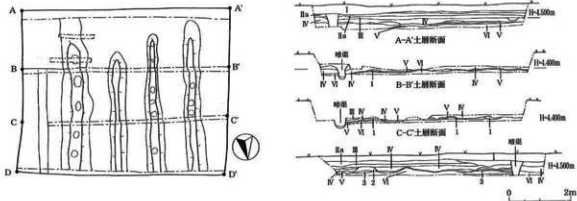
第166図 玉名平野条里跡C地点トレンチ配置図 S=1/4,000

III 平成18年度の調査

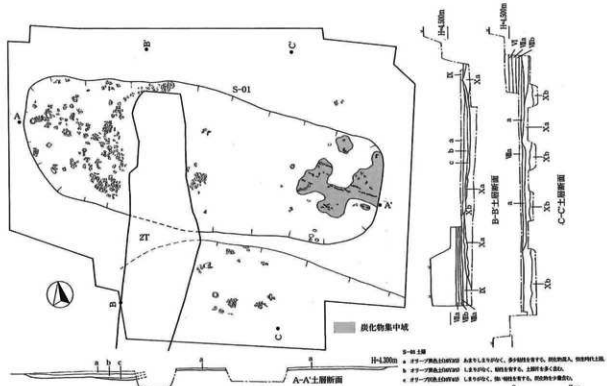


第167図 五名平野柔里跡C地点トレンチ子土層断面図

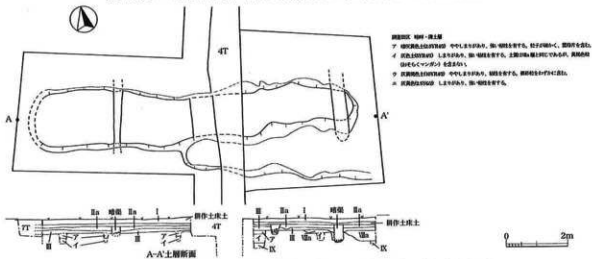
Ⅲ 平成18年度の調査



第168図 玉名平野条里跡C地点調査Ⅰ区平面図・土層断面図

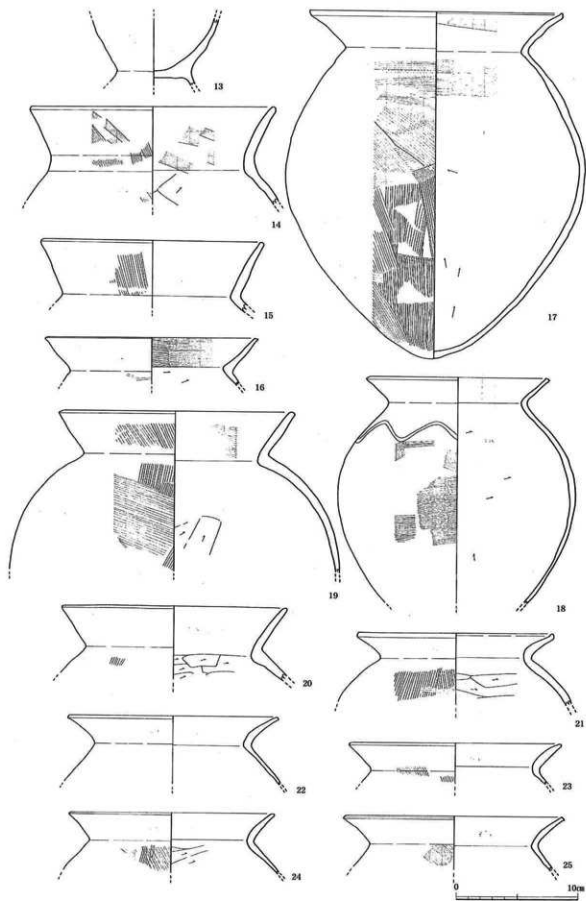


第169図 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区平面図・土層断面図



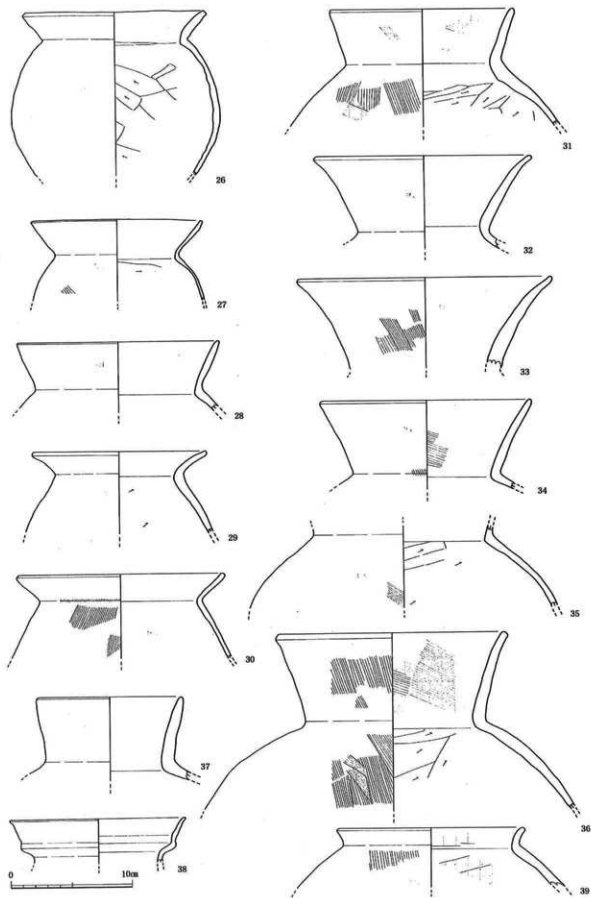
第170図 玉名平野条里跡C地点調査Ⅲ区平面図・土層断面図

Ⅲ 平成18年度の調査



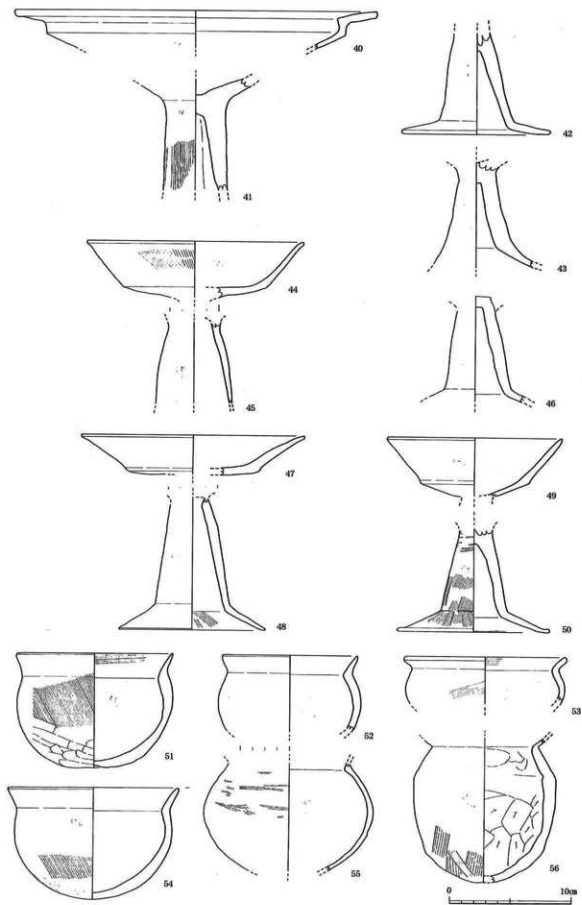
第171図 玉名平野条里跡C地点出土遺物実測図1

Ⅲ 平成18年度の調査



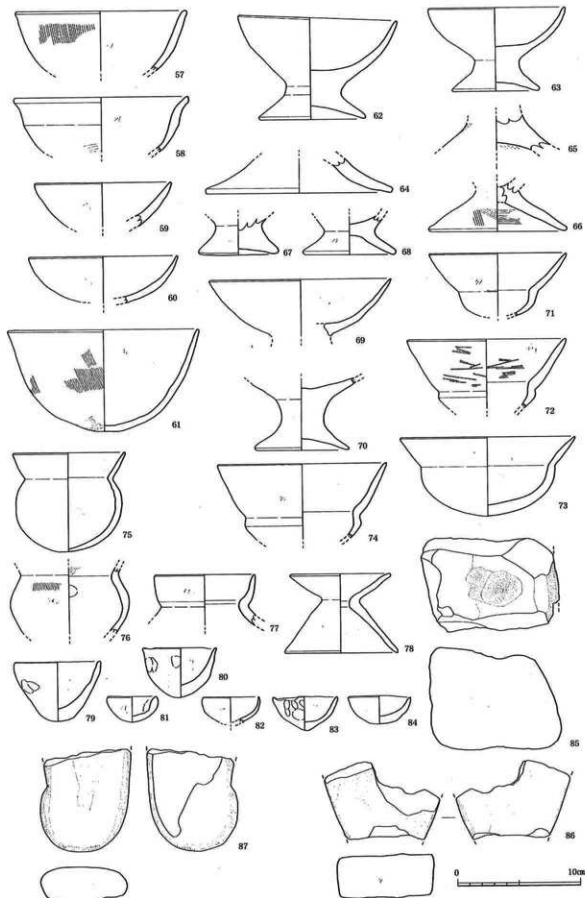
第172図 五名平野糸里跡C地点出土遺物実測図2

Ⅲ 平成18年度の調査



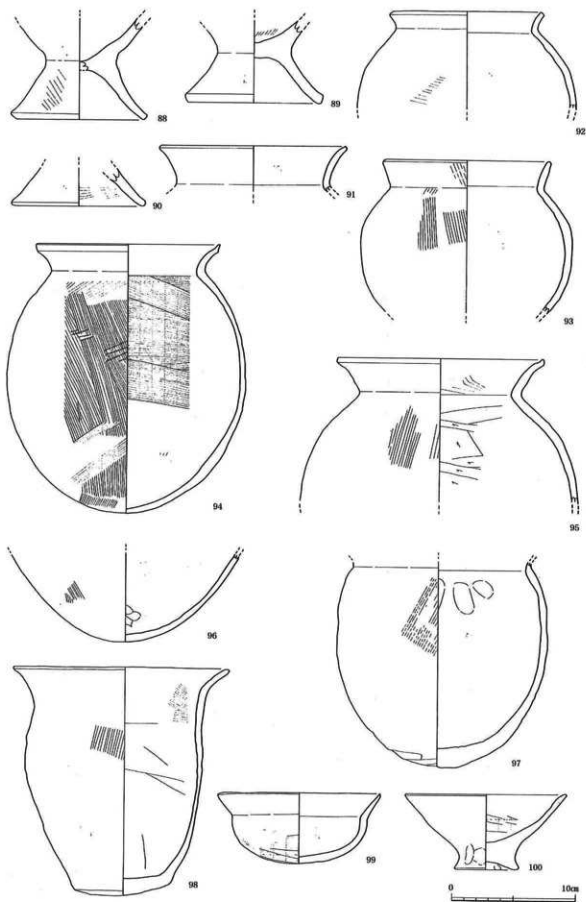
第173図 玉名平野条里跡C地点出土遺物実測図3

Ⅲ 平成18年度の調査



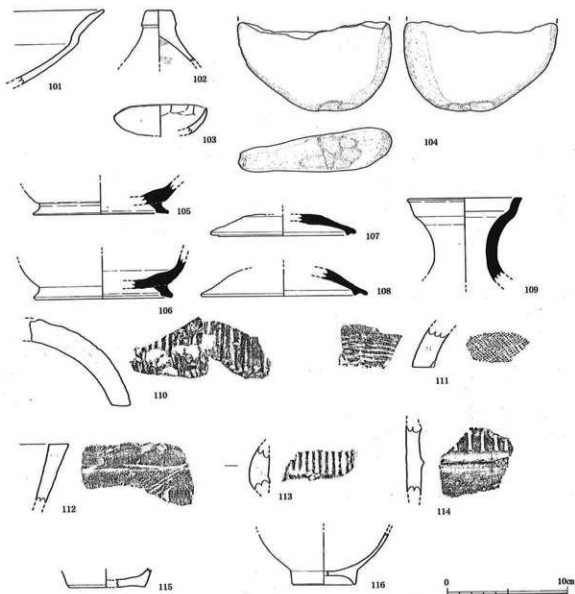
第174図 玉名平野条里跡C地点出土遺物実測図4

Ⅲ 平成18年度の調査



第175図 玉名平野采里跡C地点出土遺物実測図5

Ⅲ 平成18年度の調査



第176図 玉名平野条里跡C地点出土遺物実測図6



写真65 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区S-01北側遺物出土状況1 東から



写真66 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区S-01北側遺物出土状況2 東から

Ⅲ 平成18年度の調査



写真67 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区S-01
北側遺物出土状況近影 東から



写真68 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区S-01
南側遺物出土状況 東から



写真69 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区S-01
南側遺物出土状況近影 東から



写真70 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区S-01
南側炭化物検出状況 南から



写真71 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区S-01
完掘状況1 北から

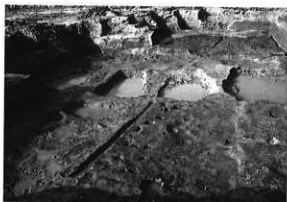


写真72 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区S-01
完掘状況2 南から

19 備中遺跡

所在地：岱明町西照寺259-8

調査原因：専用住宅建設

対象面積：348.06㎡

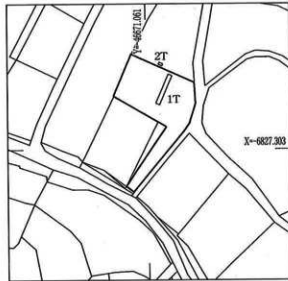
調査期間：19年1月19日

担当者：竹田宏司

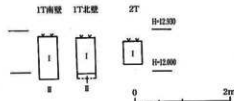
調査地は、玉名市の西端部、荒尾市及び長洲町境際の、行末川右岸に面した荒尾丘陵性台地東端部に位置する、標高13m程の地点である。調査時の状況は更地であった。

調査では、敷地内の建設予定地及びその隣接部にトレンチを2ヶ所設定した。Ⅰ層は暗褐色土、Ⅱ層は黄褐色土であった。土地所有者の話では、40年程前に天地返しを行ったとのことで、Ⅰ層がそれに相当し、深いところで約1mにも及んでいた。両層から遺構、遺物は確認されなかったことから、天地返しの際に大きく削平され、埋蔵文化財は残存していないと考えられる。

調査後の措置は、慎重工事である。

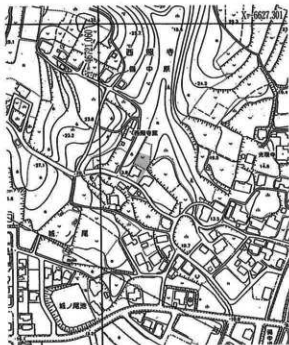


第178図 備中遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



28
 Ⅰ 埋蔵土層の状況は、中層に土壌が厚く、中層部、暗褐色を帯び、腐植土の成分が少なく、層厚、腐植質の成分が少なく、
 Ⅱ 埋蔵土層の状況は、中層部に土壌が厚く、中層部、暗褐色を帯び、腐植土の成分が少なく、層厚、腐植質の成分が少なく、
 Ⅲ 埋蔵土層の状況は、中層部に土壌が厚く、中層部、暗褐色を帯び、腐植土の成分が少なく、層厚、腐植質の成分が少なく、

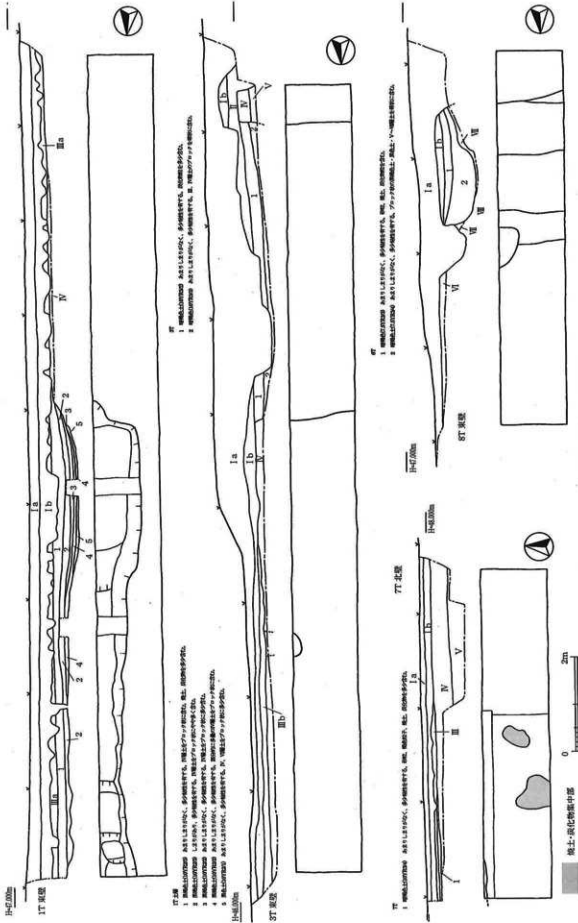
第179図 備中遺跡土層断面図



第177図 備中遺跡調査地位置図 S=1/5,000



写真73 備中遺跡調査地全景 東から



第183図 吉丸西遺跡トレンチ実測図2

2.1 古閑遺跡

所在地：築地字古閑1904

調査原因：専用住宅建設

対象面積：1,518.75㎡

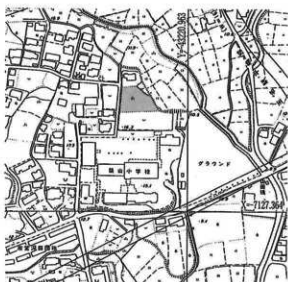
調査期間：19年2月1日～2月23日

担当者：末永 崇

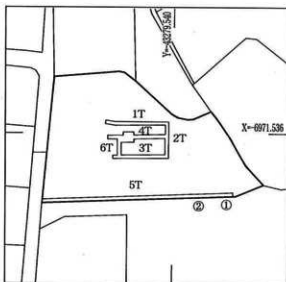
調査地は、境川右岸上流域に面した台地東端部に位置する、標高16m程の地点である。調査時の状況は畑地であった。南西約250mの地点では、平成12年度に都市計画街路建設に伴う発掘調査が実施され、弥生時代・古墳時代の住居跡や中世期の土坑等が確認されている。

調査では、敷地内の建物基礎掘削部に1～4及び6トレンチ、南側隣地境界のフェンス設置部に5トレンチを設定した。このうち、4トレンチ西側で住居跡と思われる遺構を検出したため、その部分のみトレンチを拡張して調査を実施した。攪乱などの影響で、全体規模は不明であるが、検出部から想定して、一辺5m程度の方形の住居跡と思われる。残存していた床面部分で、炉跡及び土坑3基を検出したが、柱穴は確認されていない。おそらくトレンチ外側に所在するものと思われる。遺物は、埋土上位を中心に、弥生時代中期の土器片が多量に確認された。しかし、甕棺の破砕片と思われるものが多量に含まれており、また大部分が土層上位からの出土であることから、この住居跡に伴う遺物かどうか疑問が残る。また、5トレンチでも、住居跡と想定される遺構を検出した。

調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、主な基礎掘削部における遺構については調査を完了し、それ以外の部分については、面積が狭小であることから、施工の際に工事立会を行うこととなった。



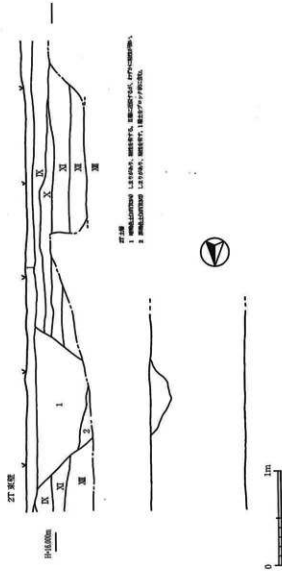
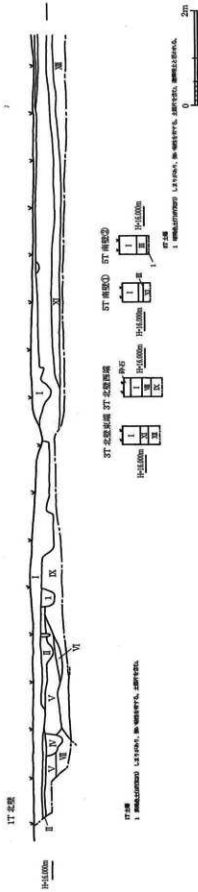
第184図 古閑遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第185図 古閑遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



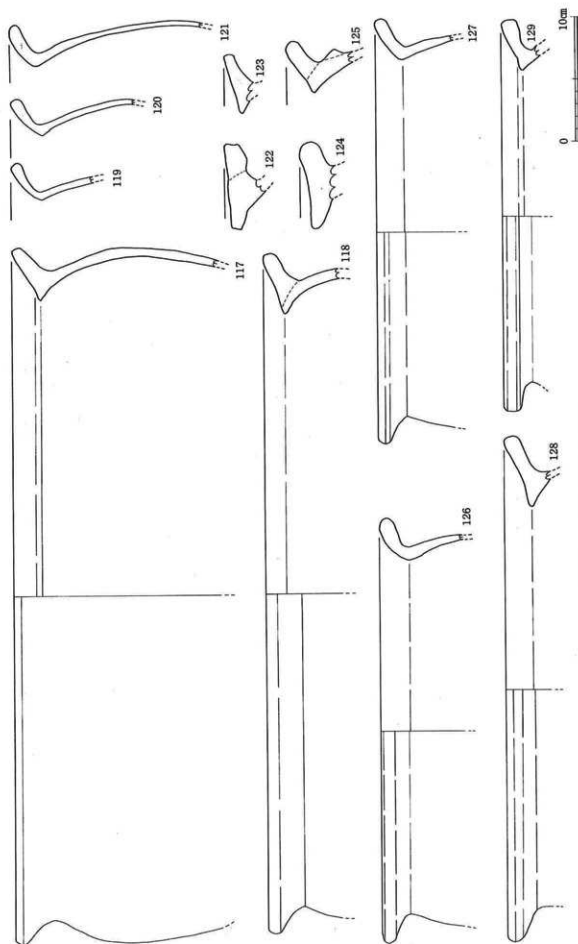
写真74 古閑遺跡調査地全景 東から



- 1 礫層
II 砂層
III 粘板岩
IV 砂岩
V 頁岩
VI 頁岩
- 1 礫層
II 砂層
III 粘板岩
IV 砂岩
V 頁岩
VI 頁岩
- 1 礫層
II 砂層
III 粘板岩
IV 砂岩
V 頁岩
VI 頁岩

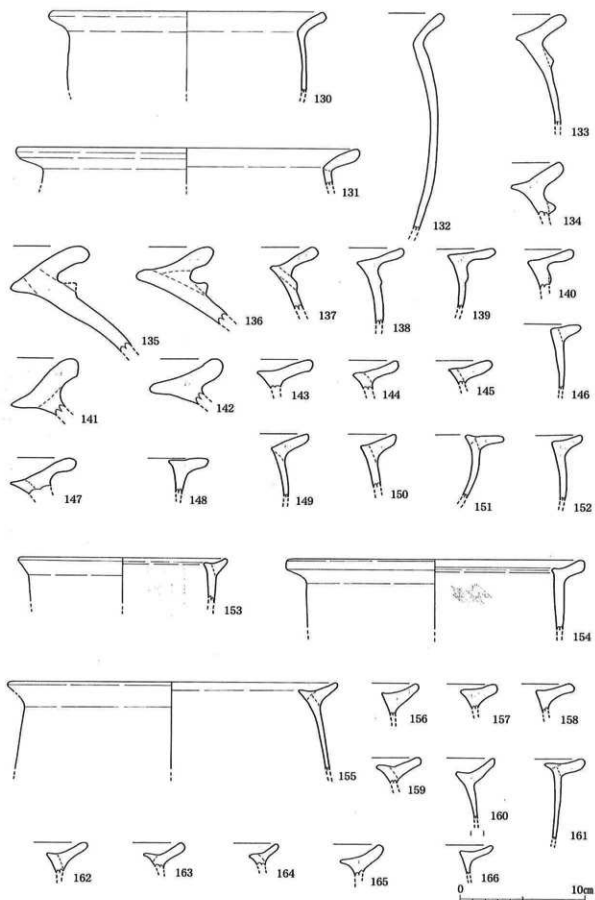
第186図 古開掘跡トレンチ実測図1

Ⅲ 平成18年度の調査



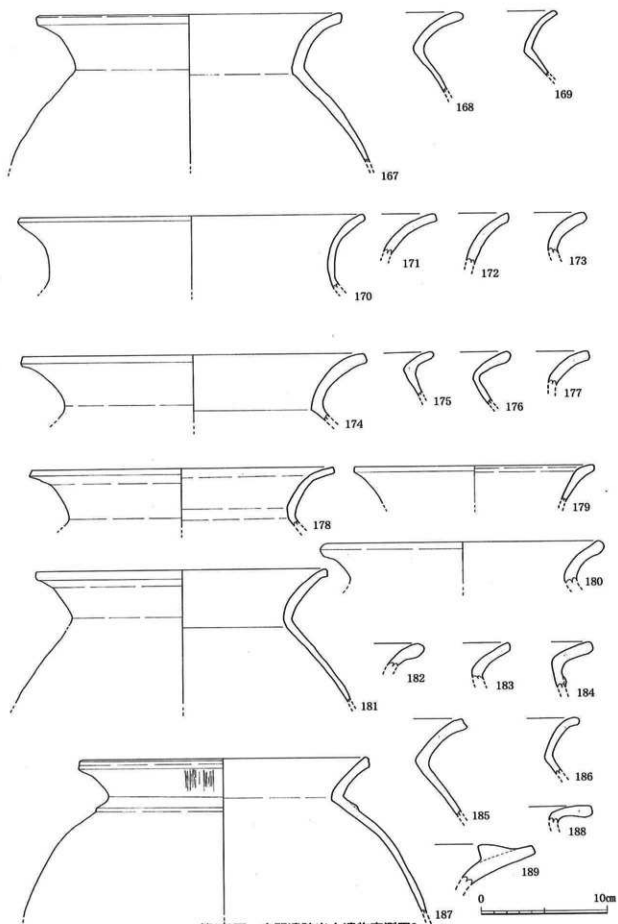
第188図 古關遺跡出土遺物実測図1

III 平成18年度の調査



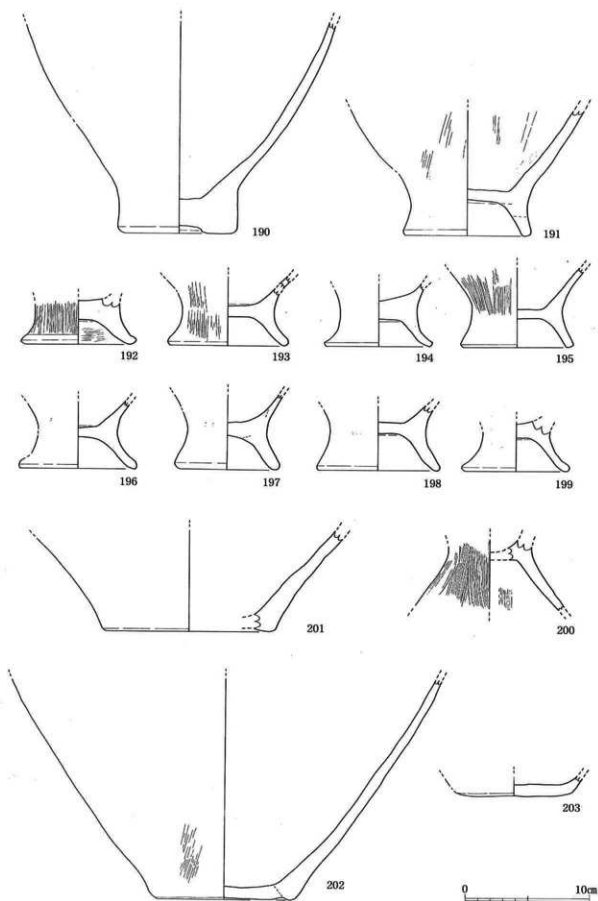
第189図 古閑遺跡出土遺物実測図2

Ⅲ 平成18年度の調査



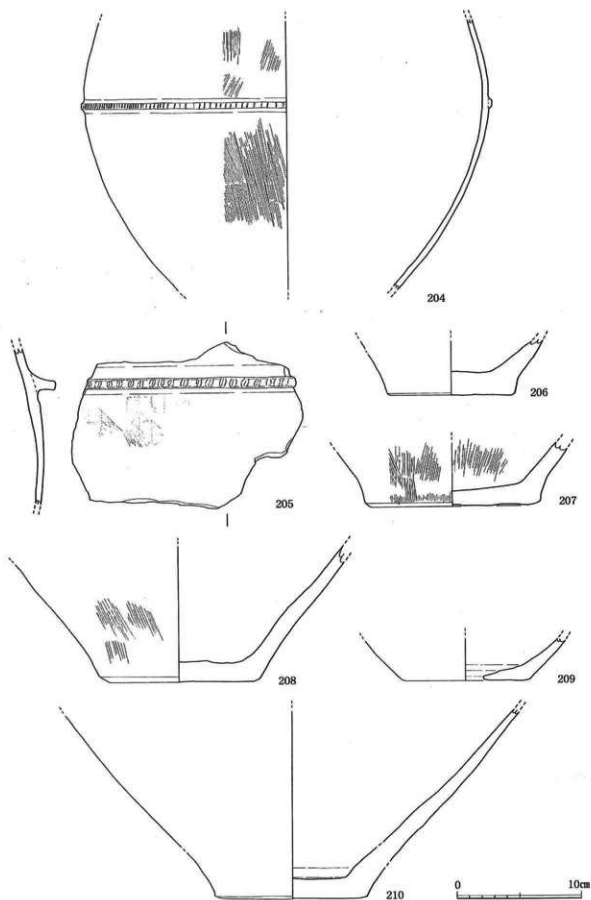
第190図 古閑遺跡出土遺物実測図3

III 平成18年度の調査



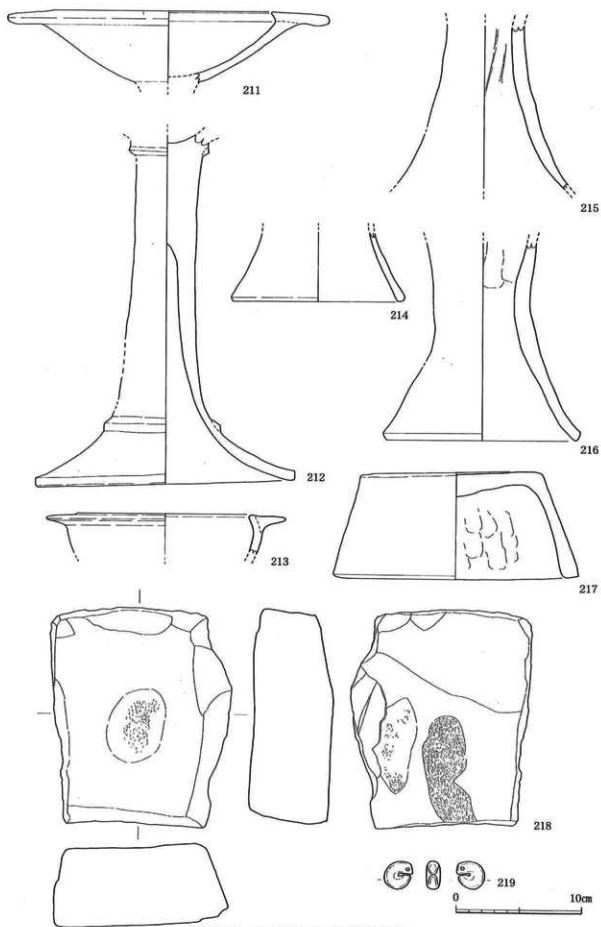
第191図 古閑遺跡出土遺物実測図4

III 平成18年度の調査



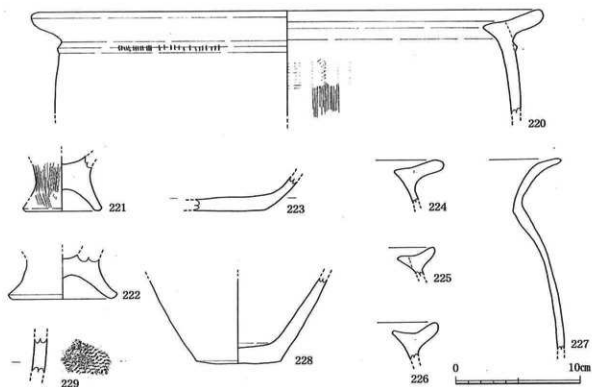
第192図 古閑遺跡出土遺物実測図5

Ⅲ 平成18年度の調査



第193図 古閑遺跡出土遺物実測図6

Ⅲ 平成18年度の調査



第194図 古閑遺跡出土遺物実測図7



写真75 古閑遺跡住居跡検出状況 西から



写真76 古閑遺跡住居跡炉跡検出状況 南から

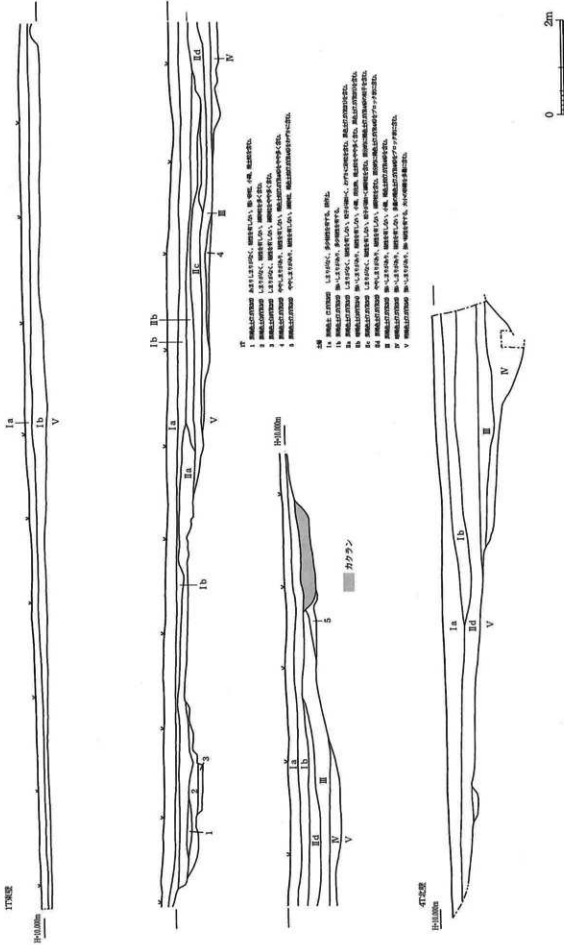


写真77 古閑遺跡住居跡遺物出土状況1 西から



写真78 古閑遺跡住居跡遺物出土状況2 南から

III 平成18年度の調査



第198図 中道遺跡土層断面図2

23 上小田宮の前遺跡 上小田古屋敷遺跡

所在地：上小田708-1外

調査原因：事業用地造成

対象面積：216,345㎡

調査期間：19年2月8日～3月30日

担当者：荒木隆宏

調査地は、玉名市北東部、菊池川左岸の玉名平野北東端部に位置する、水田約22haである。調査範囲の大部分は、上小田宮の前遺跡及び上小田古屋敷遺跡の範囲に含まれている。調査地北端及び東端に接する県道路線部は、平成11年に熊本県教育庁文化課が試掘確認調査を実施し、その一部について、平成12年度～16年度にかけて発掘調査を行った。また、平成14年3月には、調査地中央部を南北に走る市道の拡幅工事に伴い、試掘確認調査を実施した。

今回は、耕作物がなく調査同意を得られた29筆について、周辺の調査成果を勘案してトレンチを設定した。その結果、調査地の北東部2筆において、弥生時代及び古代に属する遺構が確認された。隣接する県道における発掘調査により確認された生活領域に続くものと考えられる。その他殆どのトレンチで、縄文時代から近世にかけての遺物が出土したが、耕作土及び昭和37・38年度に実施された圃場整備に伴う整地層からの出土である。

今回の調査は、対象面積が約22haと広大であること、また耕作物の収穫時期等の関係から、平成18年度及び平成19年度の2ヵ年度にかけて行うものである。よって詳細な調査結果については、調査完了後に平成19年度調査分と併せて報告を行う予定である。



第199図
上小田宮の前・上小田古屋敷遺跡調査地位置図 S=1/1,000



写真79
上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡調査地全景 西から

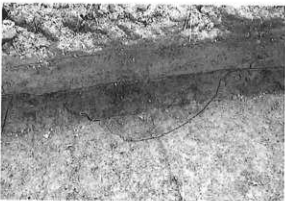


写真80
上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡遺構検出状況

24 両迫間日渡遺跡B地点

所在地：玉名字御琴1186外2筆

調査原因：共同住宅建設

対象面積：1,089㎡

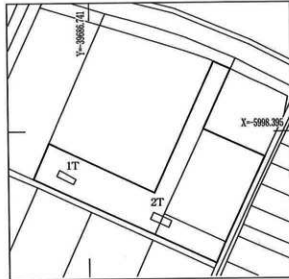
調査期間：19年2月21日

担当者：兵谷有利

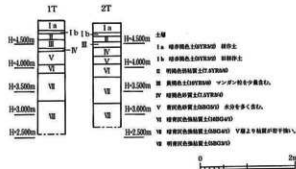
調査地は、菊池川右岸の玉名平野中央やや北よりに位置する、標高5m程の地点である。調査時の状況は水田であった。

調査では、建築予定地に2ヶ所のトレンチを設定した。I層は耕作土、II層は明褐色弱粘質土、III層はマンガン粒を少量含む黄褐色土、IV層は暗褐色砂質土、V層は青灰色砂質土、VI、VII層は暗青灰色強粘質土、VIII層は明青灰色強粘質土であった。南側隣接地での、新幹線新玉名駅周辺整備事業に伴う確認調査では、VI層の上面で遺構、遺物が確認されたが、当地では、各層から遺構、遺物は確認されなかった。

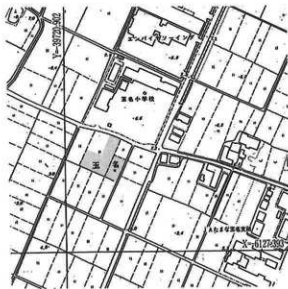
調査後の措置は、慎重工事である。



第201図 両迫間日渡遺跡B地点トレンチ配置図 S=1/1,000



第202図 両迫間日渡遺跡B地点土層断面図



第200図 両迫間日渡遺跡B地点位置図 S=1/5,000



写真81 両迫間日渡遺跡B地点1T土層断面 南から

26 五郎丸遺跡B地点

所在地：山田416

調査原因：宅地造成

対象面積：881m²

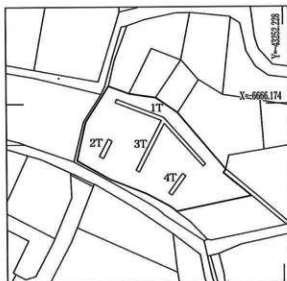
調査期間：19年2月28日

担当者：兵谷有利

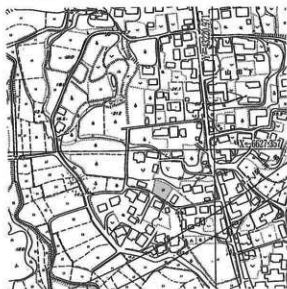
調査地は、境川とその支流山田川に挟まれた、小代山南側丘陵南端部に位置する、標高16.8m程の地点である。調査時の状況は畑地であった。

調査では、敷地内に4ヶ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、Ⅰ層は耕作土、Ⅱ層は旧耕作土、Ⅲ層は黄褐色土であり、遺構、遺物は確認されなかった。

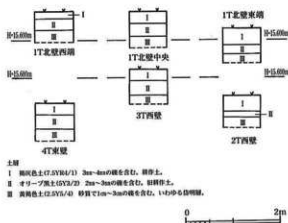
調査後の措置は慎重工事である。



第207図 五郎丸遺跡B地点トレンチ配置図 S=1/1,000



第206図 五郎丸遺跡B地点位置図 S=1/15,000



第208図 五郎丸遺跡B地点土層断面図



写真82 五郎丸遺跡B地点3T全景 南から



写真83 五郎丸遺跡B地点3T土層断面 東から

28 山田山口遺跡

所在地：山田1048-1外1筆

調査原因：宅地造成

対象面積：1,062㎡

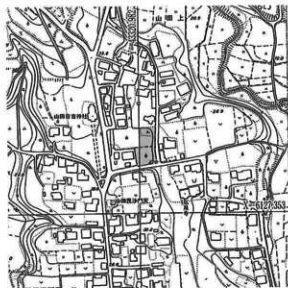
調査期間：19年3月1日～3月2日

担当者：末永 崇

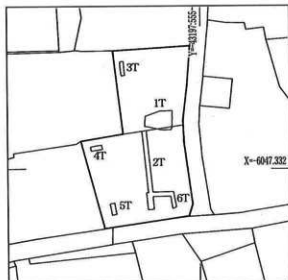
調査地は、境川右岸の扇状地に面した、小代山南側丘陵部から緩やかに延びる台地上に位置する、標高29m程の地点である。調査時の状況は畑地であった。

調査では、敷地内に6ヶ所のトレンチを設定した。耕作土であるⅠ～Ⅳ層下に、無遺物層であるⅤ～Ⅷ層が確認された。遺物は、Ⅰ～Ⅳ層で近世から近代の土器片少量を確認したのみで、遺構は確認されなかった。このことから、当地は畑地化する際に大きく削平されており、埋蔵文化財は残存していないと判断した。

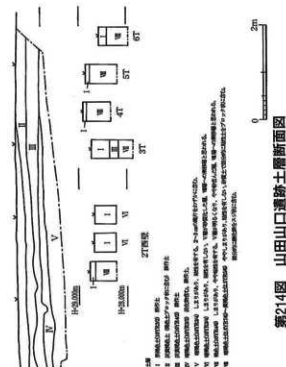
調査後の措置は、慎重工事である。



第212図 山田山口遺跡調査地位位置図 S=1/5,000



第213図 山田山口遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第214図 山田山口遺跡土層断面図

29 中土西遺跡

所在地：岱明町浜田120

調査原因：学校施設建設（屋内運動場）

対象面積：1,272㎡

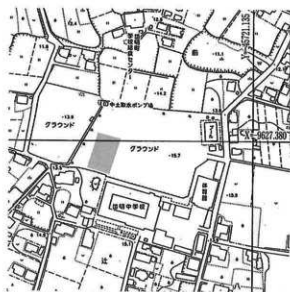
調査期間：19年3月14日～3月15日

担当者：藪父雅史

調査地は、玉名市の南西部、境川と友田川に挟まれた玉名台地南側の標高13m程の地点である。調査時の状況は、中学校のグラウンドであった。

調査では、屋内運動場建設予定地に7ヶ所のトレンチを設定した。Ⅰ～Ⅲ層は、グラウンド造成に伴う客土及び整地層、Ⅳ、Ⅴ層は黒褐色土、Ⅵ層は灰褐色土、Ⅶ層は褐色土、Ⅷ層は灰黄褐色土、Ⅸ層はにぶい黄褐色土、Ⅹ層は褐色のローム層であった。このうち、Ⅳ層で縄文時代及び弥生時代の土器細片を少量確認したが、その他に遺構、遺物は確認されなかった。

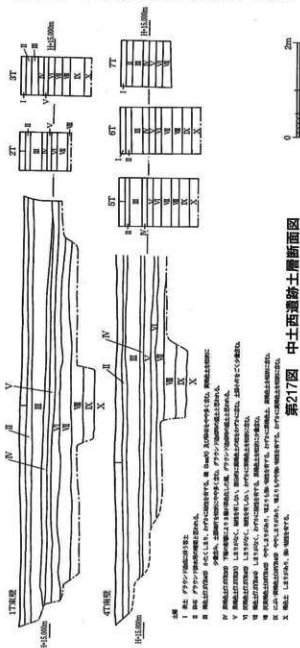
調査後の措置は、慎重工事である。



第215図 中土西遺跡調査地位図 S=1/5,000



第216図 中土西遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第217図 中土西遺跡断面図

30 伊倉南方ホームセンター予定地

所在地：伊倉南方247-1外1筆

調査原因：店舗建設

対象面積：4,913.44㎡

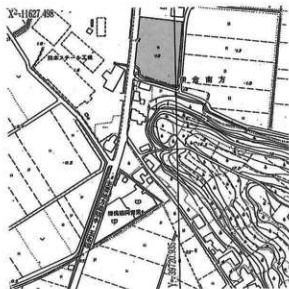
調査期間：19年3月22日

担当者：齋父雅史

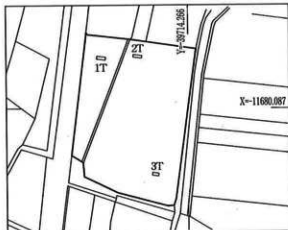
調査地は、唐人川と尾田川合流部北東側の、伊倉丘陵性台地西端裾部に接する平野部に位置する、標高1m程の地点である。調査時の状況は、水田及び客土による造成地であった。

調査では、敷地内に3ヶ所のトレンチを設定した。内2、3トレンチ設定部は約70cmの盛りが行われていた。各トレンチとも、I層は水田耕作土、II、III層は水田床土であろう褐灰色土、IV層は暗灰色土、V、VI層は暗オリーブ灰色土、VII、VIII層はオリーブ灰色土、IX層は貝殻を多量に混入するオリーブ黒色土であった。各層から遺構、遺物は確認されなかった。IX層に貝殻が多量に混入するが、干拓以前の旧海岸部であった頃の堆積層と考えられる。

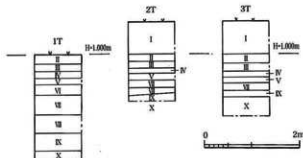
調査後の措置は、慎重工事である。



第218図
伊倉南方ホームセンター予定地位置図 S=1/5,000



第219図
伊倉南方ホームセンター予定地トレンチ配置図 S=1/2,000



- 土層
- I 水田耕作土
 - II 水田耕作土
 - III 暗灰色土(耕作層) 盛り土が中々、暗色を帯び、厚約10cm程度あり、水田耕作土と認められ、
 - IV 暗灰色土(耕作層) 中々盛り土が中々、暗色を帯び、厚約10cm程度あり、
 - V 暗灰色土(耕作層) 中々盛り土が中々、暗色を帯び、厚約10cm程度あり、
 - VI 暗オリーブ灰色土(耕作層) 盛り土が中々、暗色を帯び、厚約10cm程度あり、
 - VII 暗オリーブ灰色土(耕作層) 盛り土が中々、暗色を帯び、厚約10cm程度あり、
 - VIII 暗オリーブ灰色土(耕作層) 盛り土が中々、暗色を帯び、厚約10cm程度あり、
 - IX オリーブ黒色土(耕作層) 盛り土が中々、暗色を帯び、厚約10cm程度あり、
 - X オリーブ黒色土(耕作層) 盛り土が中々、暗色を帯び、厚約10cm程度あり、

第220図
伊倉南方ホームセンター予定地土層断面図



写真84 伊倉南方ホームセンター予定地全景 西から

31 玉名高校校庭遺跡

所在地：中1908-8外2筆

調査原因：店舗兼住宅建設

対象面積：224㎡

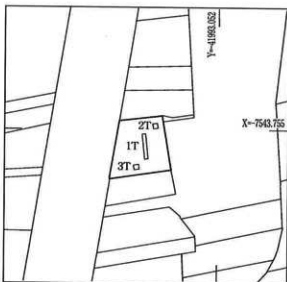
調査期間：19年3月29日～3月30日

担当者：中村安宏

調査地は、玉名市のほぼ中央部、菊池川右岸の玉名平野西側に面した玉名台地上の標高16m程の地点である。調査時の状況は、既存建物解体後の更地であった。

調査では、敷地内に3ヶ所のトレンチを設定した。I層からV層までは、現代の客土及び攪乱層、VI層はしまりのある黒褐色土、VII層はしまりのある暗褐色土、VIII層はしまりがあり粘性の強い褐色土であった。各トレンチから遺構、遺物は確認されなかった。

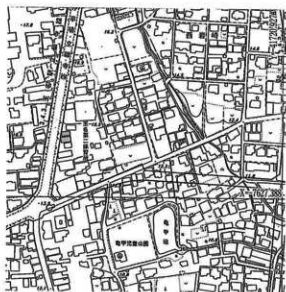
調査後の措置は、慎重工事である。



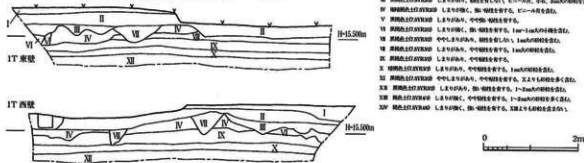
第222図 玉名高校校庭遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



写真85 玉名高校校庭遺跡調査地全景 西から



第221図 玉名高校校庭遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第223図 玉名高校校庭遺跡土層断面図

土層

I 現代の埋め戻し

II 埋め戻し層の攪乱層

III 黒褐色土の埋め戻し層 しまりがあり、粘性が強い。0.1~0.5m、中層、30cm以内の埋め戻し層。

IV 暗褐色土の埋め戻し層 しまりがあり、粘性が強い。0.1~0.5m、中層、30cm以内の埋め戻し層。

V 褐色土の埋め戻し層 しまりがあり、粘性が強い。0.1~0.5m、中層、30cm以内の埋め戻し層。

VI 黒褐色土の埋め戻し層 しまりがあり、粘性が強い。1.0m~1.5m以内の埋め戻し層。

VII 暗褐色土の埋め戻し層 しまりがあり、粘性が強い。1.5m以内の埋め戻し層。

VIII 褐色土の埋め戻し層 しまりがあり、粘性が強い。1.5m以内の埋め戻し層。

IX 暗褐色土の埋め戻し層 しまりがあり、粘性が強い。1.5m以内の埋め戻し層。

X 褐色土の埋め戻し層 しまりがあり、粘性が強い。1.5m以内の埋め戻し層。

XI 暗褐色土の埋め戻し層 しまりがあり、粘性が強い。1.5m以内の埋め戻し層。

XII 褐色土の埋め戻し層 しまりがあり、粘性が強い。1.5m以内の埋め戻し層。

XIII 暗褐色土の埋め戻し層 しまりがあり、粘性が強い。1.5m以内の埋め戻し層。

XIV 褐色土の埋め戻し層 しまりがあり、粘性が強い。1.5m以内の埋め戻し層。

XV 暗褐色土の埋め戻し層 しまりがあり、粘性が強い。1.5m以内の埋め戻し層。

XVI 褐色土の埋め戻し層 しまりがあり、粘性が強い。1.5m以内の埋め戻し層。

XVII 暗褐色土の埋め戻し層 しまりがあり、粘性が強い。1.5m以内の埋め戻し層。

XVIII 褐色土の埋め戻し層 しまりがあり、粘性が強い。1.5m以内の埋め戻し層。

32 石貫ナギノ横穴群

所在地：石貫2951外

調査原因：整備に伴う測量調査

対象面積：1,500㎡

調査期間：19年3月8日～3月30日

担当者：末永 崇

調査地は、繁根木川右岸の凝灰岩崖面に位置している。現在48基の横穴墓が確認されており、今回は、その中の3号墓～12号墓前庭部に相当する範囲の地形測量を行った。平成15年度には、今後の保護と活用を目的とした確認調査を実施した。調査では、前庭部の9ヶ所にトレンチを設定し、須恵器片などの遺物を確認したが、部分的な調査のため、全体の状況を十分に把握するには至っていない。

測量図原因は、10cm単位の等高線により、1/100スケールで作成した。測量に使用した基準点及び水準点は、昭和60年度玉名市地籍調査事業で設置された三角点K1・K2の座標値を使用した。今回の測量では、平成15年の確認調査時に、光波測距儀を用い、放射法によりそれぞれの点を後視点として設置したK1-1～K1-9、K2-1～K2-5のうち、K2-3・K2-4を使用し、さらに測量範囲に補助点を設置した。オートレベルにより標高を測った点を光波測距儀で計測して地形図を作成した。座標値は、日本測地系第2系に基づいており、方角は座標北を示す。測量図中の3～12号墓は、飾縁のカドの座標を計測し、『石貫ナギノ・石貫穴観音横穴群—熊本県菊池川流域における横穴墓研究(1)—』の平面図を測量図中に挿入した。

横穴墓が築かれている凝灰岩の崖面は崩落が激しく、特に10号墓は奥壁が残るのみで前部はすでに崩落している。平成15年度の確認調査時に、9～12号墓の前に設定した第4トレンチでは、崖面から崩落したとみられる凝灰岩片が多量に検出された。また、昭和63年に3～4

号墓にかけての崖面上部が崩れ、前庭部に多くの土砂が堆積した。以上の状況から、横穴墓築造当時の地形は、今回測量した範囲においては、大部分が埋没しており、発掘調査も含め、今後継続して調査を行う必要があると考えられる。

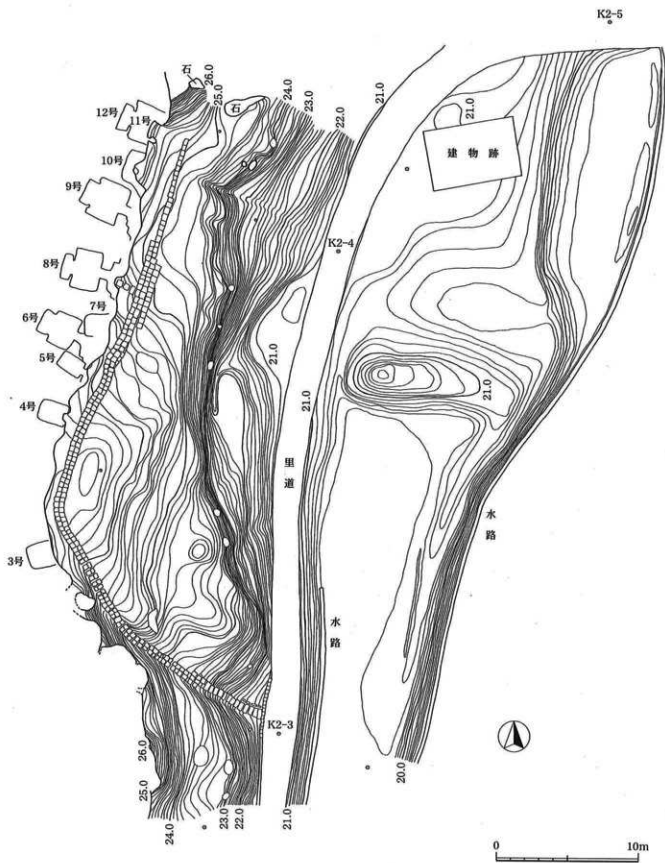


第224図 石貫ナギノ横穴群位置図 S=1/5,000



写真86 石貫ナギノ横穴群所在地遠景 東から

III 平成18年度の調査



第225図 石貫ナギノ横穴群測量図

33 ジュルクン谷製鉄跡

所在地：三ツ川字宮田4323

調査原因：測量調査

対象面積：2,100m²

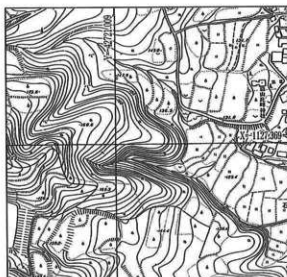
調査期間：18年9月1日～10月11日

担当者：荒木隆宏

調査地は、小代山の最高峰筒ヶ岳（501m）東方の山腹に位置する、標高140m程の小さな谷間である。平成18年4月4日に、土地所有者から埋蔵文化財らしきものを発見したとの連絡を受け、4月7日に現地確認及び周辺の踏査を行った。この谷は、常時水が流れており、地元では「ジュルクン谷」と呼ばれている。この谷では、昭和30年代まで階段状の小規模な水田が営まれていたらしく、現状でも数枚の平坦部を確認することができる。その旧水田の一部（5m×8m程の範囲）に鉄滓、土器片、炉壁片、炭化物等の散布が認められた。旧状は平坦であったものが、現状では流水による浸食で中央部分が高く残り、周囲が低く削り取られている。北側斜面の一部が崩落し、中央部に流れ堆積した可能性も考えられるが、未発掘のため明らかでない。遺物の散布は、谷の北側斜面から中央部の高まりにかけて見られるが、流路となっている高まり北側部分は、より深く削り取られ、遺物の散布範囲が分断されている。また現時点では、この谷間の他の地点における遺物の散布は確認していない。

なお、ジュルクン谷北側の尾根を挟んだ谷間には「カナクソ原」と呼ばれる場所があり、かつて耕作されていた頃には、多量の鉄滓が散布していたらしいが、今回の現地確認では、鉄滓の散布は確認できなかった。そこには、刀鍛冶がいたとの伝承があり、付近には五輪塔の地輪など石塔残欠が存在している。

この遺跡は新発見の遺跡であり、また現在荒蕪地となっており、流水等による地形変化が予



第226図
ジュルクン谷製鉄跡調査地位図 S=15,000



写真87 ジュルクン谷製鉄跡近影 東から

想されたため、現状の地形測量を行った。今後引き続き周辺の測量調査を行い、炉の残存状態など内容把握のための発掘調査も行う予定である。

表面採集した遺物には、鉄分が溶着した炉壁片のほか、精錬滓等がある。中でも、ほぼ完形のフイゴ羽口が流路部分から採集されている。残存長20cm、外径約10cm、孔径約4.5cmで、上部が僅かに内湾し、表面には砂粒がこびり付いている。また、高熱により黒化した範囲から、装着状況の推定が可能である。

III 平成18年度の調査



写真88 ジュルクン谷製鉄跡遺景 東から



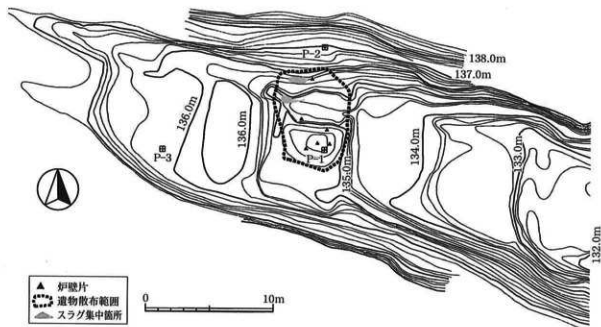
写真89 ジュルクン谷製鉄跡遺物散布状況



写真90 ジュルクン谷製鉄跡表探遺物



写真91 ジュルクン谷製鉄跡表探フィゴ羽口



P-1座標 (X=-1153.869 Y=-42673.627)

第227図 ジュルクン谷製鉄跡測量図

III 平成18年度の調査

第4表 平成18年度出土遺物類表

調査番号	遺物名	出土位置	種別	部位	口縁	底径	器高	器容量	調査(外)	調査(内)	色調(外)	色調(内)	出土	備考
1	年の神楽舞	高田区 5-01	瓦葺(石)	床	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
2	年の神楽舞	高田区 5-07	瓦葺(石)	床	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
3	年の神楽舞	高田区 5-07	瓦葺(石)	床	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
4	年の神楽舞	高田区 5-07	瓦葺(石)	床	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
5	年の神楽舞	高田区 5-07	瓦葺(石)	床	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
6	年の神楽舞	高田区 5-07	瓦葺(石)	床	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
7	年の神楽舞	高田区 5-07	瓦葺(石)	床	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
8	年の神楽舞	高田区 5-07	瓦葺(石)	床	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
9	年の神楽舞	高田区 5-07	瓦葺(石)	床	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
10	年の神楽舞	高田区 5-07	瓦葺(石)	床	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
11	年の神楽舞	高田区 5-07	瓦葺(石)	床	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
12	土ノ上遺跡	高田区 67-4	土葺(弥生時代中期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
13	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
14	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
15	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
16	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
17	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
18	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
19	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
20	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
21	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
22	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
23	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
24	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
25	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
26	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
27	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
28	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
29	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
30	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
31	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
32	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
33	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
34	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—
35	玉名野原 高田遺跡	高田区 a	土葺(弥生時代前期)	土葺	不明	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—

()内は保存庫番

III 平成18年度の調査

第4表 平成18年度出土遺物観察表

調査 番号	遺 址 名	出土地点	種 類	器 位	口径cm	底径cm	胴高cm	脚高cm	調査(外)	調査(内)	色調(外)	色調(内)	土 質	備考
107	玉名平野系遺跡	調査Ⅱ区	須恵型(古代)	所	不明	11.5	9.0	0.0	ロクロ子午	ロクロ子午	灰色 NS/	灰色 NS/	1cm以下の白色砂状を含む。	灰
108	玉名平野系遺跡	調査Ⅱ区	須恵型(古代)	底	不明	11.8	—	—	不明	不明	灰色 NS/	灰色 NS/	1cm以下の白色砂状を含む。	灰
109	玉名平野系遺跡	調査Ⅱ区	須恵型(古代)	口縁部	13.6	—	(17.3)	—	不明	不明	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	微細な白色砂状を含む。	灰
110	玉名平野系遺跡	調査Ⅱ区	須恵型(古代)	口縁部	9.4	不明	(2.2)	不明	不明	不明	褐色色 7.5YR6/1	褐色色 7.5YR6/2	粗入粒なし。	不良
111	玉名平野系遺跡	調査Ⅱ区	須恵型(古代)	丸玉	不明	長径(5.7)	短径(1.6)	不明	不明	不明	白濁 灰白色 10YR6/1	白濁 灰白色 10YR6/2	粗入粒なし。	灰
112	玉名平野系遺跡	調査Ⅱ区	須恵型(古代)	丸玉	不明	不明	不明	不明	不明	不明	凸面 灰白色(5N6)	凸面 灰白色(5YR6)	粗入粒なし。	灰
113	玉名平野系遺跡	調査Ⅱ区	須恵型(古代)	丸玉	不明	不明	不明	不明	不明	不明	灰褐色 10YR6/1	灰褐色色 10YR6/2	粗入粒なし。	灰
114	玉名平野系遺跡	調査Ⅱ区	須恵型(古代)	丸玉	不明	不明	不明	不明	不明	不明	灰褐色 10YR6/2	灰褐色色 10YR6/3	粗入粒なし。	灰
115	玉名平野系遺跡	調査Ⅱ区	須恵型(古代)	丸玉	不明	不明	不明	不明	不明	不明	灰褐色 10YR6/2	灰褐色色 10YR6/3	粗入粒なし。	灰
116	玉名平野系遺跡	調査Ⅱ区	須恵型(古代)	丸玉	不明	不明	不明	不明	不明	不明	灰褐色 10YR6/2	灰褐色色 10YR6/3	粗入粒なし。	灰
117	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	56.8	不明	5.2	64.3	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
118	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	54.4	不明	6.4	61.3	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
119	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
120	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
121	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
122	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
123	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
124	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
125	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
126	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
127	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
128	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
129	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
130	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
131	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
132	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
133	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
134	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
135	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
136	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
137	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
138	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
139	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良
140	古田遺跡	4T 5-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	不明	不明	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	粗入粒なし。	中々良

1) 14は底片観察

III 平成18年度の調査

第4表 平成18年度出土土物観察表

番号	遺跡名	地区	墳形	墓位	口部	底径	貯存容量	調査年	調査日	調査時	土質	色調(内)	色調(外)	土質(内)	土質(外)	備考
176	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部~底部	不明	不明	(4.2)	不明	不明	灰褐色 10YR8/4	灰褐色 10YR8/4	灰褐色 10YR8/4	不明	不明	黒い褐色~黒色。 1~2mm程度の自然砂を多く含む。 10YR8/4の自然砂を多く含む。 黒い褐色を多く含む。
177	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	34.0	不明	(3.9)	不明	不明	灰褐色 5YR8/4	灰褐色 5YR8/4	明褐色 7.5YR7/6	不明	不明	中～小片
178	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部~底部	24.0	不明	(4.6)	不明	不明	灰褐色 10YR8/6	灰褐色 10YR8/6	灰褐色 10YR8/6	不明	不明	中～小片
179	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	34.0	不明	(3.9)	不明	不明	灰褐色 5YR8/4	灰褐色 5YR8/4	明褐色 7.5YR7/6	不明	不明	中～小片
180	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	22.4	不明	(3.3)	不明	不明	灰褐色 7.5YR8/6	灰褐色 7.5YR8/6	明褐色 10YR8/6	不明	不明	中～小片
181	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部~	22.9	不明	(3.0)	不明	不明	灰褐色 7.5YR8/6	灰褐色 7.5YR8/6	明褐色 10YR8/6	不明	不明	中～小片
182	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	(1.8)	不明	不明	灰褐色 10YR8/2	灰褐色 10YR8/2	明褐色 10YR8/2	不明	不明	中～小片
183	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	(1.8)	不明	不明	灰褐色 10YR8/2	灰褐色 10YR8/2	明褐色 10YR8/2	不明	不明	中～小片
184	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	(1.8)	不明	不明	灰褐色 10YR8/2	灰褐色 10YR8/2	明褐色 10YR8/2	不明	不明	中～小片
185	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	(1.8)	不明	不明	灰褐色 10YR8/2	灰褐色 10YR8/2	明褐色 10YR8/2	不明	不明	中～小片
186	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部~口縁	不明	不明	(4.5)	不明	不明	灰褐色 7.5YR7/6	灰褐色 7.5YR7/6	明褐色 10YR8/4	不明	不明	中～小片
187	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部~底部	22.8	不明	(12.0)	不明	不明	灰褐色 10YR7/6	灰褐色 10YR7/6	明褐色 10YR7/4	不明	不明	中～小片
188	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	(1.3)	不明	不明	灰褐色 7.5YR7/6	灰褐色 7.5YR7/6	明褐色 10YR7/6	不明	不明	中～小片
189	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	(3.2)	不明	不明	灰褐色 7.5YR8/6	灰褐色 7.5YR8/6	明褐色 10YR8/6	不明	不明	中～小片
190	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部~底部	不明	不明	(17.1)	不明	不明	灰褐色 10YR8/4	灰褐色 10YR8/4	明褐色 10YR8/4	不明	不明	中～小片
191	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	10.2	(16.1)	不明	灰褐色 10YR8/4	灰褐色 10YR8/4	明褐色 10YR8/4	不明	不明	中～小片
192	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	9.2	(8.0)	不明	灰褐色 10YR8/4	灰褐色 10YR8/4	明褐色 10YR8/4	不明	不明	中～小片
193	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	9.6	(5.6)	不明	灰褐色 10YR8/4	灰褐色 10YR8/4	明褐色 10YR8/4	不明	不明	中～小片
194	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	8.6	(5.1)	不明	灰褐色 10YR8/4	灰褐色 10YR8/4	明褐色 10YR8/4	不明	不明	中～小片
195	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	9.0	(6.4)	不明	灰褐色 10YR8/4	灰褐色 10YR8/4	明褐色 10YR8/4	不明	不明	中～小片
196	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	9.4	(5.4)	不明	灰褐色 10YR8/4	灰褐色 10YR8/4	明褐色 10YR8/4	不明	不明	中～小片
197	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	8.3	(6.0)	不明	灰褐色 10YR8/4	灰褐色 10YR8/4	明褐色 10YR8/4	不明	不明	中～小片
198	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	9.8	(5.2)	不明	灰褐色 10YR8/4	灰褐色 10YR8/4	明褐色 10YR8/4	不明	不明	中～小片
199	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	8.6	(4.0)	不明	灰褐色 10YR8/4	灰褐色 10YR8/4	明褐色 10YR8/4	不明	不明	中～小片
200	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	13.8	(8.1)	不明	灰褐色 10YR8/4	灰褐色 10YR8/4	明褐色 10YR8/4	不明	不明	中～小片
202	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	10.8	(17.8)	不明	灰褐色 10YR8/4	灰褐色 10YR8/4	明褐色 10YR8/4	不明	不明	中～小片
203	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	9.2	(1.6)	不明	灰褐色 10YR8/2	灰褐色 10YR8/2	明褐色 10YR8/2	不明	不明	中～小片
204	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	12.1	(1.7)	不明	灰褐色 10YR8/2	灰褐色 10YR8/2	明褐色 10YR8/2	不明	不明	中～小片
205	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	10.2	(12.5)	不明	灰褐色 10YR8/4	灰褐色 10YR8/4	明褐色 10YR8/4	不明	不明	中～小片
206	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	14.0	(5.0)	不明	灰褐色 10YR8/4	灰褐色 10YR8/4	明褐色 10YR8/4	不明	不明	中～小片
207	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	12.8	(11.0)	不明	灰褐色 10YR8/4	灰褐色 10YR8/4	明褐色 10YR8/4	不明	不明	中～小片
208	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	9.5	(12.4)	不明	灰褐色 10YR8/4	灰褐色 10YR8/4	明褐色 10YR8/4	不明	不明	中～小片
210	古墳群跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口部	不明	不明	(11.8)	(12.2)	不明	灰褐色 10YR8/3	灰褐色 10YR8/3	明褐色 10YR8/3	不明	不明	中～小片

()内は取得数量

第4表 平成18年度出土土物観察表

調査 番号	遺 跡 名	種 類	部 位	口 径	底 径	器 身 厚 目 録	調 査 (外)	調 査 (内)	色 相 (外)	色 相 (内)	土 質	備 考
211	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	高杯	不明	25.4	不明	不明	丹塗	黄褐色 10YR6/6	丹塗 赤褐色 2.5YR4/6	1mm以下の自然砂粒を多量に含む。細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片
212	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	高杯	不明	20.6	不明	ナナク	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 10YR6/3	細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片
213	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	鉢小	不明	13.0	不明	ナナク	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	10YR6/3	細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片
214	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	器台小	不明	13.8	不明	ナナク	褐色 5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR6/3	10YR6/3	細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片
215	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	器台小	不明	13.1	不明	ナナク	黄褐色 7.5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR6/3	10YR6/3	細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片
216	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	器台小	不明	13.6	不明	ナナク	黄褐色 7.5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR6/3	10YR6/3	細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片
217	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	器台小	不明	13.6	不明	ナナク	黄褐色 7.5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR6/3	10YR6/3	細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片
218	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	器台小	不明	14.4	不明	ナナク	黄褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	10YR6/3	細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片
219	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	器台小	不明	14.4	不明	ナナク	黄褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	10YR6/3	細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片
220	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	器台小	不明	17.1	不明	ナナク	黄褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	10YR6/3	細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片
221	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	器台小	不明	13.6	不明	ナナク	黄褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	10YR6/3	細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片
222	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	器台小	不明	13.6	不明	ナナク	黄褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	10YR6/3	細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片
223	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	器台小	不明	13.6	不明	ナナク	黄褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	10YR6/3	細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片
224	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	器台小	不明	13.6	不明	ナナク	黄褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	10YR6/3	細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片
225	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	器台小	不明	13.6	不明	ナナク	黄褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	10YR6/3	細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片
226	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	器台小	不明	13.6	不明	ナナク	黄褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	10YR6/3	細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片
227	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	器台小	不明	13.6	不明	ナナク	黄褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	10YR6/3	細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片
228	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	器台小	不明	13.6	不明	ナナク	黄褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	10YR6/3	細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片
229	古岡遺跡	47 S-01 土器(弥生時代中期)	器台小	不明	13.6	不明	ナナク	黄褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	10YR6/3	細孔は少なく、表面は滑らかで、多少の凹凸がある。	中・小片

()内は保存数

報告書抄録

ふりがな		たまなしいいせきちょうさほうこくしよ						
書名		玉名市内道路調査報告書Ⅳ						
副書名		平成17・18年度調査						
巻次								
シリーズ名		玉名市文化財調査報告						
シリーズ番号		第17集						
編著者名		田中康雄						
編集機関		玉名市教育委員会						
所在地		〒869-0292 熊本県玉名市岱明町野口2129						
発行年月日		平成20年3月31日						
ふりがな 所収道路名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	道路番号					
平成17年度								
たまなへいぢりょうりあと ちてん 玉名平野糸里跡A地点	玉名市 玉名	43206	483	32° 56' 40"	130° 34' 41"	平成17年 4月 1日 と 平成18年 3月31日		個人住宅・ 共同住宅・ 道路・店舗 等各種開発
たかおかひいせき ちてん 高岡原道路A地点	玉名市 山田	43206	174	32° 56' 01"	130° 32' 42"			
いんげいせき 蓮華道路	玉名市 築地	43206	161	32° 56' 00"	130° 32' 12"			
かみおたかみちしんせいせき 上小田古屋敷道路	玉名市 山部田	43206	126	32° 57' 01"	130° 35' 21"			
たじまいせき 田島道路	玉名市 中	43206	181	32° 55' 41"	130° 32' 40"			
つしじやかたあと 築地筋路	玉名市 築地	43206	168	32° 56' 03"	130° 31' 53"			
たかおかひいせき ちてん 高岡原道路B地点	玉名市 山田	43206	174	32° 56' 13"	130° 32' 35"			
はねいせきとん ちてん 繁根木道路群A地点	玉名市 繁根木	43206	201	32° 55' 31"	130° 33' 33"			
たかおかひいせきとん 高瀬御茶屋跡	玉名市 永徳寺	43206	208	32° 55' 30"	130° 33' 40"			
りゅうがんにほいせき 立願寺殿寺	玉名市 立願寺	43206	094	32° 56' 28"	130° 33' 06"			
りゅうがんにほいせきとん 立願寺大塚古墳	玉名市 立願寺	43206	095	32° 56' 23"	130° 33' 25"			
いくらみちのあとせいせき 伊倉宮の後遺跡	玉名市 伊倉北方	43206	334	32° 54' 28"	130° 34' 40"			
はねいせきとん ちてん 繁根木道路群B地点	玉名市 繁根木	43206	201	32° 55' 40"	130° 33' 26"			
とんぱいふつてんじょうよじ地 凸版印刷工場予定地	玉名市 大倉	43206	—	32° 55' 13"	130° 34' 58"			
かむべいせき 川部田道路	玉名市 川部田	43206	415	32° 56' 34"	130° 35' 17"			
なかどしせいせき ちてん 中土西道路A地点	玉名市 岱明町中土	43361	088	32° 54' 43"	130° 30' 52"			
たかおかひいせき ちてん 高岡原道路C地点	玉名市 山田	43206	174	32° 56' 14"	130° 32' 39"			
たまなへいぢりょうりあと ちてん 玉名平野糸里跡B地点	玉名市 岡迫間	43206	483	32° 56' 31"	130° 34' 25"			
たまなへいぢりょうりあと ちてん 玉名平野糸里跡C地点	玉名市 六田	43206	486	32° 55' 16"	130° 32' 57"			
いねせきひいせき 岩崎原道路	玉名市 岩崎	43206	219	32° 56' 00"	130° 33' 19"			
やまだじんじやんげんせいせき 山田神社門前道路	玉名市 山田	43206	408	32° 56' 25"	130° 57' 13"			
かめのこうせいせき 亀甲道路	玉名市 亀甲	43206	190	32° 55' 41"	130° 33' 09"			
なかんじょうせいせき 中ん成道路	玉名市 片岡跡	43206	324	32° 54' 11"	130° 34' 38"			
なかどしせいせき ちてん 中土西道路B地点	玉名市 岱明町山下	43361	088	32° 54' 46"	130° 30' 41"			
おだつち ちてんせいせき 大塚・惣萩道路	玉名市 立願寺	43206	100	32° 56' 18"	130° 33' 31"			
たかおかひいせき ちてん 高岡原道路D地点	玉名市 山田	43206	219	32° 56' 11"	130° 32' 34"			
はないでいせき 香出道路	玉名市 中	43206	182	32° 55' 48"	130° 32' 30"			
としのなかせいせき 年の神道路	玉名市 岱明町野口	43361	039	32° 55' 07"	130° 31' 50"			
まぐらわいせき 菊池川水道・水制調査	玉名市 菊池川兩岸	43206	—	—	—			

報告書抄録

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
としのかみせき 年の神遺跡	玉名市 岱明町野口	43361	039	32° 55' 07"	130° 31' 50"	平成18年 4月 1日 、 平成19年 3月31日	個人住宅・ 共同住宅・ 道路・店舗 等 各種開発		
たなまへいせき 玉名平野泉里跡A地点	玉名市 岩崎	43206	483	32° 56' 02"	130° 33' 43"				
きょうつかりせき 京塚遺跡	玉名市 岱明町開田	43361	122	32° 56' 12"	130° 30' 59"				
たなまへいせき 玉名平野泉里跡B地点	玉名市 両迫間	43206	483	32° 56' 31"	130° 34' 25"				
たかせんじんせき 高瀬水町遺跡	玉名市 高瀬	43206	211	32° 55' 37"	130° 34' 00"				
じょうつかりせき 上ノ辻遺跡	玉名市 玉名	43206	499	32° 57' 20"	130° 36' 38"				
はねいせき 繁根木遺跡群	玉名市 繁根木	43206	201	32° 55' 38"	130° 33' 27"				
れんげいせき 蓮華遺跡	玉名市 築地	43206	161	32° 56' 02"	130° 32' 09"				
つとねのけいせき 築地東遺跡	玉名市 築地	43206	164	32° 56' 05"	130° 32' 05"				
いほいせき 今泉遺跡A地点	玉名市 岱明町上	43361	020	32° 55' 48"	130° 31' 07"				
りょうがらじせき 立願寺庚寺	玉名市 立願寺	43206	094	32° 56' 31"	130° 33' 09"				
やまだまつおいらいせき 山田松尾平遺跡	玉名市 山田	43206	084	32° 56' 39"	130° 32' 42"				
いわさきせき 岩崎原遺跡	玉名市 岩崎	43206	219	32° 55' 52"	130° 33' 14"				
なまかたせき 中北アカハグ古墳	玉名市 伊倉北方	43206	339	32° 55' 07"	130° 33' 51"				
いほいせき 今泉遺跡B地点	玉名市 岱明町上	43361	020	32° 55' 45"	130° 30' 59"				
たかあがりせき 高岡原遺跡	玉名市 中尾	43206	174	32° 56' 10"	130° 32' 32"				
ごうまふせき 五郎丸遺跡A地点	玉名市 山田	43206	063	32° 56' 21"	130° 32' 08"				
たなまへいせき 玉名平野泉里跡C地点	玉名市 岩崎	43206	483	32° 56' 14"	130° 33' 44"				
ひつちゅうせき 備中遺跡	玉名市 岱明町西照寺	43361	011	32° 56' 02"	130° 30' 11"				
よしまさのせいせき 吉九西遺跡	玉名市 寺田	43206	251	32° 55' 18"	130° 35' 01"				
こけいせき 古岡遺跡	玉名市 築地	43206	163	32° 56' 10"	130° 32' 13"				
なかのせいせき 中遺跡	玉名市 岱明町山下	43361	103	32° 54' 40"	130° 31' 15"				
おみだのせき 上小田宮の前遺跡	玉名市 上小田	43206	050	32° 56' 59"	130° 35' 36"				
りょうせき 両迫間日遺跡	玉名市 玉名	43206	138	32° 56' 42"	130° 34' 31"				
てらくせいせき 寺田久保遺跡	玉名市 寺田	43206	253	32° 55' 36"	130° 35' 23"				
ごうまふせき 五郎丸遺跡B地点	玉名市 山田	43206	063	32° 56' 20"	130° 32' 13"				
おのりしも 大野下ホームセンター予定地	玉名市 岱明町大野下	43361	—	32° 54' 38"	130° 30' 06"				
やまなかのせいせき 山田山口遺跡	玉名市 山田	43206	064	32° 56' 40"	130° 32' 16"				
なかのせいせき 中土西遺跡	玉名市 岱明町浜田	43361	088	32° 54' 28"	130° 30' 40"				
いくのみなふかた 伊倉南方ホームセンター予定地	玉名市 伊倉南方	43206	—	32° 53' 38"	130° 34' 31"				
たまなこうこうせいせき 玉名高校校庭遺跡	玉名市 中	43206	178	32° 55' 52"	130° 33' 02"				
いしのみせき 石貫ナギノ横穴群	玉名市 石貫	43206	014	32° 57' 47"	130° 34' 00"				
じゅるくんとんせいせき ジュルクン台製鉄跡	玉名市 三ツ川	43206	500	32° 59' 08"	130° 32' 42"				
田島遺跡	集落	弥生時代後期	中世	住居跡		弥生土器	中世土器		
高岡原遺跡	集落	弥生時代後期	古代	住居跡	土坑	ピット	弥生土器	須恵器	
立願寺庚寺	寺院跡	古代		溝状遺構			古代瓦	須恵器	土師器
年の神遺跡	墓地	弥生時代中期	古代	墓積墓	土坑		弥生土器	須恵器	土師器
古岡遺跡	集落	弥生時代中期		住居跡			弥生土器		

玉名市文化財調査報告 第17集

玉名市内遺跡調査報告書Ⅳ

平成17・18年度の調査

平成20年3月30日印刷

平成20年3月31日発行

編集発行 玉名市教育委員会
〒862-0292 玉名市岱明町野口2129

印刷 岱明印刷
〒869-0222 玉名市岱明町野口2281-2
TEL.0968-57-0141